

授業コード	41031		
授業科目名	アジア地域研究（前）		
担当者名	中村 都（ナカムラ ミヤコ）		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	水曜4限

講義の内容	東・東南アジアを中心に、政治体制、地域統合、民族紛争、日本との関係（歴史的関係を含む）、グローバルな課題でもある開発と環境、人権保障などについて学ぶ。
到達目標	東アジア・東南アジアについての報道に対する理解度を高める。
講義方法	配付資料のほか、映像資料を使い、講義する。
準備学習	日頃、新聞やテレビなどによる報道に接し、何が起きているか、どのような問題があるかを知っておくようにする。
成績評価	授業中や課題のレポートで総合的に評価する。
講義構成	第1回～第3回： アジア地域概観（経済、政治、社会、文化） 第4回～第6回： 日本と東・東南アジアの関係（歴史、現代） 第7回： アジアにおける地域統合 第8回～第10回： 開発と環境 第11回～第12回： 民族紛争 第13回～第14回： 政治体制と人権保障
教科書	未定。
参考書・資料	プリント資料を配付の予定。

授業コード	41015		
授業科目名	アジア法（後）		
担当者名	七野敏光（シチノ トシミツ）		
配当年次	3・4年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	金曜2限

講義の内容	中華人民共和国婚姻法（家族法）を中心に講義を行う。夫婦別姓（中国人夫婦は普通別姓である）、及び一人っ子政策（一九八〇年代以降の中国に行われる、一組の夫婦は原則として一子しか出産してはならないとする人口抑制政策）という具体的で、かつ学生諸君にとっても比較的関心が高いと思われる話題に則して婚姻法を語ってゆく。その必要上当然に、婚姻法以外の中華人民共和国法や、台湾、韓国の家族法についても論及し、「アジア法」と呼ぶに相応しい講義内容としてゆく。婚姻法の知識を修得するばかりでなく、その法が行われる社会背景をも含めて理解できる講義にしたい。
到達目標	外国の法制度を学ぶことにより、わが国の法制度についてのより深みのある理解が得られれば幸いである。
講義方法	教科書を使用しないため、常時講義に出席し、ノートを完備しておくことが履修のために必須となる。
準備学習	特に必要としない。毎回の講義内容をその時間内に十分に理解するように努めてほしい。
成績評価	主として期末試験の成績で評価する。
講義構成	一．中華人民共和国婚姻法の概略 1．中国における家族法の歴史 2．中華人民共和国婚姻法の基本原則 二．中国人と姓 1．中国における親族 2．同姓不婚の原則 3．夫婦及び子女の姓 三．一人っ子政策と婚姻法 1．近年中国における人口増加の背景 2．一人っ子政策の内容 3．一人っ子政策と婚姻法の改正 4．一人っ子政策の歪み
教科書	特に使用しない。

参考書・資料	講義中に指示する。
担当者から一言	異なる法の世界を垣間見ることにより、われわれ自身の法についての理解・認識を一層深めてもらいたい。概論とは一味違う興味を覚えさせる、そんな講義を目指している。

授業コード	41030		
授業科目名	アメリカ地域研究（後）		
担当者名	西山隆行（ニシヤマ タカユキ）		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	水曜1限
オフィスアワー	アポイントメントによる		

講義の内容	冷戦終焉から20年あまり経過し、日米安全保障条約改定から50年を迎える今日、日本とアメリカの関係は大きな変化を迎えつつある。日本にとって重要な同盟国であるアメリカとの関係を考える上では、アメリカの政治と社会のあり方を、基礎に立ち返って検討することが必要である。 2010年度のアメリカ地域研究では、アメリカの政治・社会が近年どのように変化しつつあるのかを、制度的な前提や歴史的背景にも立ち返りつつ、明らかにしたい。
到達目標	メディア等で発信される表面的で雑駁な情報に惑わされることなく、アメリカの内政と外交を深く理解することを目標とする。
講義方法	アウトラインに沿って講義を行う。アウトラインは教室で配布するか、生協で購入出来るようにする。詳細は第一回目の講義で説明する。
準備学習	時事問題も比較的多く扱うことになるので、各種ニュースを見る習慣をつけておいて下さい。アメリカ政治について予習したい場合は、久保文明／砂田一郎／松岡泰／森脇俊雅『アメリカ政治』（有斐閣、2006年）をおすすめします。
成績評価	学期末の試験による。希望者は、それに追加してテイク・ホーム・イグザムをうけることもできる。出席点はないが、講義中に他者の妨げになる学生については減点する。
講義構成	以下は仮の講義構成であり、アメリカ政治の変動等により、講義内容を変更することもありうる。 1. ガイダンスーアメリカの内政と外交の特徴 2. アメリカ例外主義とアメリカのナショナリズム 3. アメリカ合衆国憲法と統治構造（1） 4. アメリカ合衆国憲法と統治構造（2） 5. アメリカの多民族体制（1） 6. アメリカの多民族体制（2） 7. アメリカ型国家と政党制の変容 8. アメリカ型福祉国家 9. 環境政治と「グリーン・ニューディール」 10. モラルをめぐる政治とアメリカ政治の保守化？ 11. 国内秩序維持政策 12. アメリカの対外政策（1） 13. アメリカの対外政策（2） 14. 日米関係と今後のアメリカ政治の展望
教科書	特定の書籍に基づいて講義を行う予定はない。可能であれば、学期開始直後にプリント版で講義資料を作成し、購入出来るように手配したい。

授業コード	55C41		
授業科目名	インターンシップ・ボランティア（法）		
担当者名	島田 茂(シマダ シゲル)		
配当年次	1年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期(集中講義)、後期(集中講義)

講義の内容	企業・団体・地域社会と連携した直接的な社会体験・就業体験により、社会人としての基本的なマナーや、社会で求められる知識や能力について把握する。また、働くことの意味や重要性を理解することで、職業意識や就労
-------	--

	意識を形成し、自己の適職及びそれに必要な専門的能力を確認するとともに、責任感をもって自ら考え行動する姿勢を養う。
到達目標	就労体験により、社会で求められる知識や能力を認識し、職業観・就業意識を培う。
講義方法	インターンシップ・ボランティア先での就労体験を主とする。
準備学習	ビジネスマナー講座やオリエンテーション、コンプライアンス研修などで事前にビジネス社会についての常識や予備知識を学ぶ。
成績評価	活動に関するレポートおよび出席状況等により評価を決定する。
講義構成	(1)キャリアセンターが実施するガイダンスに出席すること インターンシップ 4月14日(水)または16日(金) 12:20～12:50 121講義室 ボランティア 4月13日(火)または15日(木) 12:20～12:50 121講義室 (2)インターンシップまたはボランティアを希望する者は、キャリアセンターに登録書の提出が必要。 期限:2010年5月13日(木)15:00 (3)キャリアセンターに紹介を希望する場合は、キャリアセンター委員会または受入企業・団体が面接を行い選考する。 (4)夏期休暇期間を利用して、60時間以上のインターンシップ・ボランティアに参加すること。 (5)活動に関するレポート(様式はキャリアセンターに問い合わせること)を指定期日までにキャリアセンターに提出すること。
教科書	特定の教科書は使用しません。
その他	参加者は、キャリアセンターが実施する事前研修と事後研修に参加することが望ましい。

授業コード	41013		
授業科目名	英米法I(英米公法) (後)		
担当者名	西田英一(ニシダ ヒデカズ)		
配当年次	3・4年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	月曜5限
オフィスアワー	火曜 12:20ー13:00		

講義の内容	本講義では、アメリカ憲法を中心に、アメリカの司法制度、法思想、さらにそれらの背後にある政治・社会・文化に関する基本知識を提供していく。はじめに他の法系と比べた英米法の基本的特徴について説明した後、憲法を通して見たアメリカ法システムの構造を概観し、最後に法・裁判の社会的意味・機能について考察する。
到達目標	アメリカ法の基本的特質について説明できる。
講義方法	パワーポイントファイルをスクリーン上で展開しながら進める。レジメ・ファイルは、すべてMyKONANの講義資料の中に置いておく(教室での配布は行わない)。
準備学習	MyKONANの講義資料に目を通しておくこと。
成績評価	期末試験の評価による。
講義構成	1. はじめに 2. 法の支配 3. 司法審査権 4. VTR “I Have a Dream” 5. ブラウン事件 6. 平等保護と司法 7. VTR “A Class Divided” 8. リーガル・リアリズム 9. VTR “Little Rock Nine” 10. 公共訴訟と司法の変容 11. 救済としての司法 12. 公共訴訟と司法の正統性 13. 公共訴訟の現代的意義と問題

	14. まとめ
教科書	特に指定しない。
参考書・資料	松井茂記『アメリカ憲法入門（第5版）』（有斐閣、2004） 木下毅『アメリカ公法』（有斐閣、1993） ケアリズ編（松浦・松井編訳）『政治としての法』（風行社、1991年） その他の参考文献については、講義中適宜紹介する。

授業コード	41014		
授業科目名	英米法Ⅱ(英米私法) (集中)		
担当者名	ジャオ(ジャオ ジェイソン ホセ)		
配当年次	3・4年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期(集中講義)、後期(集中講義)
特記事項	8月7日、21日、28日、9月4日、11日		

講義の内容	本講義では、アメリカ合衆国の司法制度、法律、統治に関する基礎知識を提供する。講義の中で、アメリカの法制度と日本およびフィリピンの法制度との類似性・差異についても検討する。
到達目標	アメリカ法の特徴を理解すると同時に、それとの比較から見た日本の法制度の特徴を理解・説明できる。
講義方法	講義および資料等は、主として英語を使用する。講義で視聴するビデオについては、できる限り日本語字幕付きのものを使用する予定である。
準備学習	受講者には、英語が得意であること、授業で配布する短い英語資料が読めることが期待される。
成績評価	成績評価は以下の3つの要素を総合して行う。 ①出席（50%） ②小レポートおよび討論への参加（15%） ③最終日の最後の時間に行う試験（35%）
講義構成	講義構成 概ね以下のような内容で行う予定である。 1.（8月7日） ●オリエンテーション ●アメリカの歴史と統治機構 ・憲法の歴史／統治機構／権力分立／州と連邦／法源の階層性／映画『スミス都へ行く』 2.（8月21日） ●当事者主義と陪審裁判 ・当事者主義の特徴と根拠／陪審制／陪審裁判におけるローヤーの役割／証拠法／当事者主義への批判／陪審制への批判／映画『十二人の怒れる男』 3.（8月28日） ●リーガル・プロフセッション ・法学教育と法曹への道／弁護士業務／法曹におけるマイノリティ・女性／法曹倫理／映画『ペーパー・チェイス』および映画『シビル・アクション』＜前半＞ 4.（9月4日） ●司法制度 ・法廷および裁判官／第一審裁判所および控訴審裁判所／州および連邦裁判所の構造と特徴／裁判官の選任／管轄権／連邦制／連邦および州裁判所の適用法／映画『シビル・アクション』＜後半＞ 5.（9月11日） ●合衆国大統領 ・任期・資格／選出／大統領職継承／責任と権力／行政機関／歴代大統領／映画『パーフェクト・カップル』 ●試験（最終時限に筆記または口頭で行う）
教科書	特に指定しない。
参考書・資料	講義時に適宜配布する。

授業コード	41M01		
授業科目名	演習（黒田）		
担当者名	黒田忠史(クロダ タダブミ)		
配当年次	3年次	単位数	4
開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期（火曜3限）、後期（火曜3限）
オフィスアワー	火曜日12時10分～12時50分。 その他E-Mailでの約束時間		

講義の内容	法史・比較法文化論。とりわけ今年度は、法律専門職の歴史、各国における法律専門職養成制度の特徴、現代におけるプロフェッション倫理と法的責任について考える。
到達目標	実社会において「法」を現実を生かす法律専門職の種類、それぞれの職業法と職業倫理、法的責任と道義的責任などについて理解を深め、それを通じて、大学で社会人としての「責任」について、たえず自省できるようになること。
講義方法	関連文献や論文、判例などを、ゼミ生が分担して調査・検討・報告し、全員で討論する。
準備学習	My Konanに掲載される毎回の演習資料、関連する参考文献を読み、議論に備える。
成績評価	基本的には、報告の質と討論への参加度で評価する。
講義構成	第1回～第3回 予備的作業（アイス・ブレイキング。ゼミで気楽に発言できるように、最近の具体的な法律問題、裁判事例を取り上げ、議論する。その際、法律専門家が果たした役割に留意する。さしあたりは、①非嫡出子相続分問題、②ハンセン病訴訟、③敷金・更新料返還訴訟、などを予定） 第4回～第10回 現代日本の法律専門職の実態、歴史と現状、資格取得法 第11回～第17回 各種法律専門職の職務範囲と越権行為の法的効果（いわゆる職際問題） 第18回～第26回 専門家の法的責任（守秘義務、誠実義務、真実義務、専門職自治、懲戒） 第27回～最終回 総括（現代における「プロフェッション」の役割）
教科書	特になし。
参考書・資料	個別テーマごとに、そのつど提示。

担当者から一言	自分の問題意識をもち、主体的にゼミに参加してほしい。
---------	----------------------------

授業コード	41M02		
授業科目名	演習（安西）		
担当者名	安西敏三(アンザイ トシミツ)		
配当年次	3年次	単位数	4
開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期（火曜3限）、後期（火曜3限）
オフィスアワー	随時		

講義の内容	日本の政治・法・社会に対する考え方を論じてきた古典の読解を通じて、混迷する現代に対処する視点を培うことを目的とする。
到達目標	学生として最低限の読解能力と発表能力、それに議論能力及び文章作成能力を養成することをお目指したい。
講義方法	前期に宮村治雄『日本政治思想史』を輪読し、後期には古典的史料を配布して、担当者のレジュメと発表、それに対する質疑応答と解説を加える方法で行う。
準備学習	担当者以外の参加者も、あらかじめ担当部分を各自、読んでおき、質問事項を作っておくこと。
成績評価	基本的には、報告の内容と受講態度、それに出席数による。
講義構成	前期：宮村治雄『日本政治思想史』の輪読 後期古典的史料の読解であるが、例示的に挙げれば、以下のようなものである。 聖徳太子「十七条の憲法」 関東御成敗式目 信玄家法 荻生徂徠「太平策」 本居宣長「宇比山踏」 福澤諭吉「西洋事情」 丸山真男「超国家主義の論理と心理」など

教科書	前期:宮村治雄『日本政治思想史』(日本放送出版協会)
講義関連事項	日本政治思想史Ⅰ,Ⅱを履修することを望む。
担当者から一言	関心のあるテーマについて、論文を執筆するならば、個別指導を行う。

授業コード	41M03		
授業科目名	演習（高野）		
担当者名	高野清弘（タカノ キヨヒロ）		
配当年次	3年次	単位数	4
開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期（火曜3限）、後期（火曜3限）
オフィスアワー	金曜日3時～4時		

講義の内容	プラトンの政治に関する主著『国家』を講読する。これ以外に、演習生各人が興味を抱くプラトンの対話編の小品を二・三、各人の研究対象とする。 これ以外に、楽しみながら政治を学びたいので、劇映画を課題として課し、それについて話し合うことも予定している。
到達目標	プラトンの考え方を大筋で理解すること。
講義方法	『国家』については、演習生全員がその週の箇所を読んでくること、分からない場合には、さかのぼって読み返してくること、ノートなど筆記用具を机の上に置いておくことを求める。また、難解な語句や事件、人物についてはネット利用も含め調べてくることを求める。
準備学習	その週の箇所を読んでくること。やむなく欠席した場合は、欠席した時に取り上げた箇所も読んでくること。
成績評価	平常点。ただし、事前連絡なく3回以上欠席した場合は、単位与えない。
講義構成	講義ではないので、記すことを得ない。
教科書	プラトン『国家』(岩波文庫)
参考書・資料	高野清弘『政治と宗教のはざま』(行路社、2009年)

担当者から一言	なるべく楽しく討論したいと思っています。私が語ることが常に正しいとは限らないことがらを論じ合いたいので、わたくしへの批判をあえて行うことを希望します。電子辞書をはじめ辞書をとにかく利用してください。
ホームページタイトル	丸山眞男を読む会
URL	http://www.osipp.osaka-u.ac.jp/yomukai/

授業コード	41M04		
授業科目名	演習（小泉）		
担当者名	小泉洋一（コイズミ ヨウイチ）		
配当年次	3年次	単位数	4
開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期（火曜3限）、後期（火曜3限）
オフィスアワー	火曜日昼休み		

講義の内容	具体的事例に憲法規定を解釈適用することを演習させる
到達目標	具体的場合に憲法に関する問題を発見し、その問題に対して憲法規定を解釈適用して問題は解決する能力を修得すること
講義方法	重要な憲法判例について、その事実と判決を理解させ、その論点を検討させ、それらを報告させるとともに、それを報告書にまとめさせる
準備学習	法学部専門科目のうち、憲法Ⅰ、憲法Ⅱを履修したこと。あるいは自学自習でそれと同等の憲法解釈学を勉強すること。未履修の者にはとくに努力が求められる。
成績評価	出席状況、判例の研究発表、判例に関するレポートを総合評価する。
講義構成	違憲審査権に関する判例 憲法判断に関する判例

	司法権の限界に関する判例 平和主義に関する判例 平等に関する判例 精神的自由に関する諸判例 経済的自由に関する諸判例 その他の判例
教科書	未定 はじめのうち必要に応じて資料を配布する。
参考書・資料	未定

担当者から一言	よく勉強すること
---------	----------

授業コード	41M05		
授業科目名	演習（西田）		
担当者名	西田英一（ニシダ ヒデカズ）		
配当年次	3年次	単位数	4
開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期（火曜3限）、後期（火曜3限）
オフィスアワー	火曜 12:20－13:00		

講義の内容	法のフィールドワーク —— “調べて考えて提案する” 本ゼミでは、自分の足でかき集めたナマの情報を編集しながら、社会の中の法のありようをフィールドワークを通して観察・考察していく。HPで見かけた見知らぬ人にメールを出す、カメラやテープをもって実際に街や企業や役所の窓口に出かけ、インタビューする、アンケート調査をしてみる。こうして、知識として知っていることと、自分たちが体感することとのずれの中から、法の可能性と限界について考察し、生き物としての法の「感じ」をつかんでもらうことをめざす。
到達目標	社会の中での法の働き方の一端を体験的に理解し、その問題点と可能性について他者に説明できるようになる。
講義方法	情報収集・分析・報告等の基本動作について説明し、それ以外は受講生自身の企画と実行活動を中心に置き、そのつど助言・支援を提供する。
準備学習	法社会学Ⅰ、Ⅱの単位を取得していることが望ましい。
成績評価	何度かの課題報告およびゼミ活動への貢献によって評価する。
講義構成	前半は、共通の課題を班に分かれて研究する。まず予備調査として、班ごとに街で撮ってきた写真を編集し、それをもとにテーマ候補を提示する（第1回合宿）。その後、班ごとのテーマに沿って、フィールドに出てデータの収集（インタビュー、アンケート等々）、分析を経て、PowerPointで最終プレゼンする。 後半は、個人ベースで調査研究する。前半に引き続きフィールドワークの方法等について説明する。前半のグループ研究で得た感覚と若干の度胸で、納得行くまで自分自身の問いを深めてもらう。年2回の合宿を予定。
教科書	特に指定しない。
参考書・資料	ゼミの中でそのつど紹介する。

授業コード	41M06		
授業科目名	演習（前田）(後)		
担当者名	前田忠弘（マエダ タダヒロ）		
配当年次	3年次	単位数	4
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	木曜4限 木曜5限
オフィスアワー	いつでも。予約をしてもらえれば確実です。		

講義の内容	司法と福祉の狭間で、犯罪を行ったり、社会復帰できない非行少年、高齢犯罪者、知的障害者の現状を調べ、心神喪失医療観察法、刑事施設被収容者処遇法、更生保護法、少年法の運用と課題について学習します。なお、今年度は可能な限り、施設参観などのフィールドワークを実施する予定です。
到達目標	各自が課題を設定し、調べ、プレゼンテーションを行い、全員参加で議論するという形式の学習活動により、刑

	事法学に関する基礎知識を修得するとともに、表現力や論争力の養成を目指します。
講義方法	教科書、関連する文献資料、刑事判例をもとに、各自が設定した課題でプレゼンテーションを行い、全員参加の議論を行います。プレゼンテーションは原則としてパワーポイントを使用します。 このほか、矯正施設参観、裁判傍聴、福祉施設でのボランティア、実務家の講話、小中高生を対象にした法教育としての模擬裁判などを行うことによって、受講生個々の学ぶ意欲に応えていきます。
準備学習	前学期は担当者が海外研修中のため、後学期開講となります。したがって、前学期はメールのやり取りと一時帰国の際のスクーリングによって、準備学習を実施したいと思います。
成績評価	準備学習、プレゼンテーション、議論への参加、自己の学びに関する報告書を総合して成績を評価します。
講義構成	(1) 各自の課題に関するプレゼンテーション (2) フィールドワーク (3) 各自の学びの発表会
教科書	前野育三・前田忠弘ほか著『刑事政策のすすめ[第2版]』(2007年 法律文化社)
参考書・資料	平成21年版犯罪白書 このほか適宜、準備学習および授業の際に、文献資料を紹介します。
講義関連事項	もし夏季休業中に、準備学習として西オーストラリア州の司法と矯正を学びたい場合には、可能な限り対応しますので、連絡してください。
担当者から一言	各自の将来を何かしら拓くような、甲南で学んでよかったと思えるような学習活動にしたいと思います。定められた授業時間以外にも、みなさんと勉強したいと思います。

授業コード	41M07		
授業科目名	演習(中井)		
担当者名	中井伊都子(ナカイ イツコ)		
配当年次	3年次	単位数	4
開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期(火曜3限)、後期(火曜3限)

講義の内容	国際模擬裁判を通じて、現代国際社会における国家間紛争の平和的解決の手法を具体的に検討する。
到達目標	国際法の視点から、国際紛争の予防や解決を検討することのできる視点を培う。
講義方法	グループごとに扱うテーマを決めて、原告国側と被告国側に分かれて、それぞれの主張を展開する国際模擬裁判形式で行う。
準備学習	国際模擬裁判を担当するグループは、数週間かけて当該国際紛争の原因と経過を調べ、それらの事実に沿った原告側被告側の主張を、国際法の観点から構成する。ほかの履修生は国際司法裁判所判事として、いずれの主張がより論理的に展開されていたかを判断して判決文を作成する。
成績評価	平常点(出席と判決文)50点と国際模擬裁判での活躍度50点
講義構成	各グループが選択した国際紛争について、共通の事実認識(コンプロミー)の報告一回とそれに基づく模擬裁判一回の計2回をあてる。
教科書	各グループが選択した国際紛争ごとに、基礎となる教科書や参考書などを紹介する。
担当者から一言	国際法を学ぶ演習ではなく、国際法を駆使して議論をたたかわせることを目的とした演習ですので、国際法の基礎はしっかり理解しておいてください。また国際問題にはしっかりアンテナを張って、「国際法の観点から」解説すると・・・と考える習慣を持ってほしいと思います。

授業コード	41M08		
授業科目名	演習(前嶋)		
担当者名	前嶋京子(マエシマ キョウコ)		
配当年次	3年次	単位数	4
開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期(木曜4限)、後期(木曜4限)
オフィスアワー	木曜日3時限。その他必要があるときは、アポイントをとること。		

講義の内容	会社法の基本的な問題から始め、漸次難易度の高い問題を検討していく。本年度の講義受講生には、会社法
-------	--

	の学習が十分でない者と、十分な基礎知識を有している者が含まれることから、最初の段階では、それぞれのレベルの応じたテーマを振り分け、報告してもらうことにするが、最終的には、受講生皆が一定の高レベルに到達することを予定している。
到達目標	現実の社会で、解決を必要とする会社法上の問題に遭遇したときに、相応の処理ができる能力を養うことを目標とする。また、授業をすすめていく過程で、ものごとを理論的に考察する能力を身につけるとともに、自己と相反する意見を尊重しつつも、自己の立場をしっかりと表現し、議論することができる能力を養うことをも目標とする。
講義方法	報告担当者を決め、その者が設定された問題に関連する学説・判例を調べ、それなりの解答を用意する。その報告をもとに、担当者以外の者も加わって、皆で討議・検討していく。
準備学習	会社法(商法Ⅰ・Ⅱ)の学習が十分ではない者は、実質上討議に参加できないことになるので、事前に十分に学習しておくこと。 報告者以外も、報告予定のテーマについて、予め学習しておくことが望ましい。
成績評価	平常点にレポートの成績を加味して評価する。 平常点は、出席率・報告の内容・議論への参加の積極性等の内容を吟味して評価する。
講義構成	1. 自己紹介と授業のすすめ方の説明 2. 授業をすすめる上で必要な基礎知識等の確認 3. 報告者による報告と討議(夏休み前まで) 4. 夏休みのレポートの書き方の説明(夏休み直前の授業) 5. 報告者による報告と討議の続き(「判例研究」レポート提出前まで) 「判例研究」レポートの書き方の説明は適当な時期に行う。 「判例研究」レポート提出は年末[年内授業終了日]に締切予定 6. 報告者による報告と討議の残り(年明け) 7. 「判例研究」レポートの講評(最終回)
教科書	特に使用しない(報告準備のために必要な文献等の紹介・指示は適宜行う)。
参考書・資料	必要に応じて紹介するが、一般的な予習のための参考書としては、江頭憲治郎等編『会社法判例百選(別冊ジュリストNo.180)』(有斐閣・2006年)や浜田道代等編『会社法の争点』(有斐閣・2009年)を、あげることができる。
講義関連事項	商法Ⅰ・商法Ⅱを未受講のものは、前期の間に受講しておくこと。
担当者から一言	授業の性質上、出席を重視する。報告担当になっていなくても、積極的に質問や意見発表をするなど、学生諸君の積極的取組を期待する。
その他	六法必携。六法については最新版(平成22年版)を用意すること。

授業コード	41M09		
授業科目名	演習（島田）		
担当者名	島田 茂(シマダ シゲル)		
配当年次	3年次	単位数	4
開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期（火曜3限）、後期（火曜3限）
オフィスアワー	毎回、授業終了後、質問を受け付ける。		

講義の内容	行政法上の基本問題の検討
到達目標	行政法上の基本的な概念を用いて、自分の見解を理論的に発表できるようにする。
講義方法	少人数のグループに分け、順番に報告する。その後、全員で討論する。
準備学習	事前に与えられた資料は必ず読んでくること。
成績評価	出席率とゼミでの発言で判断する。
講義構成	①行政法上の基礎的概念についての説明 ②裁判例の検討 ③裁判例以外の紛争事例の検討 ④学説の検討
教科書	未定
担当者から一言	行政法は一見難しいようだけど、それほどでもない。我々の身近な生活に関わる法律問題の多くが行政法に關係している。環境保護、警察、福祉などの行政の仕事に興味を持っている人は参加してほしい。

授業コード	41M10		
授業科目名	演習（金）		
担当者名	金ムンスク(キム ムンスク)		
配当年次	3年次	単位数	4
開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期（木曜4限）、後期（木曜4限）
オフィスアワー	各回の講義後		

講義の内容	今日、国際的交流の活発化という現実のもとで、国際婚姻などの家族法的関係ばかりでなく、国際的な売買など財産法についても、国際私法により解決されるべき多くの問題が生じている。 このような国際的な民商事法上の法律問題について、実体法と手続法の双方の観点から、より詳細な国際私法上の論点を取り上げ、国際的な視野を持ち、的確に対処できる基礎を築くことを目的とする。		
到達目標	具体的なテーマについて、民法、国際私法の理論・裁判例の順で理解を深め、国際私法の問題を解決できる考え方を形成する。		
講義方法	ゼミ形式で進める。以下で取り上げるいずれかの事項から興味のある項目をゼミ生が選ぶ。その他、ゼミ生の希望に応じる。担当者は一週間前までにレジュメを作成・配布し、ゼミのときにそれを発表する。ゼミ生が中心となって質問・討論を行いながら、ゼミテーマに関する理解を深める。		
準備学習	発表者はレジュメを作成するため、資料の調べ方やレジュメのまとめ方を身につけるとともに、発表について法的・批判的にコメントできるよう、関連資料を包括的に検討する。国際私法講義に出ることが望ましい。		
成績評価	報告と議論への参加度合いに応じて評価をつける。正当な理由なき欠席あるいは事前の連絡なき欠席が3回に達した場合、単位が得られない可能性が高い。出席は最低限の要件であるが、出席だけでは合格点とならない。		
講義構成	I. 家族生活と国際私法 ・婚姻、離婚、嫡出子・非嫡出親子関係の成立、養子縁組、親子間の法律関係、 ・後見、扶養、子の奪取 ・相続・遺言 II. 国際取引と国際私法 ・国際取引の主体（自然人・法人） ・取引活動（契約、当事者自治、消費者・労働者保護） ・法定債権（不法行為、事務管理、不当利得） ・債権譲渡その他（相殺、債権者代位権、債権者取消権） ・物権 III. 国際取引紛争の解決手続 ・訴訟（国際裁判管轄権、外国判決の承認・執行、国際的訴訟競合、判決の抵触） ・仲裁（仲裁契約、仲裁手続、仲裁判断とその執行） ・倒産（国際管轄、外国人の地位、準拠法） IV. その他 ・知的財産権、インターネットにかかわる諸問題、国籍法		
教科書	櫻田嘉章『国際私法〔第5版〕』（有斐閣、2006）		
参考書・資料	櫻田嘉章・道垣内正編『国際私法判例百選〔新法対応補正版〕』（有斐閣、2007）		
講義関連事項	六法は必ず持ってくる。日常生活における渉外的法律関係に興味を持ち、ゼミへの積極的な参加を期待する。		

授業コード	41M11		
授業科目名	演習（池田）		
担当者名	池田佳隆(イケダ ヨシタカ)		
配当年次	3年次	単位数	4
開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期（火曜3限）、後期（火曜3限）
オフィスアワー	水曜4限		

講義の内容	国際政治を考える際の基礎的な概念を学んだ後、アメリカ・ヨーロッパ・アジアなどの国際情勢について理解を深		
-------	---	--	--

	める。
到達目標	国際政治に関する様々なテーマに関する知識をふまえた上で、自分の意見を報告できるようになる。
講義方法	毎回報告の担当者を決め、その報告の後で全員で議論する。
準備学習	テキストの該当部分を読んでおく。
成績評価	報告時のパフォーマンスや議論への貢献度等を総合的に評価する。
講義構成	1国際政治の考え方 2戦争と平和 3平和構築 4貧困問題 5環境問題 6民族問題 7地域主義 など
教科書	大芝亮(編著)『国際政治学入門』ミネルヴァ書房、2008年

授業コード	41M12		
授業科目名	演習（桑岡）		
担当者名	桑岡和久（クワオカ カズヒサ）		
配当年次	3年次	単位数	4
開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期（木曜4限）、後期（木曜4限）
オフィスアワー	演習終了後		

講義の内容	財産法および家族法、民法領域全般。
到達目標	民法全般に関する問題解決をテーマにして、問題を正確に理解した上で解決策を探る能力を向上させることを目的としています。
講義方法	演習形式で行う。そのため、参加者は資料探索・読み込み、レジュメの作成など報告の準備作業、討論を通じて、プレゼンテーションのスキルを習得することも演習の目的である。
準備学習	資料を読み込んだ上で、テーマごとの具体例についての解答を用意する。
成績評価	出席、作成されたレジュメ、報告・討論での発言を成績評価の対象とする。
講義構成	第一回 ガイダンス 第二回以降 民法領域全般から選択したテーマについて報告・討論を行う。
教科書	テーマごとに異なるため各回ごとに指定する。
講義関連事項	六法を持参してください

授業コード	41M13		
授業科目名	演習（武井）		
担当者名	武井 寛(タケイ ヒロシ)		
配当年次	3年次	単位数	4
開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期(木曜4限)、後期(木曜4限)
オフィスアワー	水曜4限		

講義の内容	社会の変化に伴い、他の法分野と同様、労働法の分野でも新たな問題や、それに対する理論的課題が生じています。たとえば、兼業をした場合労働時間は法的にどのように扱われるべきか、成果主義が導入された結果としての賃金大幅減額には我慢するしかないのかといったように。それらのうち比較的最近の訴訟事件をとりあげ、その紛争の特徴や法律判断のありかたを検討します。
到達目標	判例や実定法を根拠に、自分なりの法律的な議論を行えるようになること。
講義方法	何人かでグループを組み(さまざまなパターンがありうるが、受講生と相談して決めたい)、あらかじめ教員が配布した事案につき、まずは個人で考え、その後グループごとに議論し、グループで一定の法律判断(判決といってもいいでしょう)を提示してもらいます。さらにそれをグループ同士で質疑・応答し、議論を深めるという形式で行います。言い換えれば、グループ内での議論とグループ間での議論を通じて、法律論を基盤にしたディベート力を養おうとするものです。
準備学習	配布された事案をよく読むこと。また、労働法の授業で用いた教科書や資料を復習しておくこと。
成績評価	出席と議論への参加度の総合評価による。無断欠席をした場合には成績評価をしない。

講義構成	第1回 授業ガイダンス 第2回以降 発表と討論
教科書	なし
参考書・資料	必要に応じて指示または配布します。

担当者から一言	屁理屈でかまいません。とにかく出席して何かしゃべること。すべてはそこからはじまります。
---------	---

授業コード	41M14		
授業科目名	演習（西山)(後)		
担当者名	西山隆行(ニシヤマ タカユキ)		
配当年次	3年次	単位数	4
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	木曜4限 木曜5限
オフィスアワー	アポイントメントによる。		

講義の内容	「タバコと比べてマリファナは、中毒性も低いし、健康に及ぼす影響も小さい。でも、マリファナ所持が違法なのにタバコが合法なのは何故だろう?」、「ヨーロッパでは死刑制度が廃止されているのに、日本やアメリカでは死刑が増加しているのは何故だろう?」、「アメリカの成人の31人に一人が受刑中! イリノイ州が財政再建のために千人以上の犯罪者を仮釈放する予定! ……どうして?」—犯罪問題は政治過程における大問題であるにもかかわらず、これまではもっぱら法学者や社会学者によって検討されてきました。しかし、政治上、財政上のインパクトを考えると、政治学の観点からの分析が不可欠です。2010年度の演習では、犯罪問題を政治学の観点から分析することしたいと思います。		
到達目標	論理的思考力を身につけると共に、法律の規定や常識に囚われない、柔軟な発想を身につけることを目指します。		
講義方法	通常の演習の方式で実施します。		
準備学習	ニュース等をよく読んで、いろいろな事柄に興味を持つようにして下さい。		
成績評価	平常点で評価します。詳細は初回の演習で説明します。		
講義構成	以下は仮の講義構成です。ゲストを何度か招く予定なので、その都合によって日程やトピックが変更になります。 第1週: イントロダクション+犯罪統計の分析 第2週: 麻薬と犯罪の定義 第3週: 死刑と刑罰 映画視聴予定 第4週: 続き 文献購読 第5週: 犯罪被害者と厳罰化 第6週: 犯罪増加の原因分析と政策的対応 第7週: 銃規制と市民社会 映画視聴予定 第8週: 続き 文献購読 第9週: 日本の警察について 第10週: テロ対策 第11週: 戦争犯罪 第12~14週: グループ報告		
教科書	新書数冊を購入していただくと共に、プリントを配布します。		

授業コード	41M15		
授業科目名	演習（住田）		
担当者名	住田英穂（スミタ ヒデホ）		
配当年次	3年次	単位数	4
開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期（木曜4限）、後期（木曜4限）
オフィスアワー	木曜日の昼休み 事前に連絡するようにして下さい。		

講義の内容	民法の財産法について学びます。具体的には、①重要論点について深く掘り下げる、②判例を分析・批評する、
-------	--

	③民法学説史上、重要な論文に接する、ということを行っていきます。
到達目標	① 問題意識をもって、課題に取り組み、調査・研究できること。 ② 問題意識をもって、調査・研究した成果をわかりやすくまとめ、発表できること。 ③ 自分の考えをもち、意見の異なる人と議論できること。
講義方法	グループごとに課題を割り当て、レジュメを作成し、報告をしてもらい、その後に、全員で討論を行います。期末には、各自にレポートを提出してもらいます。
準備学習	翌週のゼミの課題に関して、参考文献を指定するので、それをきちんと予習するようにして下さい。
成績評価	①出席 ②発表 ③レジュメ ④レポート ⑤討論における発言の5つを評価の対象にします。特に、③レジュメと④レポートは、大きなウエイトを占めます。
講義構成	第1回目に、グループ分けと課題の割当を行います。
教科書	課題に応じて、適宜、指定します。
参考書・資料	課題に応じて、適宜、指定します。
担当者から一言	ゼミ生は、問題意識をもって課題に取り組んで欲しいと思います。ゼミでの活動を通じて、主体的に物事が考えられるようになってくれれば・・・と切に願っています。よく学び！よく遊ぶ！明るいゼミにしたいと思います。

授業コード	41M16		
授業科目名	演習（久保）		
担当者名	久保はるか（クボ ハルカ）		
配当年次	3年次	単位数	4
開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期（木曜4限）、後期（木曜4限）
オフィスアワー	随時行います。あらかじめご連絡ください。		

講義の内容	前期演習では、幅広く環境問題を知る上で重要な文献を読み、環境問題とは何かを知るとともに、社会科学が学問として環境問題をどのように捉えてきたのか、その基本的な視点を学ぶことを第一の目的とする。加えて、課題文献を読む中で、要点の把握・論点の抽出を的確にできるようになるよう、読解力を身につける訓練を行うことを第二の目的とする。 後期演習では、前期で学んだことを踏まえて、今度は、具体的な事例について調査・考察する。各自が身近な環境問題に関心を持つとともに、その問題に、どのような主体がどのように取り組んでいるのかについて調査・考察することが、後期演習の目的である。2009年度は、東灘区という身近な地域の取り組みを調査している。他に希望がなければ、2010年度も継続する予定である。
到達目標	第一に、環境学の基本的な視点を習得すること。 第二に、読解力を身につけ、要点の把握・論点の抽出を的確にできるようになること。 第三に、身近な環境問題・まちづくりについて、主体的に調査・考察すること。
講義方法	前期演習では、読解力を身につけることも目的の一つであるから、発表者をあらかじめ決める方法を取るのではなく、参加者全員が課題文献を読んでいることを前提に、ランダムに当てながら当該文献の内容を確認し論点を抽出する方法をとる。その後、参加者全員で討論を行う。また、ワークショップ形式を取り入れて、論点の抽出と『問題の構造化』の作業を行う。 後期演習に関しては、参加者と相談して決定するが、各自あるいはグループで関心あるテーマを選定し、調査・考察した結果を発表してもらうことを考えている。
準備学習	常日頃から環境問題に関心を持ってもらいたいため、新聞・雑誌・書籍等に積極的に触れ、環境問題をめぐる社会の動きを把握しておくことが望ましい。
成績評価	出席状況、課題への取り組み状況、議論への貢献度などを総合的に判断して評価します。
講義構成	初回にシラバスを配布します。
教科書	適宜、文献・資料をプリントして配布します。
参考書・資料	参考文献・資料の検索の仕方を指導します。 演習をとおして、書籍や論文の検索の仕方を習得し、読んでまとめるという作業を身につけてください。
担当者から一言	ゼミには、受身ではなく積極的な姿勢で臨みましょう！

授業コード	41M17
-------	-------

授業科目名	演習（櫻井）		
担当者名	櫻井智章（サクライ トモアキ）		
配当年次	3年次	単位数	4
開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期（木曜4限）、後期（木曜4限）
オフィスアワー	未定（第1回目に知らせます）		

講義の内容	憲法上の重要問題について検討する。 具体的な内容については受講者と相談の上で決めます。		
到達目標	憲法上の重要問題について、判例・政府見解や学説などを通じて理解を深めることを第一の目的とする。 同時に、①問題を発見し、自ら調べ、まとめる能力、②他人にも理解できるように伝える能力、③自分の義務を果たす責任感、を身につけることを目的とする。		
講義方法	ゼミ形式で行います。 担当者の報告の後、全体で質疑応答・討論を行います。		
準備学習	毎回扱う問題について、予習して来ること。		
成績評価	出席・授業態度・報告、ゼミへの貢献度などに基づいて総合評価します。 特に、出席が少ない場合には単位の取得は困難だと考えてください。 詳細は第1回目に説明します。		
講義構成	前期、後期のそれぞれ第1回目に受講者と相談の上で決めます。		
教科書	特になし		
参考書・資料	第1回目に紹介するほか、適宜指示します。		
担当者から一言	ゼミは受講者の意向を最大限に尊重して運営していきたいと思います。		

授業コード	41M18		
授業科目名	演習（岡森）		
担当者名	岡森識晃（オカモリ シアキ）		
配当年次	3年次	単位数	4
開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期（木曜4限）、後期（木曜4限）
オフィスアワー	木曜昼休み・木曜5限		

講義の内容	環境判例を素材として、我が国における環境法の特色や行政法理論との関係について検討する。環境判例は、単に環境紛争を解決するだけでなく、我が国の環境法に大きな影響を与えてきた。我が国では現在、様々な環境法令が存在するが、その多くは環境判例を契機として整備された。そこで、環境判例にじかに触れ、環境判例とはどのようなものか、環境法にどのような影響を及ぼしたのかについて学んでみたい。また、環境法は、行政法とも密接な関わりがあるので、行政法の観点から環境判例を分析したい。		
到達目標	環境判例とはどのようなものか、環境法にどのような影響を及ぼしたのかについて知ることができる。 環境法と行政法との関係について知ることができる。		
講義方法	ゼミ形式で行う。演習の進め方など、詳細については、顔ぶれがそろってから、相談して決定する。基本的には、報告者による報告と全員での討論という形式をとる。		
準備学習	行政法総論Ⅰ・Ⅱを履修していることが望ましい。 環境問題及び環境法に対する問題意識をもって受講することが望ましい。		
成績評価	出席状況、ゼミ報告等を総合的に判断して行う。		
講義構成	1. はじめに 2. 報告テーマの設定 3. 資料収集 4. 資料収集 5. 報告資料の作成 6. 報告資料の作成 7. 報告資料の作成 8. 中間報告 9. 報告資料の補正 10. 報告資料の補正		

	11. 報告・討論 12. 報告・討論 13. 報告・討論 14. 報告・討論 15. まとめ
教科書	特に指定しない。
参考書・資料	淡路剛久・大塚直・北村喜宣編『環境法判例百選』(有斐閣・2004年)。
担当者から一言	学生の皆さんの主体的な参加を期待します。

授業コード	41M19		
授業科目名	演習（森永）		
担当者名	森永真綱（モリナガ マサツナ）		
配当年次	3年次	単位数	4
開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期（火曜3限）、後期（火曜3限）

講義の内容	比較的新しい判例について、1審判決から精査し、その妥当性および射程について検討する。
到達目標	刑法学の理解を深めるとともに、発表、討論のスキルを高めることを目的とする。
講義方法	毎回担当者に報告してもらった後、全員で討論する。
準備学習	刑法総論・各論の復習をしっかりとしておくこと。基礎がかけいていると思う人は、井田良『基礎から学ぶ刑事法(第4版)』(有斐閣・2010年3月刊行予定)を通読しておくこと。
成績評価	報告内容、討論における発言内容、受講態度、出席状況を総合して評価する。
講義構成	比較的新しい判例を中心に、報告・討論を行う。
教科書	特に指定しない。

授業コード	41M20		
授業科目名	演習(田中)		
担当者名	田中誠人(タナカ マコト)		
配当年次	3年次	単位数	4
開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期(木曜4限)、後期(木曜4限)

講義の内容	民事訴訟法と関連法規における問題点を深く理解することを目的とし、講義で学んだ知識を基礎として、民事訴訟法に関する判例や、学説において問題となっているいわゆる論点などの検討をおこないます。 その他、受講生の希望によってはグループ間のディベートや、模擬裁判、実務見学なども考えています。
到達目標	基本的な議論の進め方、他者の意見を聞き、分析し、自己の意見を表明することに習熟することを心がけながら、民事訴訟法を素材として、講義で得た知識をより深く、発展させる。
講義方法	形式は、参加人数にもよりますが、数名でグループを構成し、1回につき1グループに報告を行ってもらいます。 題材については、教員からアドバイスあるいは必要であればリストの提示もおこないますが、基本的にはグループ内で話し合って選択してもらいます。 各グループは、報告において、①問題の所在、②判例などの位置づけ、③過去の関連判例、④学説状況、⑤自説に基づく結論など、といった項目について報告を行い、この報告に基づいてゼミで討論します。 レジュメは簡略なもので結構ですが、一見して上記の点がわかる程度に詳細かつ整理されたものであることを求めます。また、報告者以外の参加者も、予め当日のテーマに関する判例や基本書の該当項目を熟読し、何が争点なのかを把握しておくことが必要です。 1回のゼミで報告が終わらなかった場合、報告が不十分であった場合など、当該問題について報告者あるいは受講者の納得を得られなかった場合には、次の週もひきつづき同グループが報告を担当することがあります。
準備学習	実体法において規定されている権利が侵害され紛争が生じた時に問題となるのが訴訟(法)なので、民法・商法などの民事法を中心に、法律科目を予めもしくは並行して履修していることが望ましい。 また、民事訴訟法の基礎的な理解が必要となるため、民事訴訟法の講義も予めもしくは並行して履修してあることが望ましい。

成績評価	受講態度、議論への参加状況など、総合的な判断によります。
講義構成	受講者との協議によります。
教科書	概説書ではなく、比較的詳細な体系書。受講前に通読しておくことが望ましいため、以下をあくまで参考として自分にふさわしいものを選んでください。 伊藤眞『民事訴訟法』(有斐閣) 上田徹一郎『民事訴訟法』(法学書院) 松本博之=上野泰男『民事訴訟法』(弘文堂) 新堂幸司『民事訴訟法』(弘文堂) 高橋宏志『重点講義民事訴訟法』(有斐閣) 中野=松浦=鈴木『新民事訴訟法講義』(有斐閣大学双書) など。 なお、民事訴訟法の体系を理解する上で、是非とも読んでおきたい文献として、兼子一『民事訴訟法体系』(酒井書店)が挙げられますが、絶版により入手困難であるうえ、近時の論点については触れていないため、上記リストからは外しておきます。
参考書・資料	小林秀之編『判例講義民事訴訟法』(悠々社) 伊藤眞ほか編『民事訴訟法判例百選』(有斐閣) 伊藤眞=山本和彦/編『民事訴訟法の争点』(有斐閣)
担当者から一言	法律学において正解はありません。それぞれの異なる価値観の中で、何を重視するのか、どのような結果を望むのかを考えながら、皆でワイワイと語り合いましょう。

授業コード	41M21		
授業科目名	演習(笹倉)		
担当者名	笹倉香奈(ササクラ カナ)		
配当年次	3年次	単位数	4
開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期(木曜4限)、後期(木曜4限)
オフィスアワー	ゼミ時又はメールにて予約してください。相談があれば、気軽に声をかけてください。		
講義の内容	前期は、ゼミ生によるプレゼンテーションと議論を通じて、刑事訴訟法分野に関する基本的知識の確認を行います。後期は、模擬裁判のシナリオを作成し、上演します。		
到達目標	刑事訴訟法の分野における諸問題について理解を深めることを目的とします。		
講義方法	* 前期は、ゼミ形式で行います。プレゼンテーションの担当者は、あらかじめ下調べを入念に行い、レジュメを準備し、ゼミ当日にプレゼンテーションを行っていただきます。担当者の報告後、全員で議論を行います。 * 後期は、模擬裁判のシナリオを作成します。 * ゼミの時間帯以外にも、希望があれば、課外活動(裁判傍聴、施設見学、合宿等)を行います。		
準備学習	刑事訴訟法Ⅰを履修済みであること。または、履修済みの者と同程度の知識を有していること。刑事訴訟法Ⅱを履修中であること(必須)。		
成績評価	出席状況、報告を担当する際のプレゼンテーション及び配付資料の内容、議論への参加の程度、その他受講態度を総合して評価します。通年で5回以上欠席した場合、7回以上遅刻した場合は、理由を問わず、原則として単位修得を認めません。		
講義構成	第一回に話し合って決定します。 講義の時間帯以外にも、受講生からの希望があれば、課外活動を行います。		
教科書	上口裕、後藤昭、安富潔、渡辺修『刑事訴訟法〔第4版〕』(有斐閣、2006年) 井上正仁編『別冊ジュリスト・刑事訴訟法判例百選(第8版)』(有斐閣、2005年) * その他、受講生の関心に応じて、適宜文献紹介を行います。 * 六法は必ず持参してください。		
参考書・資料	田中開、寺崎嘉博、長沼範良『刑事訴訟法〔第3版〕』(有斐閣、2008年) 福井厚『刑事訴訟法講義・第4版』(法律文化社、2009年) 白取祐司『刑事訴訟法・第5版』(日本評論社、2008年)		
担当者から一言	1年間のゼミが楽しいものになるかは、受講生の皆さんのゼミに対する姿勢次第です。課外活動の希望があれば		

	ば、積極的に企画・参加してください。
--	--------------------

授業コード	41027		
授業科目名	外交史I(前)		
担当者名	楠 綾子(クスノキ アヤコ)		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	木曜2限
オフィスアワー	随時(要相談)		

講義の内容	19世紀末に近代国家建設へ歩みはじめた日本は、激動する国際政治のなかでどのように生存を確保しようとしてきたのか。グローバリゼーションの進展によって、複雑さと混迷をますます深めつつあるようにみえる現代の国際政治と、そのなかでの日本の方向性を考えるために、外交史は有力な材料を提供してくれるであろう。本講義は、とくに日本の対外関係のなかでもっとも重要な対米関係を中心に、開国から太平洋戦争までの日本の外交政策を解説する。		
到達目標	19世紀末から太平洋戦争までの日本外交の諸特徴や諸問題について、系統立って理解していることが望ましい		
講義方法	毎回の授業で配布するレジュメに沿って講義する。講義のスケジュールについては、初回の授業で説明する。		
準備学習	・日ごろから新聞やテレビなどのニュース報道を通じて、外交・国際問題に関心をもつこと。 ・授業中に紹介した参考図書に親しむこと。		
成績評価	小テスト(20%) 出席(10%) 期末テスト(70%)		
講義構成	毎回の講義は、担当者による解説を基本とするが、ビデオ放映やディスカッションを行うことがある。		
教科書	五百旗頭真編『日米関係史』(有斐閣、2008年)。		
参考書・資料	授業中に適宜指示する。		

担当者から一言	テレビや新聞などのニュースを通じて、日常的に外交・国際政治に関する情報に親しんでもらいたい。また、指定した教科書は、各自で読み進めてもらいたい。
---------	--

授業コード	41028		
授業科目名	外交史II(後)		
担当者名	楠 綾子(クスノキ アヤコ)		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	木曜2限
オフィスアワー	随時(要相談)		

講義の内容	太平洋戦争は戦前日本の外交上の失敗といえるであろう。では、敗戦と占領を体験した日本は、激動する国際政治のなかでどのような外交を展開してきたのであろうか。グローバリゼーションの進展によって、複雑さと混迷をますます深めつつあるようにみえる現代の国際政治と、そのなかでの日本の方向性を考えるために、外交史は有力な材料を提供してくれるであろう。本講義は、日本の対外関係のなかでもっとも重要な対米関係を中心に、アジア諸国との関係を加えつつ、太平洋戦争から今日までの日本の外交政策を解説する。		
到達目標	1945年以後の日本外交の諸特徴と諸問題について、系統立って理解していることが望ましい		
講義方法	毎回の授業で配布するレジュメに沿って講義する。講義のスケジュールについては、初回の授業で説明する。		
準備学習	・日ごろからテレビや新聞などのニュース報道を通じて、外交・国際問題に関心をもつこと。 ・授業中に紹介する参考文献に親しむこと。		
成績評価	小テスト(20%) 出席(10%) 期末テスト(70%)		
講義構成	毎回の講義は、担当者による解説を基本とするが、ビデオ放映やディスカッションを行うことがある。		
教科書	五百旗頭真編『日米関係史』(有斐閣、2008年)。		

参考書・資料	五百旗頭真編『戦後日本外交史【新版】』（有斐閣、2006年）。そのほかは授業中に適宜指示する。
--------	---

授業コード	41100		
授業科目名	外国文献講読（前）		
担当者名	馬場 優（ババ マサル）		
配当年次	3・4年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	月曜2限

講義の内容	EU（欧州連合）の労働市場政策のキーワードに「フレキシキュリティ(flexicurity)」がある。これは「柔軟性(flexibility)」と「安全(security)」の合成語である。この「フレキシキュリティ」はどのような内容なのであろうか。そして、日本の労働市場政策に適用可能なものなのであろうか。この講義では、2007年に出版されたフレキシキュリティに関する論文集(Henning Jorgensen & Per Kongshoj Madsen(eds.), Flexicurity and Beyond: Finding a new agenda for the European Social Model, (Copenhagen: DJOF Publishing, 2007)の第1章(pp.7-38)を手がかりにそれを考えていきたい。		
到達目標	「フレキシキュリティ」について一定の理解ができる。		
講義方法	毎回参加者全員でテキストを読み込んでいき、必要に応じてコメントを行う。		
準備学習	出席と予習は絶対的条件である。予習していない場合には、欠席と見なされると思っておいてほしい。		
成績評価	平常点で評価する。		
講義構成	第1回 使用テキストの配布や講義全体に関する説明など。 第2回以降 テキスト講読		
教科書	Henning Jorgensen & Per Kongshoj Madsen(eds.), Flexicurity and Beyond: Finding a new agenda for the European Social Model, (Copenhagen: DJOF Publishing, 2007) 第1回目にコピーを配布する。		

授業コード	41L01		
授業科目名	基礎演習（黒田）（前）		
担当者名	黒田忠史（クロダ タダヒミ）		
配当年次	1年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	火曜2限

講義の内容	法学部一年次学生を対象にしたこの科目（前期、2単位）では、これから4年間、法学を学ぶにあたっての「心構え」と、最低限の勉学の「定石」を身につけられるようにする。具体的で現代的な法律問題や事件を適時取り上げながら、関連法令・論文・判例などの集め方、読み方、レポートの書き方などについて手ほどきをしながら、法学という学問の重要性、難しさと面白さについて考えることができる機会としたい。		
到達目標	法学の学習方法を習得。		
講義方法	第3回までと第6回は他のクラスと共通。第4回以降は、下記の講義構成に掲げた現代法的なトピックスについて、配付資料を共同で熟読し、論点を整理し、ディベートを行うことによって、法学に関心を持てるようにする。		
準備学習	My Konanに掲載する「演習資料」を読み、議論の準備をしておくこと。		
成績評価	出席状況と演習への「参加度」で評価する。		
講義構成	第1回 共通講義（基礎演習の主旨、教員紹介、履修登録ガイダンス） 第2回 共通講義（教材関連ガイダンス、図書館・サイバーライブラリの活用方法、キャリアセンターの活動紹介） 第3回 共通講義（法学・政治学の論文作成方法、国際交流センター活動紹介等） 第4回 法とは何か。法を学ぶことの意義 第5回 民事裁判と刑事裁判 第6回 法学会総会 第7回 「裁判員制度」（重大犯罪事件の判定実験） 第8回 刑罰と不法行為責任 第9回 損害賠償請求事件の判例（1） 第10回 同 （2）		

	第11回 「家族における法」 第12回 家族紛争の具体例(ディベート) 第13回 人権をめぐる具体的事例(ディベート) 第14回 まとめと全体討論。小論文作成練習。
教科書	特になし。
参考書・資料	池田真朗他『法の世界へ』第4版(有斐閣アルマ、2006年) 『現代法学入門』(一橋出版、2003年) 『新版・現代法学入門』第4版(有斐閣双書2005年) 唐澤宏明『はじめて学ぶ法学』(三省堂、2004年) 倉沢康一郎『プレップ法と法学』(弘文堂プレップ法学、1986年) その他、法学の入門的教科書。
担当者から一言	間違ってもいいので、積極的に質問したり意見を述べたりしようとする「意欲」をもって参加してほしい。

授業コード	41L02		
授業科目名	基礎演習（安西）(前)		
担当者名	安西敏三（アンザイ トシミツ）		
配当年次	1年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	火曜2限
オフィスアワー	随時、但し事前に連絡していただくと有り難い。		

講義の内容	現代政治の動向を基本的に認識するために、古今東西における、政治の見方について、入門的なテキストを通じて、共に考えてみよう。
到達目標	政治の見方について、基本的な智識の習得と考察能力の涵養を目指す。
講義方法	あらかじめ指定したテキストの箇所の内容を報告者に要約して発表してもらい、その後、質疑応答をすると言う、かたちで進めたい。
準備学習	あらかじめ該当箇所を読み、質問事項なり意見なりをメモ程度で良いのでノートしておくこと。
成績評価	出席と受講態度によって評価する。
講義構成	第1回 共通講義(基礎演習の主旨、教員紹介、履修登録ガイダンス) 第2回 共通講義(教材関連ガイダンス、図書館・サイバーライブラリの活用方法、キャリアセンターの活動紹介) 第3回 共通講義(法学・政治学の論文作成方法、国際交流センター活動紹介等) 第4回 政治と政治学及び法学について 第5回 「第一章 政治を考える視点 1 丸山真男、一九四九年の問いかけ」 第6回 法学会総会 第7回 「2 政治的統合の基本構造 3 主体の複数性と政治的統合」 第8回 「4 政治的統合のメカニズム 5 政治権力の魔性」 第9回 「第二章 政治をする精神 1 政治家と権力 2 政治家と魂 3 政治家と権力感情」 第10回 「4 政治家と判断力 5 政治家と責任問題」 第11回 「第三章 政治に関与する精神 1 丸山真男の問題提起 2 政治参加の意味」 第12回 「3 競争と選択 4 「正しく理解された自己利益」」 第13回 「終章 政党政治の精神 1 政党政治はもつのか 2 政党政治の構造」 第14回 「3 政治主導・政治家主導・首相主導 4 自民党システム 5 政党改革」
教科書	佐々木毅『政治の精神』(岩波新書、2009年)
参考書・資料	特に無いが、日々の新聞およびニュース。
講義関連事項	政治という人間の営みは、人間のあらゆる営みに関係するので、幅広い知識の修得と考察を心がけたい。
担当者から一言	気楽に話すことから、色々な問題点を浮き彫りにすることができるので、読後感なり、見たり聞いたりしたことについて、遠慮することなく話してくれることを希望する。
その他	教育活動の一環として、2, 3人ごとに当方負担で昼食を共にし、話し合う機会を設ける。

授業コード	41L03
-------	-------

授業科目名	基礎演習（高野）(前)		
担当者名	高野清弘（タカノ キヨヒロ）		
配当年次	1年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	火曜2限
オフィスアワー	金曜日3時～4時		

講義の内容	学ぶことの楽しさを実感していただくことを目標とする。あわせて、将来の設計の手がかりをつかんでいただければ幸いである。
到達目標	本を読むこと、考えることの楽しみを理解すること。
講義方法	近藤正臣『通訳者のしごと』（岩波ジュニア新書）を講読する予定である。報告者を決め、報告者に20分から30分報告してもらい、そのあと、参加者全員に、質問、討論への参加を求める。また、もう一冊課題図書を選定し、それについては、ワープロ40字36行3枚以上のレポートの提出を求める。購読する書物、ノート、筆記用具は必ず持参すること。
準備学習	その週の個所を読み、質問を用意してくること。
成績評価	平常点。欠席はなるべく避けること。事前連絡なく3回以上欠席した場合、単位を与えない。
講義構成	第1回 共通講義（法学部長によるガイダンス、教員紹介） 第2回 共通講義（教材関連ガイダンス、図書館・サイバーライブラリの活用方法） 第3回 共通講義（キャリアセンターの活動紹介、法学・政治学の論文作成方法、課題設定） 第4回 将来の夢などを論題に、討論し、第5回以降の割り当てを決める。 第6回 法学会総会 第7回以降 上記の新書を、講読していく。
教科書	近藤正臣『通訳者のしごと』（岩波ジュニア新書）。教科書はこちらで用意する。
担当者から一言	なるべく楽しく討論したいと思っています。私は、先生らしくない先生を目指しているので、どうぞよろしく。

授業コード	41L04		
授業科目名	基礎演習（小泉）(前)		
担当者名	小泉洋一（コイズミ ヨウイチ）		
配当年次	1年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	火曜2限
オフィスアワー	火曜日昼休み		

講義の内容	法と宗教との関係は今日の世界中で見解が激しく対立している問題である。宗教の法は古代の国家法に大きな影響を与えてきた。また宗教は今日でも法に関する多くの問題を提起している。このような法と宗教との関係は法学部生がまず学ぶのに適した入門的な課題となる。 ただし法と宗教の関係はかなり複雑でもあるので、私が提起し解説した問題について、受講生各自が、私の指導の下で、調べ、考え、発表し、議論し、レポートを作成するまで実際にしてもらおう。また、これを通じて法学部でよりよく学んでいくために有益な技法と作法を受講生に伝える。
到達目標	自分で調べ、考え、発表し、議論し、レポートを作成する仕方を習得する。さらに、法学の学習方法を身につけ、また基礎知識も習得する。これらの作業を繰り返して、法学部で学習する能力を開発する。
講義方法	私が法と道德に関する基本的問題を提起したのち、受講生がその問題に関する文献、新聞記事や判例を検索し、それらを調べ、比較検討し、議論し合い、研究発表し合い、最後にレポートを作成する。その間、受講生は何回かグループまたは単独で研究発表することになる。
準備学習	この科目の共通講義で指示される。第1回からすべて必ず出席すること。
成績評価	出席状況、研究発表、レポートを総合評価する。欠席回数が多いのは論外である。
講義構成	第1回 共通講義 第2回 共通講義 第3回 共通講義 第4回 法と宗教に関する問題提起 第5回 法と宗教、道德に関する学び、勉強の仕方 第6回 法学会総会 第7回 法と宗教に関する簡単な発表、討論、法令、判例、新聞記事の検索

	第8回 法と宗教(1)判例に関する研究発表(1) 第9回 法と宗教(2)判例に関する研究発表(2) 第10回 法と宗教(3)判例比較・それに基づく討論 第11回 法と宗教(4)研究発表・それに基づく討論 第12回 法と宗教・道徳に関する他の問題に関する研究発表 第13回 法と宗教・道徳に関する他の問題に関する研究発表 第14回 法と宗教 レポート提出・総括的な討論 以上は予定であり、受講生の人数や希望に応じて変更することもある。
教科書	私が配布する資料を教材とする
参考書・資料	受講生が各自で検索する。

授業コード	41L05		
授業科目名	基礎演習（西田）(前)		
担当者名	西田英一（ニシダ ヒデカズ）		
配当年次	1年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	火曜2限
オフィスアワー	火曜 12:20－13:00		

講義の内容	法や裁判が、人びとの生活や社会とどう関わっているのかについて、具体的な課題解決作業を通じて、各人各様に実感してもらいたい。
到達目標	設定された課題(主として紛争解決方法の比較・評価)について、必要なデータを収集・加工し、報告にまとめることができる。
講義方法	第4回以降の少人数基礎演習クラスでは、4人1組の班に分かれて作業してもらう。法と社会に関連する簡単な問題・課題が与えられるので、それについて班で協力して調べて報告する。同一課題に対し2つ以上の班が報告し、毎回その優劣を受講者の投票によって決める。課題・報告は、各班とも2回以上行う。授業以外の時間に、班で集まって作業することもある。
準備学習	興味をもった新聞記事を、他の新聞と比較しながら読む。
成績評価	報告、期末個人レポート、出席状況によって評価する。
講義構成	第1回 共通講義(基礎演習の主旨、教員紹介、履修登録ガイダンス) 第2回 共通講義(教材関連ガイダンス、図書館・サイバーライブラリの活用方法、キャリアセンターの活動紹介) 第3回 共通講義(法学・政治学の論文作成方法、国際交流センター活動紹介等) 第4回 班分けと作業課題の説明 第5回 班別プレゼン作成作業 第6回 法学会総会 第7回 1回目報告(1) 第8回 1回目報告(2) 第9回 投票結果発表と講評 第10回 班別プレゼン作成作業 第11回 2回目報告(1) 第12回 2回目報告(2) 第13回 2回目報告(3) 第14回 個人レポート提出
教科書	使用しない。
参考書・資料	各班の課題解決ニーズに応じて、その都度紹介する。

担当者から一言	意味ある情報を探索し、つかまえた情報を加工し、それをいかにうまく発表するかを競う。
---------	---

授業コード	41L06		
授業科目名	基礎演習(中井)(前)		
担当者名	中井伊都子(ナカイ イツコ)		
配当年次	1年次	単位数	2

開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	火曜2限
講義の内容	国際社会におけるさまざまな紛争を取り上げ、その原因と経緯そしてその解決方法を検討する。		
到達目標	国際社会における様々な紛争の存在とその原因を理解し、今後の学習において国際的な視野から考察する姿勢を培う。		
講義方法	履修生が選択した国際紛争について各自が調べて報告し、それに基づいて全員で議論する。		
準備学習	新聞の国際面を熟読し、どのような紛争を選択して報告するのか、またほかの履修生が報告するテーマについてどのような意見を出せるのか、常に考えるようにすること。		
成績評価	平常点(出席と議論への参加)40点、報告の内容とそのまとめ方&プレゼンテーションの仕方60点。		
講義構成	第1回 共通講義(基礎演習の主旨、教員紹介、履修登録ガイダンス) 第2回 共通講義(教材関連ガイダンス、図書館・サイバーライブラリの活用方法、キャリアセンターの活動紹介) 第3回 共通講義(法学・政治学の論文作成方法、国際交流センター活動紹介等) 第6回 法学会総会 第7回～第14回 履修生各自が選択した国際紛争をテーマとした報告と議論		
教科書	各自の報告テーマが決まった時点で、それに合わせた教科書および参考書を紹介する。		
担当者から一言	国際問題に興味があれば、まず新聞の国際面をしっかり読んで理解し、わからないことは徹底的に調べる習慣を付けてください。		

授業コード	41L07		
授業科目名	基礎演習(前嶋)(前)		
担当者名	前嶋京子(マエシマ キョウコ)		
配当年次	1年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	火曜2限
オフィスアワー	木曜日3時限。その他必要があるときは、アポイントをとること。		

講義の内容	日常生活にいかにか法が関係しているのかを理解してもらうと同時に、法を学ぶ楽しさを感じてもらいたいと思っている。 この授業では、報告テーマを割り当てられた報告者が調べてきたことを報告し、それについて皆で議論をしていくことになる。その過程で、他の人の意見を尊重しつつ、自分の意見や理解したことを、他の人に理論的に説明できるようになってもらいたい。 大学では、講義形式の授業が多いが、この授業は、学生が自ら積極的に調べてきたり、発言したりすることが重要視される。このような取り組みを通じて、法学的なものの考え方をだんだんと身につけていってもらいたい。		
到達目標	高校まででは、法というものについて、詳しく勉強したことがないと思われるので、これから法学を学んでいくために必要なことを身につけるのが、この授業における当面の目標となる。		
講義方法	第3回までは他のクラスと共通講義で、第6回は、法学会総会となる。第4回以降は、第6回を除き、講義構成にも掲げたように、報告者を決め、その報告をもとに、受講生皆で議論する形ですめる。		
準備学習	報告者以外も発言を求められるので、しっかりと報告者の報告を理解することができるよう、体調を整えておくこと(寝不足などの体調不良で、報告者や他の人の発言が理解できないようなことのないように、体調を管理すること)。 報告者以外も、報告予定のテーマについて予め学習しておくことが望ましい。		
成績評価	平常点にレポートを若干加味して評価する。 平常点は、出席率・報告の内容・議論への参加の積極性等の内容を吟味して評価する。		
講義構成	第1回 共通講義(基礎演習の趣旨・履修登録ガイダンス・教員紹介) 第2回 共通講義(教材関連ガイダンス、図書館・サイバーライブラリの活用法、キャリアセンターの活動紹介) 第3回 共通講義(法学・政治学の論文作成方法・国際交流センターガイダンス) 第4回 各自の自己紹介の後、ゼミの運営方針等について相談。レポートの書き方についての質問も受付ける。 第5回 レポートの提出。報告の割当。報告するためのレジュメの書き方等のガイダンス。 第6回 法学会総会 第7回以後 共通講義で学んだことを応用し、各受講生には、割当られた報告テーマについて調べてもらい、受講生皆の前で報告してもらう。詳細は第4回目の授業のときに受講者と相談して決定する(判決例等も題材とする予定)。		
教科書	特に指定しない(必要に応じて資料を配付し、あるいは指示をする)。		

参考書・資料	必要に応じて紹介する。
担当者から一言	法学を学ぶことの楽しさを少しでも実感してもらいたいのので、積極的に取り組んでもらいたい。
その他	六法必携。

授業コード	41L08		
授業科目名	基礎演習（島田）(前)		
担当者名	島田 茂(シマダ シゲル)		
配当年次	1年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	火曜2限
オフィスアワー	毎回、授業の終了後、質問を受け付ける。		

講義の内容	目的→ 様々な法律科目を学んでいくための基礎的な能力(情報収集・整理、発表、レポート作成等の能力)をつけること 内容→ 新聞記事・ニュース等に現れた法律問題を取り上げ、報告と討議を行う。
到達目標	法学を学んでいくうえで必要とされる基礎的知識と考え方を身につける。
講義方法	毎回一定の人数の受講者に前もって与えられた課題に基づいて簡単な発表をしてもらい、それに対して参加者全体で質疑・応答を行う。次の回に全員に演習の内容をまとめたレポートを提出してもらう。 ・課題については、新聞記事・ニュース等からなるべく身近なものを選ぶ予定である。 ・発表を個人で行うか、グループで行うかは履修人数を考慮して決定する。 ・ゼミで課題についての発表等を始める前に共通講義と六法の引き方、基本的な法律用語の意味等についての講義がある(「講義構成」参照)。
準備学習	事前に提示した課題は必ずやってくる
成績評価	出席点60パーセント、課題の発表、質疑応答及びレポート40パーセントで評価する。
講義構成	第1回 共通講義(法学部長によるガイダンス、教員紹介) 第2回 共通講義(教材関連ガイダンス、図書館・サイバーライブラリの活用方法) 第3回 共通講義(キャリアセンターの活動紹介、法学・政治学の論文作成方法、課題設定) 第4回 講義の進め方についての説明、発表のグループ分け等 第5回 六法の引き方、基本的な法律用語の意味 第6回 法学会総会 第7回 課題の発表、質疑・応答① 第8回 レポート提出①、課題の発表、質疑・応答② 第9回 レポート提出②、課題の発表、質疑・応答③ 第10回 レポート提出③、課題の発表、質疑・応答④ 第11回 レポート提出④、課題の発表、質疑・応答⑤ 第12回 レポート提出⑤、課題の発表、質疑・応答⑥ 第13回 レポート提出⑥、課題の発表、質疑・応答⑦ 第14回 レポート提出⑦、課題の発表、質疑・応答⑧ まとめ ※レポート⑧は後日提出。
教科書	未定

担当者から一言	・出席が成績評価において大きな比重を占めます。毎回必ず出席し、積極的に課題の発表と質疑・応答に参加してください。 ・法改正等が頻繁に行われています。六法は指定された最新のものを準備し、毎時間必ず持参して下さい。
---------	--

授業コード	41L09		
授業科目名	基礎演習（金）(前)		
担当者名	金ムンスク(キム ムンスク)		
配当年次	1年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	火曜2限

オフィスアワー	各回の講義後
講義の内容	学生の日常生活において生じる、さまざまな法律関係を法学的観点から認識し、全般的な法律問題に触れ、法律システムの全体像について理解を深める。とくに能力と契約とを関係づけ、六法の仕組みについて説明する一方、模擬裁判を行う。
到達目標	法学入門として法学の基礎知識を修得し、社会を法的視点で分析できる考え方の土台を作る。
講義方法	講義を行うとともに、学生全員がテーマについて討論を行う。
準備学習	各講義の内容につき自主的にノートがとれるように、事前に配布された関連資料を予習する。講義後は、講義内容を積極的に復習する。
成績評価	報告と議論への参加度合い(70%)、提出されたレポート(30%)に応じて評価をつける。正当な理由なき欠席あるいは事前の連絡なき欠席が3回に達した場合、単位が得られない可能性が高い。出席は最低限の要件であるが、出席だけでは合格点とならない。
講義構成	第1回 共通講義(基礎演習の趣旨・教員紹介・履修登録ガイダンス・国際交流センターガイダンス) 第2回 共通講義(教材関連ガイダンス、図書館・サイバーライブラリーの活用法、キャリアセンターの活動紹介) 第3回 共通講義(法学・政治学の論文作成方法、各ゼミでの打合わせ) 第4回 レポート検討 第5回 法学入門 第6回 法学会総会 第7回 未成年者の能力 第8回 契約書の作成 第9回 紛争解決方法 第10回 模擬裁判 第11回 判決文の読み方 第12回 六法の仕組み 第13回 各国における法律の相違 第14回 まとめ
教科書	適時、関連資料を配布する。
担当者から一言	学生の積極的な参加を希望する。

授業コード	41L10		
授業科目名	基礎演習（山本）(前)		
担当者名	山本真知子(ヤマモト マチコ)		
配当年次	1年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	火曜2限
オフィスアワー	月曜4限。その他についてはアポイントを取ること。		

講義の内容	新聞記事・ニュース等に現れた法律問題を取り上げ、報告と質疑応答を行う。
到達目標	法学部で学んでいくための基礎的な能力(情報収集・整理、発表、レポート作成等の能力)を身につける。
講義方法	・毎回一定の人数の受講者が前もって与えられた課題について報告をし、それについて参加者全員で質疑応答を行う。報告者は、次の回に演習の内容を踏まえたレポートを提出する。 ・課題については、新聞記事・ニュース等からなるべく身近なものを選ぶ予定である。 ・発表を個人で行うか、グループで行うか等は履修人数を考慮して決定する。 ・ゼミで課題についての発表等を始める前に共通講義と六法の引き方、基本的な法律用語の意味等についての講義がある(「講義構成」参照)。
準備学習	・日ごろから新聞を読みニュースを見る。 ・毎週の課題についての事前学習。報告者はレジュメと報告原稿を用意する。 ・レポートの作成。
成績評価	出席、課題の報告・質疑応答55パーセント、レポート45パーセントで評価する。
講義構成	第1回 共通講義(基礎演習の趣旨、科目登録注意ガイダンス、教員紹介、教員への質問) 第2回 共通講義(教材関連ガイダンス、文献資料のある場所・探し方について、キャリアセンター活動紹介)

	第3回 共通講義(小論文・レポートの書き方、国際交流センターガイダンス等) 第4回 六法の引き方、基本的な法律用語の意味 第5回 報告・質疑応答① 第6回 法学会総会 第7回 レポート提出①、報告・質疑応答② 第8回 レポート提出②、報告・質疑応答③ 第9回 レポート提出③、報告・質疑応答④ 第10回 レポート提出④、報告・質疑応答⑤ 第11回 レポート提出⑤、報告・質疑応答⑥ 第12回 レポート提出⑥、報告・質疑応答⑦ 第13回 レポート提出⑦、報告・質疑応答⑧ 第14回 レポート提出⑧、レポートの書き方について
教科書	1 弥永真生『法律学習マニュアル[第3版]』(有斐閣、2009年) 2『ポケット六法 平成22年度版』(有斐閣、2009年)(最新のもの)
参考書・資料	新聞記事等
担当者から一言	・出席が成績評価において大きな比重を占めます。毎回必ず出席し、積極的に課題の報告と質疑・応答に参加してください。 ・法改正等が頻繁に行われています。六法は指定された最新のものを準備し、毎時間必ず持参して下さい。

授業コード	41L11		
授業科目名	基礎演習(池田)(前)		
担当者名	池田佳隆(イケダ ヨシタカ)		
配当年次	1年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	火曜2限
オフィスアワー	水曜4限		

講義の内容	ナショナリズムに関するテキストを題材として、政治学や国際関係論の基本的な考え方を学ぶことを目的とする。 それとともに、レジュメの作成や口頭発表の方法などについても説明する。
到達目標	政治学や国際政治学の基本的な概念を理解する。 様々な情報をまとめた上で自分の意見を発表できるようになる。
講義方法	毎回報告の担当者を決め、その報告の後に全員で議論する。
準備学習	テキストの該当部分を読んでおく。
成績評価	報告時のパフォーマンスと議論への貢献度を総合的に評価する。
講義構成	第1回 共通講義(基礎演習の主旨、教員紹介、履修登録ガイダンス) 第2回 共通講義(教材関連ガイダンス、図書館・サイバーライブラリの活用方法、キャリアセンターの活動紹介) 第3回 共通講義(法学・政治学の論文作成方法、国際交流センター活動紹介等) 第4回 自己紹介と報告者の決定 第5回 報告と議論 第6回 法学会総会 第7回～第13回 報告と議論 第14回 まとめの議論
教科書	大澤真幸・姜尚中編『ナショナリズム論・入門』有斐閣、2009年
担当者から一言	テレビ・新聞・インターネットなどを通じて、色々なニュースに興味を持つようにしておいてください。

授業コード	41L12
-------	-------

授業科目名	基礎演習（桑岡）(前)		
担当者名	桑岡和久(クワオカ カズヒサ)		
配当年次	1年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	火曜2限
オフィスアワー	火曜日昼休み		

講義の内容	契約や事故、家族といった生活に関わる民法の基本的な事柄
到達目標	契約など具体的なケースを素材に講義や教科書で得た法律の知識を使って自ら解決を試みる作業を通じて、法律学の基本的な考え方を身につけることを目的にしています。
講義方法	報告と討論によって進めます。
準備学習	各テーマごとに教科書の該当範囲を読み込んだ上で、具体的なケースについて法的にどのように解決されるかを考える。
成績評価	発表と討論での発言が主な評価対象です。出席も加味します。
講義構成	第1回 共通講義(法学部長によるガイダンス、教員紹介) 第2回 共通講義(教材関連ガイダンス、図書館・サイバーライブラリの活用方法) 第3回 共通講義(キャリアセンターの活動紹介、法学・政治学の論文作成方法、課題設定) 第4回 基礎演習ガイダンス 第5回 民事法とは何か 第6回 法学会総会 第7回 権利とは何か、義務とは何か／権利はどのように実現するのか 第8回 契約① 契約が成立する時点での問題 第9回 契約② 契約する人の問題(代理) 第10回／第11回 契約③ 契約を実現する段階の問題 第12回 家族法 第13回 不法行為 第14回 物権、とくに所有権
教科書	野村豊弘「民事法入門」 最新版を用意してください
参考書・資料	六法を持参してください

授業コード	41L13		
授業科目名	基礎演習（武井）(前)		
担当者名	武井 寛(タケイ ヒロシ)		
配当年次	1年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	火曜2限
オフィスアワー	水曜4限		

講義の内容	世情問題となっている(つまり、多様なまたは相対立する見解が存在する)ことがら(新聞記事・各種ニュース等で取り上げられている問題ーたとえば、臓器移植、介護・高齢者医療、米軍基地と日米安保、年金、夫婦別姓、取り調べの可視化等々)について議論することを通して、今後専門科目を学んでいくための基本的な作法(情報収集・整理、検討、レジュメの作成、報告、議論、レポート作成等)を身につけてもらいたいと思っています。
到達目標	どのような問題であれ、一定の論拠・理由を示して、自分なりの考えを人に伝えることができるようになること。
講義方法	何人か(受講生の数により変動する)でグループを作り、グループごとに、選択したテーマについて情報収集をし、分析・検討し、一定の見解を提示してもらい、それに基づいて、全員で議論を行っていきます。
準備学習	新聞で特集して取り上げられるテーマなどにつき、日頃から注意し、読み込むこと。
成績評価	総合評価になりますが、おおむね、出席が5割、テーマに関する検討・報告等への関与が3割、質疑応答への参加が2割というあたりになるでしょう。
講義構成	第1回 共通講義(基礎演習の主旨、教員紹介、履修登録ガイダンス) 第2回 共通講義(教材関連ガイダンス、図書館・サイバーライブラリの活用方法、キャリアセンターの活動紹介) 第3回 共通講義(法学・政治学の論文作成方法、国際交流センター活動紹介等) 第4回 自己紹介、グループ分け、テーマの設定

	第5回 テーマの設定(続き[予備]), 順番設定, 資料収集その他 第6回 法学会総会 第7回以降 各グループの報告とそれにもとづく質疑・討論
教科書	なし。受講生の提示した報告が, すなわち教科書ということになります。
参考書・資料	なし。受講生の提示したものが…(以下同文)。
講義関連事項	第4回講義において, 各人の興味・関心をもっている社会(法律問題含む)問題について, ひとりひとり述べてもらいますので, あらかじめ考えておいてください。
担当者から一言	毎日新聞を読み, 記事と対話してみてください。そして, どのような法律がそれと関係しているか考えるようになれば, さらに, それについて自分で調べ始めるようになれば, どんな専門科目もだいじょうぶ…かも知れません。

授業コード	41L14		
授業科目名	基礎演習（住田）(前)		
担当者名	住田英穂(スミタ ヒデホ)		
配当年次	1年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	火曜2限
オフィスアワー	木曜日の昼休み 事前に連絡するようにして下さい。		

講義の内容	今後、法律学を学んでいく上で必要になる学習方法を身につけてもらうようにしたいと思います。具体的には、①文献・資料の検索・収集、②文献・資料の精読・分析、③レジュメの作成、④発表、⑤レポートの作成の5つの場面にわたって、指導を行いたいと思います。
到達目標	① 課題にそって、図書館を利用して調査・分析することができること。 ② 調査・分析した成果を、レジュメにわかりやすくまとめることができること。 ③ 調査・分析した成果を、レポートにまとめることができること。
講義方法	グループごとに課題を割り当て、レジュメを作成し、報告をしてもらい、その後に、全員で討論を行います。報告したテーマについて、各自、レポートを提出してもらいます。なお、担当教員の専攻は、民法ですので、課題も民法に関連するものになります。
準備学習	毎回、課題を出すので、きちんと予習してゼミに参加するようにして下さい。
成績評価	①出席 ②発表 ③レジュメ ④レポート ⑤討論における発言の5つを評価の対象にします。特に、③レジュメと④レポートは、大きなウエイトを占めます。
講義構成	第1回 共通講義(基礎演習の趣旨、教員紹介、履修ガイダンス) 第2回 共通講義(教材関連ガイダンス、図書館・サイバーライブラリの活用方法、キャリアセンターの活動紹介) 第3回 共通講義(法学・政治学の論文作成方法 国際交流センター活動紹介等) 第4回 今後の活動の打ち合わせ、報告者の割り当て 第5回 担当グループによる報告 第6回 法学会総会 第7回以降 担当グループによる報告
教科書	課題に応じて、適宜指示するようにします。
参考書・資料	課題に応じて、適宜指示するようにします。
担当者から一言	大学では、自ら、問題を発見し、調査・分析をしていくことが要求されます。受講生には、物事が主体的に考えられるようになって欲しいと切に願っています。

授業コード	41L15		
授業科目名	基礎演習(久保)(前)		
担当者名	久保はるか(クボ ハルカ)		
配当年次	1年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	火曜2限
オフィスアワー	随時行います。あらかじめご連絡ください。		

講義の内容	次の3つを目的とします。 第一に、「政治」とは何なのか、何故我々は政治に参加する必要があるのか……その基本的な考え方と政治の仕組みを学ぶとともに、現代社会の問題を考えます。 第二に、専門書を精読し要約すること、参考文献・資料の探し方、レジュメの作り方、発表の仕方、議論の仕方を学んでもらいます。これらは大学で是非身につけてもらいたいスキルです。 第三に、レポートの書き方を指導します。
到達目標	第一に、政治参加についての基本的な考え方と政治の仕組みについて理解し、現代社会の問題を考察すること。 第二に、専門書を精読し要約すること、参考文献・資料の探し方、レジュメの作り方、発表の仕方、議論の仕方を習得すること。 第三に、形式を整えたレポートを仕上げること。
講義方法	担当者を割り振り、あるいはグループごとに、割り当てられた課題文献についてレジュメを作成・報告してもらい、その後、全員で議論をします。 2回ほど、あらかじめ提出された課題レポートの指導の時間を設けます。演習での学習とレポート指導をふまえて、最終的にレポートを書き直し再提出してもらいます。
準備学習	今何が起きているのか、何が問題なのか……日ごろから新聞等を読む習慣をつけましょう。
成績評価	出席状況、報告内容、議論への貢献の度合い、レポートから総合的に評価します。
講義構成	第1回 共通講義(基礎演習の主旨、教員紹介、履修登録ガイダンス) 第2回 共通講義(教材関連ガイダンス、図書館・サイバーライブラリの活用方法、キャリアセンターの活動紹介) 第3回 共通講義(法学・政治学の論文作成方法、国際交流センター活動紹介等) 第6回 法学会総会 第4回以降: 担当者あるいはグループによる報告と議論(ゼミ形式)+レポートの書き方指導 第14回: 最終レポートの提出
教科書	文献・資料を配布します。 担当者には、必要に応じて、関連文献・資料の探し方を指導します。
担当者から一言	ゼミには、受身ではなく積極的な姿勢で臨みましょう！

授業コード	41L16		
授業科目名	基礎演習（櫻井）(前)		
担当者名	櫻井智章(サクライ トモアキ)		
配当年次	1年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	火曜2限
オフィスアワー	未定(追って連絡します)		

講義の内容	元榮太郎『刑事と民事』を読む。 この本は、副題「こっそり知りたい裁判・法律の超基礎知識」が示すように、法や裁判に関する基本的な事柄を扱ったものです。
到達目標	文献を読んで報告することを通じて、法学に関する基礎的な知識を学ぶとともに、①内容を的確に理解する能力、②理解した内容を他人にも理解できるようにまとめる能力、③分かりやすいように伝える能力、を身につけることを目的とする。 併せて、今後法学を勉強してゆく際に必要となってくる、判例・法令や文献を収集する方法を身につけることも目的とする。
講義方法	担当者が報告し、その後、質疑応答を行う。 適宜、教員が補足・解説・コメントを加える。
準備学習	毎回、教科書の該当箇所を読んでくる。
成績評価	総合評価で判断しますが、概ね 出席・授業態度(60点)、レポート(10点)、報告(30点) と考えてください。 出席は厳しくとります。 詳細は第4回のガイダンスの際に説明します。
講義構成	第1回 共通講義

	第2回 共通講義 第3回 共通講義 第4回 ガイダンス、担当者の決定等 第5回 報告・質疑応答 第6回 法学会総会 第7回～第14回 報告・質疑応答
教科書	元榮太郎『刑事と民事』（幻冬舎新書、2008年） 教科書は担当教員が準備するので、受講者が購入する必要はありません。 第4回（最初の個別授業）に配布します。
参考書・資料	第4回のガイダンスの際に説明します。 その際に説明しますが、小型の六法を必ず持参してください。
担当者から一言	やる気のある学生を待っています。

授業コード	41L17		
授業科目名	基礎演習（岡森）(前)		
担当者名	岡森識晃(オカモリ シアキ)		
配当年次	1年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	火曜2限
オフィスアワー	火曜昼休み		

講義の内容	法学を学ぶに当たって必要な技能、すなわち、文献検索、レジュメの作成及び報告の手法を習得するとともに、これらを駆使して、興味を持った環境問題や環境法について報告し、全員で討論する。
到達目標	環境問題及び環境法に関する基礎的な知識を習得することができる。 文献検索、レジュメの作成及び報告の手法を習得することができる。
講義方法	ゼミ形式で行う。演習の進め方など、詳細については、顔ぶれがそろってから、相談して決定する。基本的には、報告者による報告と全員での討論という形式をとる。
準備学習	環境問題及び環境法に対する問題意識をもって受講することが望ましい。
成績評価	出席状況、ゼミ報告等を総合的に判断して行う。
講義構成	1. 教員紹介（共通講義） 2. 文献資料の探し方（共通講義） 3. 論文作成の仕方（共通講義） 4. 報告テーマの設定 5. 資料収集 6. 法学会総会（共通講義） 7. 資料収集 8. レジュメ作成 9. レジュメ作成 10. レジュメ作成 11. 報告 12. 報告 13. 報告 14. 報告 15. 報告
教科書	特に指定しない。
参考書・資料	南博方・大久保規子『要説環境法（第4版）』（有斐閣・2009年）。
担当者から一言	報告では、はじめて聞く人にわかりやすく発表し、討論では、積極的に参加することができるよう心がけて下さい。

授業コード	41L18
-------	-------

授業科目名	基礎演習（森永）(前)		
担当者名	森永真綱(モリナガ マサツナ)		
配当年次	1年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	火曜2限
講義の内容	刑事法のアクチュアルなテーマを素材に、法学へのアプローチを行う。テーマは刑罰の存在意義、テロリズム、公訴時効制度などを予定している。		
到達目標	法学を学ぶ上で必要な基礎的能力を培うことを目的とする(情報収集・整理、発表、質疑・応答、レポート作成の方法など)。		
講義方法	共通講義・総会以外の回は、担当者に一つのテーマについて報告してもらい、それについて全員で討論を行う。		
準備学習	武藤眞朗ほか『法を学ぶパートナー(補訂版)』(成文堂・2009)を一通し読んでおくことが望ましい。		
成績評価	発表内容および討論における発言内容、受講態度によって評価する。出席状況も加味する。		
講義構成	第1回 共通講義(基礎演習の主旨、教員紹介、履修登録ガイダンス) 第2回 共通講義(教材関連ガイダンス、図書館・サイバーライブラリの活用方法、キャリアセンターの活動紹介) 第3回 共通講義(法学・政治学の論文作成方法、国際交流センター活動紹介等) 第6回 法学会総会 それ以外の回については、担当者に一つのテーマについて報告してもらい、それについて全員で討論を行う。テーマはテロリズム、公訴時効制度などを予定している。		
教科書	武藤眞朗ほか『法を学ぶパートナー(補訂版)』(成文堂・2009)『ポケット六法 平成22年度版』(有斐閣・2009)、『セレクト六法 平成22年度版』(岩波書店・2009)などの小型の六法一冊。		

授業コード	41L19		
授業科目名	基礎演習（田中）(前)		
担当者名	田中誠人(タナカ マコト)		
配当年次	1年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	火曜2限
講義の内容	社会における法律・法制度に関する問題点をピックアップし、問題意識を受講生全員で共有したうえで、当該問題をどのように考えるべきか、議論・検討する。		
到達目標	基本的な資料の集め方から、議論の進め方、他者の意見を聞き、分析し、自己の意見を表明することに習熟することを心がけながら、社会における様々な法的問題につき、知識を高める。		
講義方法	各自(人数が多い場合には各グループ)が問題を提起し、その問題の内容や資料を紹介したうえで(前週後半30分程度)、各自がその問題を検討し、議論を行う(次週前半1時間程度)。		
準備学習	社会においてどのような問題が生じているか日々関心を高め、新聞などをしっかりと読み、ニュースを聞くなど、情報収集を心がけたうえで、さらにもう一歩、自分がどのように感じるか、問題は何かなど、分析を行う姿勢を身につけていただきたい。		
成績評価	受講態度、議論への参加状況など、総合的な判断(50%) 自分の提起した問題につき、議論を経た最終的な私見についてのレポート(50%)		
講義構成	第1回 共通講義(基礎演習の主旨、教員紹介、履修登録ガイダンス) 第2回 共通講義(教材関連ガイダンス、図書館・サイバーライブラリの活用方法、キャリアセンターの活動紹介) 第3回 共通講義(法学・政治学の論文作成方法、国際交流センター活動紹介等) 第4回 ガイダンス・課題設定・班分け・演習方針・サンプル提示 第5回 サンプルディスカッション＋初回テーマ設定 第6回 法学会総会 第7～14回 ディスカッション＋次週テーマ設定		
教科書	新聞、インターネット、論文など、必要に応じて参照。		
参考書・資料	必要に応じて、適宜アドバイスをを行う。		
担当者から一言	法律学において正解はありません。それぞれの異なる価値観の中で、何を重視するのか、どのような結果を望むのかを考えながら、皆でワイワイと語り合いましょう。		

授業コード	41L20		
授業科目名	基礎演習(益澤)(前)		
担当者名	益澤 彩(マスザワ アヤ)		
配当年次	1年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	火曜2限
オフィスアワー	講義後		

講義の内容	身近な法律問題をテーマにして、法学部で学ぶための基礎的なことから(文献の利用・検索、文章作成、プレゼンテーション・質疑応答など)を行います。		
到達目標	文献の利用・検索、文章作成、プレゼンテーション、質疑応答などの基礎的な能力を身につけること		
講義方法	・クラス別の初回の講義(第4回) クループ分け、テーマの割当、文献配布など ・第5回以後の講義 担当グループによるレジュメを用いたプレゼンテーション 上記プレゼンテーションをもとに全員で質疑応答 共通講義の内容やテーマにそくして、教員からの補足・解説		
準備学習	普段から、ニュースを聞いたり新聞を読むようにして下さい。 講義で取り上げるテーマに関しては、別途、指示します。		
成績評価	①出席率・レポート(60点)、②プレゼンテーション・質疑応答への参加状況などの授業態度(40点)で評価します。 「欠席(K)」は、①で20点未満の場合です。		
講義構成	第1～3回 共通講義(142教室) 第4回 クラス別(オリエンテーション、グループ分けなど) 第5回 クラス別 第6回 法学会総会 第7回～14回 クラス別		
教科書	クラス別講義で用いる文献・資料は、第4回講義以後に教員から配布する。		

授業コード	41L21		
授業科目名	基礎演習(笹倉)(前)		
担当者名	笹倉香奈(ササクラ カナ)		
配当年次	1年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	火曜2限
オフィスアワー	講義時又はメールにて事前に予約してください。		

講義の内容	受講生によって行われるプレゼンテーションと、それを受けた討論によって、刑事法分野の問題に関する理解を深めるゼミです。各自で行っていただくプレゼンテーションのトピックの選択は自由です。刑事法入門の受講生であれば、講義で扱った内容を、復習を兼ねてもう一度取り上げていただくということでもかまいません。		
到達目標	刑事法を中心とした諸問題を素材として、大学での学習方法と法学の基礎的な考え方を身につけ、プレゼンテーションの方法、議論の仕方を習得することを目的とします。		
講義方法	ゼミ形式で行います。各自でトピックを選択し、下調べを行ってレジュメを準備し、ゼミ当日にプレゼンテーションをして頂きます。報告後、全員で討論を行います。		
準備学習	「刑事法入門」を履修していること。		
成績評価	出席状況、報告を担当する際のプレゼンテーション及び配付資料の内容、議論への参加の程度、その他受講態度を総合して評価します。議論への積極的な参加が、単位修得の大前提です。		
講義構成	第1回 共通講義(基礎演習の趣旨・教員紹介・履修登録ガイダンス・国際交流センターガイダンス) 第2回 共通講義(教材関連ガイダンス、図書館・サイバーライブラリーの活用法、キャリアセンターの活動紹介) 第3回 共通講義(法学・政治学の論文作成方法、各ゼミでの打合わせ)		

	第4回 自己紹介、グループ分け・担当の割当て 第5回 資料の探し方の練習 第6回 法学会総会 第7回以降 各グループの報告・討論
教科書	特に指定しません。受講生の関心に応じて、適宜文献紹介を行います。 六法は必ず持参してください。
講義関連事項	受講生からの希望があれば、課外活動として裁判所見学(または裁判傍聴)等を開催します。課外活動の実施は、金曜日の午後の時間帯になります。
担当者から一言	* 自分が報告担当でないときにも、他の受講生の報告や議論から学ぶことは多くあります。常に積極的に講義に参加してください。大学では、自ら問題を発見し、探求していくというプロセスが大切です。そうして、そのようなプロセスを体験することで、勉強の本当の楽しさを見つけることができると思います。 * 「刑事法入門」を選択している者で、さらに刑事法を勉強したいという意欲がある者を歓迎します。

授業コード	41023		
授業科目名	行政学I（前）		
担当者名	久保はるか（クボ ハルカ）		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	水曜1限
オフィスアワー	随時行います。あらかじめメールでご連絡ください。		

講義の内容	「行政」という主体について、どのようなイメージを持っているでしょうか。社会問題を解決してくれるありがたい存在でしょうか、それとも税金を無駄遣いする迷惑な存在でしょうか。政治が決定したことを肅々と執行する姿でしょうか、それとも政治をも凌駕する巨大な権力者でしょうか。 行政学Ⅰでは、まず、「行政」とはどのような存在であるのか、政府(行政)活動の位置づけの歴史的変遷と、行政学の議論を紹介します。そして、現代日本の統治構造における行政の位置づけと制度を確認します。全体を通して、行政と政治との関係、行政と民間との関係から、「行政」とは何かを考えていきます。
到達目標	授業では、公務員試験を受験する学生にも対応しうよう、基本的な概念の解説を心がけますが、単に用語を暗記するのではなく、「行政」を見る視点を身につけてもらいたいと思います。
講義方法	講義形式にて行います。 授業は特定の教科書に沿った構成としていませんが、随時参考とするべき基本的文献と該当ページを毎回示しますので、復習に活用してください。
準備学習	常日頃新聞等に目を通し、現在の政治行政の動きを追っておくことが望ましい。 復習には、授業で配布するレジュメに加えて、各自の目的にあった参考書の該当ページを読むとよいでしょう。
成績評価	期末試験の成績を基本とします。
講義構成	[ガイダンス] 「行政」のイメージ？ 授業の進め方、テキストの紹介と成績評価の説明。 Ⅰ. 「行政」とは何か Ⅰ－1. 行政の活動範囲の変化: 近代国家から福祉国家へ Ⅰ－2. 行政主体の変化: 近代官僚制から現代公務員制へ Ⅰ－3. 「行政学」の発展: アメリカ行政学の形成と展開を中心に Ⅱ. 統治構造と政府間関係 Ⅱ－1. 議院内閣制度と行政改革 Ⅱ－2. 官民関係の変化とNPM・行政改革 Ⅱ－3. 中央地方関係(政府間関係)
教科書	授業は特定の教科書に沿った構成としていませんが、随時参考とするべき基本的文献として、とりあえず次のようなものをあげておきます。各自の目的にあったものを選んでもらえるよう、第1回のガイダンスで文献の説明をします。 真淵勝『行政学』有斐閣、2009年 今村都南雄ほか『ホーンブック基礎行政学』北樹出版、2006年 森田朗『改訂版 現代の行政』放送大学教育振興会、2000年 西尾勝『行政学(新版)』有斐閣、2001年 行政学ⅠとⅡを通年で受講する予定の者は、最新の教科書である真淵勝『行政学』を購入することをお勧めします。

参考書・資料	参考書については上記参照。 資料については、授業で適宜配布します。
担当者から一言	第1回目のガイダンスで、試験の形式や成績評価の詳細を説明しますので、受講者は必ず出席してください。

授業コード	41024		
授業科目名	行政学Ⅱ(後)		
担当者名	久保はるか(クボ ハルカ)		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	水曜2限
オフィスアワー	随時行います。あらかじめご連絡ください。		

講義の内容	行政学Ⅱでは、行政の組織と活動に焦点を当てます。 まず、官僚制と行政組織に関する理論を学び、次いで、日本の行政組織の体系と意思決定の仕組み、公務員制度を取り上げ、日本の官僚制の特徴を学んでもらいます。また、地方自治体の組織と活動についても取り上げます。最後に、行政活動のシナリオとなる政策について取り上げ、最後に行政の活動を社会との関係から理解してもらいます。
到達目標	行政学Ⅰでは、「行政」とは何かを学びましたが、行政学Ⅱでは、「行政」の具体的な姿を学びます。授業では、公務員試験を受験する学生にも対応しうよう、基本的な概念の解説を心がけますが、単に用語を暗記するのではなく、日本の行政の組織や活動の実態と課題について説明できるようになります。
講義方法	講義形式にて行います。 授業は特定の教科書に沿った構成としていませんが、随時参考とすべき基本的文献と該当ページを毎回示しますので、復習に活用してください。
準備学習	行政学Ⅰで説明した基本的な概念を前提とする部分がありますので、行政学Ⅰを受講していたほうが望ましい。 また、平日頃新聞等に目を通し、現在の政治行政の動きを追っておくことが望ましい。 復習には、授業で配布するレジュメに加えて、各自の目的にあった参考書の該当ページを読むとよいでしょう。
成績評価	期末試験の成績を基本とします。
講義構成	0. ガイダンス: 授業の進め方、テキストの紹介と成績評価の説明。 1. 行政組織と官僚制 1-1. 官僚制とは(ウェーバーの官僚制論) 1-2. 行政組織理論 2. 日本の行政組織(中央省庁体系) 3. 日本の中央省庁の決定方式 3-1. 内閣提出法案の作成過程 3-2. 予算編成過程の意思決定 4. 日本の公務員制度 4-1. 現代公務員制度の構成原理 4-2. 日本の公務員制度 5. 日本の地方自治 5-1. 都道府県と市区町村 5-2. 地方自治体の統治機構 5-3. 地方自治体の骨格: 組織・人事・財政 6. 政策過程 7. 行政活動と社会
教科書	授業は特定の教科書に沿った構成としていませんが、随時参考とすべき基本的文献として、とりあえず次のようなものをあげておきます。各自の目的にあったものを選んでもらえるよう、第1回のガイダンスで文献の説明をします。 真淵勝『行政学』有斐閣、2009年 今村都南雄ほか『ホーンブック基礎行政学』北樹出版、2006年 西尾勝『行政学(新版)』有斐閣、2001年 森田朗『改訂版 現代の行政』放送大学教育振興会、2000年 行政学ⅠとⅡを通年で受講する者は、最新の教科書である真淵勝『行政学』を購入することをお勧めします。
参考書・資料	参考書については上記参照。 資料については、授業で適宜配布します。

担当者から一言	第1回目のガイダンスで、試験の形式や成績評価の詳細を説明しますので、受講者は必ず出席してください。
---------	---

授業コード	41048		
授業科目名	行政救済法I(後)		
担当者名	島田 茂(シマダ シゲル)		
配当年次	3・4年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	金曜2限
オフィスアワー	毎回、講義の終了時に質問を受け付ける。		

講義の内容	行政事件訴訟法の一部を改正する法律が平成16年6月9日に公布された。行政事件訴訟法の改正は、司法制度改革の一環として行われ、義務づけ訴訟や差止訴訟などが新たに規定されることになった。講義では、この行政事件訴訟法の改正も視野に入れて、行政救済法の中心的存在である行政事件訴訟の全体的な構造を明らかにする。
到達目標	わが国の行政救済システムの概要を理解するとともに、その問題点と限界を認識すること。
講義方法	通常の講義方法を採用する。
準備学習	毎回、講義の最後で、次回の講義のテーマを知らせるので、事前に教科書等で該当部分を予習しておくこと。
成績評価	期末試験で評価する。
講義構成	1. 行政救済法の基本的な考え方 2. 行政訴訟制度と行政不服申立て制度 3. 行政訴訟法に関わる基本的諸概念 4. 行政訴訟の類型 5. 取消訴訟の機能 6. 訴えの利益 7. 処分性 8. 無効確認訴訟 9. 義務づけ訴訟と差止訴訟 10. 仮の救済 11. 取消訴訟の審理・判決 12. 行政裁量の司法統制 13. 客観訴訟 14. まとめ—行政争訟制度の課題
教科書	未定

授業コード	41049		
授業科目名	行政救済法II(後)		
担当者名	岡森識晃(オカモリ シアキ)		
配当年次	3・4年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	火曜2限
オフィスアワー	火曜昼休み		

講義の内容	行政救済法(行政不服審査法、行政事件訴訟法、国家補償)のうち、国家補償について講義する。国家補償制度は、損失補償制度と損害賠償制度からなる。関連法令や判例を参照しつつ、制度の概要及び問題点について検討する。
到達目標	国家補償の基礎的な知識を習得することができる。
講義方法	講義形式で行う。
準備学習	行政法総論 I・II を履修していることが望ましい。 行政救済法 I を履修していることが望ましい。
成績評価	期末試験の成績で評点する。
講義構成	1. はじめに

	2. 損失補償とは 3. 損失補償の法的根拠 4. 損失補償の内容と方法 5. 開発利益の社会還元とは 6. 国家賠償とは 7. 国家賠償制度の法的根拠－国家賠償法の制定－ 8. 公権力の行使に基づく損害賠償(1)－責任の性質－ 9. 公権力の行使に基づく損害賠償(2)－国又は公共団体・公権力の行使－ 10. 公権力の行使に基づく損害賠償(3)－公務員・その職務を行うについて－ 11. 公権力の行使に基づく損害賠償(4)－故意・過失－ 12. 公権力の行使に基づく損害賠償(5)－違法性－ 13. 公の営造物の設置管理の瑕疵に基づく損害賠償(1)－公の営造物－ 14. 公の営造物の設置管理の瑕疵に基づく損害賠償(2)－設置管理の瑕疵－ 15. まとめ
教科書	教科書 南博方『行政法(第6版)』(有斐閣・2009年)。
参考書・資料	小早川光郎・宇賀克也・交告尚史編『行政判例百選Ⅱ(第5版)』(有斐閣・2006年)。 その他の文献については、講義の折に適宜指示する。
担当者から一言	講義では、条文や判例を参照するので、六法及び判例集を持参することをお勧めします。

授業コード	41A91		
授業科目名	行政法総論I（1クラス)(前)		
担当者名	岡森識晃(オカモリ シアキ)		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	水曜4限
特記事項	法学部2年次		
オフィスアワー	水曜5限		

講義の内容	行政法は、行政権の濫用を防ぐために、行政を法によって拘束し、もって国民の人権を保護し、公共の福祉に寄与することを目的としている。この講義においては、行政法総論のうち、行政法とはどのような法か、行政上の法律関係とはどのようなものか、行政は誰が行うか、行政はどのような作用を行うか、行政行為とは何か、行政行為はどのような効力をもつかについて、主に検討する。各テーマは、基礎編と応用編からなる。基礎編では、そのテーマに関する基礎理論を外観し、応用編では、そのテーマに関する論点を取り上げて、詳細に分析する。
到達目標	行政法に関する基礎的な知識を習得することができる。 時事問題を行政法の視点から見ることができるようになる。
講義方法	講義形式で行う。
準備学習	公法入門を履修していることが望ましい。
成績評価	期末試験の成績で評点する。出欠をとることもある。
講義構成	1. はじめに 2. 行政法とはどのような法か(基礎編) 3. 行政法とはどのような法か(応用編) 4. 行政は誰が行うか(基礎編) 5. 行政は誰が行うか(応用編) 6. 行政はどのような作用を行うか(基礎編) 7. 行政はどのような作用を行うか(応用編) 8. 行政上の法律関係とはどのようなものか(基礎編) 9. 行政上の法律関係とはどのようなものか(応用編) 10. 行政行為とは何か(基礎編) 11. 行政行為とは何か(応用編) 12. 行政行為はどのような効力をもつか(基礎編) 13. 行政行為はどのような効力をもつか(応用編) 14. 行政行為以外の行政作用にはどのようなものがあるか 15. まとめ
教科書	南博方『行政法(第6版)』(有斐閣・2009年)。
参考書・資料	小早川光郎・宇賀克也・交告尚史編『行政判例百選Ⅰ(第5版)』(有斐閣・2006年)。

	その他の文献については、講義の折に適宜指示する。
担当者から一言	応用編では基礎編で得た知識を前提として講義するので、基礎編をしっかりと理解した上で、応用編を受講する必要があります。

授業コード	41A92		
授業科目名	行政法総論I（2クラス)(前)		
担当者名	長谷川佳彦(ハセガワ ヨシヒコ)		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	木曜1限
特記事項	法学部2年次以外		

講義の内容	行政法は、行政に特有または固有の法といわれるが、行政の活動が広範に及んでいる現在、われわれの日常生活と密接に関係する法分野でもある。行政法総論Ⅰでは、行政法の全体像を概観した上で、法律による行政の原理など、行政法の基本原理について講義を行う。あわせて、行政組織法の一般理論についても説明する。
到達目標	1. 行政法の存在意義と体系を説明することができる。 2. 法律による行政の原理などの行政法の基本原理について、具体例を挙げて説明することができる。 3. 行政組織法の一般理論を説明することができる。
講義方法	レジュメを配布し、それに基づいて講義形式で行う。
準備学習	1. 憲法の講義などを通じて、憲法の知識を修得していることが望ましい。 2. 予め教科書の該当箇所やレジュメを読んでアウトラインをつかんだ上で、講義に臨んでもらいたい。 3. 復習の際には、教科書やレジュメをもう一度読み直して理解を定着させるとともに、余力があれば参考書を用いてより高度な知識を身につけるよう努めてほしい。
成績評価	定期試験の成績で評価する。
講義構成	第1回 オリエンテーション・行政法の意義 第2回 行政法の全体像 第3回 行政法の法源・行政法令の効力 第4回～第6回 法律による行政の原理 第7回～第8回 信頼保護の原則・その他の行政法の一般原則 第9回～第11回 行政裁量 第12回～第13回 行政組織法概論 第14回 まとめ
教科書	芝池義一『行政法読本』（有斐閣、2009年）
参考書・資料	芝池義一『行政法総論講義〔第4版補訂版〕』（有斐閣、2006年） 小早川光郎=宇賀克也=交告尚史編『行政判例百選Ⅰ・Ⅱ〔第5版〕』（有斐閣、2006年） ＊他の参考書については、第1回の講義時に紹介する。
講義関連事項	講義には最低限小型六法を持参すること。

担当者から一言	行政法は抽象的な議論が多いので、常に具体例をイメージしながら勉強を進めていきましょう。 また、日頃から新聞を読んだりニュースを見たりするよう心掛けましょう。 行政法に関わる問題が社会で数多く生じていることに気付くはずですよ。
---------	--

授業コード	41047		
授業科目名	行政法総論Ⅱ（後）		
担当者名	長谷川佳彦（ハセガワ ヨシヒコ）		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	木曜1限
講義の内容	行政法総論Ⅰで習得した知識を前提に、行政作用法、すなわち行政が国民にむかって対外的に行う作用に関する法について講義を行う。		

到達目標	1. 行政が国民にむかって行う多様な活動形態を、具体例を挙げて説明することができる。 2. 多様な行政活動に対する法的統制について、説明することができる。
講義方法	レジュメを配布し、それに基づいて講義形式で行う。
準備学習	1. 行政法総論 I で説明したことを前提に講義を進めるので、行政法総論 I が履修済みであることを強く希望する。 2. 予め教科書の該当箇所やレジュメを読んでアウトラインをつかんだ上で、講義に臨んでもらいたい。 3. 復習の際には、教科書やレジュメをもう一度読み直して理解を定着させるとともに、余力があれば参考書を用いてより高度な知識を身につけるよう努めてほしい。
成績評価	定期試験の成績で評価する。
講義構成	第1回 オリエンテーション・行政作用法の概観 第2回 行政立法 第3回～第7回 行政行為（行政処分） 第8回～第9回 行政上の義務履行確保の制度 第10回 行政指導 第11回 行政計画・行政契約 第12回～第13回 行政手続 第14回 情報公開・個人情報保護
教科書	芝池義一『行政法読本』（有斐閣、2009年）
参考書・資料	芝池義一『行政法総論講義〔第4版補訂版〕』（有斐閣、2006年） 小早川光郎=宇賀克也=交告尚史編『行政判例百選 I・II〔第5版〕』（有斐閣、2006年） ＊他の参考書については、第1回の講義時に紹介する。
講義関連事項	講義には最低限小型六法を持参すること。
担当者から一言	行政法は抽象的な議論が多いので、常に具体例をイメージしながら勉強を進めていきましょう。 また、日頃から新聞を読んだりニュースを見たりするよう心掛けましょう。 行政法に関わる問題が社会で数多く生じていることに気付くはずです。

授業コード	41087		
授業科目名	経済法I(前)		
担当者名	濱谷和生(ハマトニ カズオ)		
配当年次	3・4年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	月曜4限
オフィスアワー	原則として火曜日昼、しかし在室している限りいつでもドアをノックして下さい。		

講義の内容	私たちが暮らしている経済社会は、一見無秩序に動いているように見えるけれども、実はそこにはある秩序が法律制度として立ち立てられ、それを破ろうとする行為等を禁止したりする。とりわけ、技術が急激に進歩し、ヒト・モノ・カネ・情報の点で経済のグローバル化が進み、国内的にも経済の構造改革・規制の改革が唱えられている目下のわが国の実情からは、そのような経済の秩序を経済の実情に合わせてどのように制度改革してゆくべきかという視点から、現状を観察することには重要な意味がある。この講義は、「経済法Ⅱ」と一体となって、現在国内で通用している基本的な経済秩序の概要を学ぶと共に、できれば今後の課題と展望をも学生諸君と一緒に探ろうとするものである。本講義は、学生諸君に、国内における経済秩序の基本をなす競争秩序とそれを守る法律である独占禁止法等の実体規制、ことに私的独占の禁止と不当な取引制限の禁止の概要を示すであろう。
到達目標	学習範囲における独占禁止法について、基本的な論点に関する基礎知識を獲得し、またそれにもとづいて、上記論点について、第三者に対して簡単に説明することができる能力を涵養する。
講義方法	講義は、原則として、まず対象となるテーマに関する、どうして・何故という疑問等から話が始まり、それを解きほぐし、できれば課題や展望を示すことで終わる。したがって、教科書的な観点からは説明を漏らすところも多くなる。その補完のため、学生諸君には、予習を前提にして、講義中も随時対話的な質疑が交わされることがある。また、必要に応じて理解度・到達度を評価するため、簡単なレポート等が課されることがある。
準備学習	ミクロ経済学の勉強が望まれる。また、常々に新聞・雑誌をよく読んで、時事的な話題に関心を持ち続けてほしい。さらに、経済学部・経営学部の受講者には、民商法・行政法・民事刑事の手続法に関わる基礎的知識の事前準備をお願いしたい。
成績評価	主として期末の筆記試験および随時に行われるレポート等により評価する。法学部ホームページ(http://www.law.konan-u.ac.jp)にある「授業支援と独習」「試験問題」のページで本科目の過去問と解説等を

	参照のこと。
講義構成	第1回 経済法の歴史と理論－総論 第2回 経済法の歴史と理論－総論（続き） 第3回 米国の歴史と現状 第4回 ドイツ法の歴史と現状 第5回 EU法の歴史と現状 第6回 日本法の歴史と現状 第7回 独禁法の基礎概念 第8回 集中規制－総論 第9回 集中規制－私的独占 第10回 集中規制－企業集中 第11回 集中規制－その他 第12回 カルテル規制－総論 第13回 カルテル規制－不当な取引制限 第14回 カルテル規制－その他
教科書	特に指定しない。ただし、レジュメについて、My Konan にて配布する。
参考書・資料	川浜・瀬領・泉水・和久井「ベーシック経済法（有斐閣アルマ）」 根岸・杉浦編「NJ経済法（法律文化社、2002年・三訂版）」
講義関連事項	常々、新聞・雑誌をよく読んで、時事的な話題に関心を持ち続けてほしい。

担当者から一言	「重要な論点をわかりやすく」を心がけますが、教員から知識を与えてもらうという姿勢では勉強になりません。自分からわからないことを理解しようとする積極姿勢に変えて下さい。
その他	以下の欧米のサイトを見ると文字化け等が起こったならば、ブラウザ(IEの場合)の「表示」→「エンコード」を日本語から西ヨーロッパ言語等に変更することをお勧めします。
ホームページタイトル	{公正取引委員会, http://www.jftc.go.jp/ } {米国司法省反トラスト局, http://www.usdoj.gov/atr/ } {米国FTC, http://www.ftc.gov/ } {EU競争総局, http://europa.eu.int/comm/competition/index_en.html }

授業コード	41088		
授業科目名	経済法Ⅱ（後）		
担当者名	濱谷和生（ハマトニ カズオ）		
配当年次	3・4年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	月曜2限
オフィスアワー	原則として火曜日昼、しかし在室している限りいつでもドアをノックして下さい。		

講義の内容	私たちが暮らしている経済社会は、一見無秩序に動いているように見えるけれども、実はそこにはある秩序が法律制度として立ち立てられ、それを破ろうとする行為等を禁止したりする。とりわけ、技術が急激に進歩し、ヒト・モノ・カネ・情報の点で経済のグローバル化が進み、国内的にも経済の構造改革・規制の改革が唱えられている目下のわが国の実情からは、そのような経済の秩序を経済の実情に合わせてどのように制度改革してゆくべきかという視点から、現状を観察することには重要な意味がある。この講義は、「経済法Ⅰ」と一体となって、現在国内で通用している基本的な経済秩序の概要を学ぶと共に、できれば今後の課題と展望をも学生諸君と一緒に探ろうとするものである。本講義は、学生諸君に、国内における経済秩序の基本をなす競争秩序とそれを守る法律である独占禁止法等の実体規制、ことに不公正な取引方法の概要および独禁法の執行体制を示すであろう。
到達目標	学習範囲における独占禁止法について、基本的な論点に関する基礎知識を獲得し、またそれにもとづいて、上記論点について、第三者に対して簡単に説明することができる能力を涵養する。
講義方法	講義は、原則として、まず対象となるテーマに関する、どうして・何故という疑問等から話が始まり、それを解きほぐし、できれば課題や展望を示すことで終わる。したがって、教科書的な観点からは説明を漏らすところも多くなる。その補完のため、学生諸君には、予習を前提にして、講義中も随時対話的な質疑が交わされることがある。また、必要に応じて理解度・到達度を評価するため、簡単なレポート等が課されることがある
準備学習	ミクロ経済学の勉強が望まれる。また、常々に新聞・雑誌をよく読んで、時事的な話題に関心を持ち続けてほしい。さらに、経済学部・経営学部の受講者には、民商法・行政法・民事刑事の手続法に関わる基礎的知識の事前準備をお願いしたい
成績評価	主として期末の筆記試験および随時に行われるレポート等により評価する。法学部ホームページ（ http://www.law.konan-u.ac.jp ）にある「授業支援と独習」・「試験問題」のページで本科目の過去問と解説等を

	参照のこと。
講義構成	第1回 不公正な取引方法－総論 第2回 不公正な取引方法－各論1 第3回 不公正な取引方法－各論2 第4回 不公正な取引方法－各論3 第5回 独禁法の執行体制－公正取引委員会の組織と権限 第6回 独禁法の執行体制－行政規制 第7回 独禁法の執行体制－刑事規制 第8回 独禁法の執行体制－私人による法の実現 第9回 国家の規律管轄権行使の意義と限界－いわゆる域外適用問題について 第10回 独禁法の適用除外制度 第11回 知的財産権と独禁法－総論 第12回 知的財産権と独禁法－事例分析を中心に 第13回 規制改革と競争政策－総論 第14回 国際取引と独禁法
教科書	特に指定しない。ただし、レジュメについて、My Konan にて配布する。
参考書・資料	川浜・瀬領・泉水・和久井「ベーシック経済法(有斐閣アルマ)」 根岸・杉浦編「NJ経済法(法律文化社、2002年・三訂版)」
講義関連事項	常々、新聞・雑誌をよく読んで、時事的な話題に関心を持ち続けてほしい。

担当者から一言	「重要な論点をわかりやすく」を心がけますが、教員から知識を与えてもらうという姿勢では勉強になりません。自分からわからないことを理解しようとする積極姿勢に変えて下さい。
その他	以下の欧米のサイトを見ると文字化け等が起こったならば、ブラウザ(IEの場合)の「表示」→「エンコード」を日本語から西ヨーロッパ言語等に変更することをお勧めします。
ホームページタイトル	{公正取引委員会, http://www.jftc.go.jp/ } {米国司法省反トラスト局, http://www.usdoj.gov/atr/ } {米国FTC, http://www.ftc.gov/ } {EU競争総局, http://europa.eu.int/comm/competition/index_en.html }

授業コード	41062		
授業科目名	刑事政策（後）		
担当者名	前田忠弘（マエダ タダヒロ）		
配当年次	3・4年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	金曜4限
オフィスアワー	水曜日午後（講義終了後などに予約してもらえれば確実です）		

講義の内容	刑事政策とは犯罪の原因と対策に関する科学です。そこでまず、本当に犯罪は増えているのか、凶悪化しているのか、治安は悪くなっているのか、そして犯罪発生への責任は犯罪者個人のみにあるのか、それとも他の外部的要因も影響を及ぼしているのか、ということについて、資料に基づき考えてみたいと思います。それらの検討をふまえて次に、現在の犯罪対策は効果的に機能しているかを確かめ、さらに有効な犯罪対策を展望したいと思います。 近年、犯罪予防や犯罪者処遇の分野では就労支援や生活支援など福祉との連携の必要性が強く意識されつつある一方で、厳罰化や監視強化を盛り込んだ刑事法の改正も積極的に行われています。 そこでこの講義は、刑罰制度の現状と新たな刑事制裁のあり方、犯罪者のインクルージョンを目指す施策、裁判員制度と犯罪被害者、現代社会に特徴的な犯罪と法的対応について概観し、考察することを内容とします。
到達目標	証拠に基づいて犯罪の実相を理解し、現在の刑事政策の妥当性を検証し、多文化共生社会における刑事政策のあり方を提案する力を身につけることを目標とします。
講義方法	教科書で予習していることを前提として、受講生との質疑応答を軸に講義を進めます。適宜、視聴覚教材やゲストスピーカーの講話を取り入れることによって理解を深めたいと思います。
準備学習	事前に示された講義課題に対する各自の考え方を、教科書や参考文献を用いてまとめたうえで、講義に出席してください。
成績評価	プレゼンテーション、フィールドワーク、レポート提出など各自が選択した講義と関連する学習活動(30%)、学期末試験(70%)を総合して成績を評価します。
講義構成	第1回 「体感治安」、「過剰収容」と犯罪の現況 第2回 刑事政策立法の動向

	第3回 犯罪を説明する様々な理論 第4回 犯罪対応としての刑事司法 第5回 刑罰および類似の制裁 第6回 犯罪者の司法前処遇 第7回 刑事施設に収容された人の権利と社会復帰に向けた処遇 第8回 犯罪者のインクルージョン 第9回 犯罪被害者の支援と司法参加 第10回 刑事政策における司法と福祉の連携 第11回 非行問題と少年法改正 第12回 非行少年の手続きと処遇 第13回 子どもの福祉と刑事政策 第14回 高齢社会と刑事政策 第15回 地域社会の安全と刑事政策
教科書	前野育三・前田忠弘ほか著『刑事政策のすすめ[第2版]』(法律文化社 2007年)
参考書・資料	平成21年版犯罪白書 このほか、講義の際に適宜、文献紹介をする。
講義関連事項	刑法、刑事訴訟法と密接に関連しますので、各自で復習をしてください。 とくに関心のある学生には、法心理学、法女性学、福祉法政策、司法福祉論(本年度は休講)、および野口弁護士担当の特講の履修をすすめます。
担当者から一言	警察官、刑務官、法務教官、保護観察官、家庭裁判所調査官、福祉施設職員、教員などを目指す学生には興味深い授業内容です。

授業コード	41060		
授業科目名	刑事訴訟法I（後）		
担当者名	笹倉香奈（ササクラ カナ）		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	水曜5限
オフィスアワー	講義時に又はメールで予約してください。		

講義の内容	刑事手続のうち、捜査に関する部分を扱います。捜査は、日本の刑事手続を大きく特色づけています。そこでどのような問題が起こっているか、また起こりつつあるのかを理解することは、日本における法のあり方を考える上で、きわめて重要です。
到達目標	捜査法の基本的なルールを理解しつつ、基本的人権にも関わる憲法上の諸問題に触れることで、法的なものの考え方を身につけることが本講義の目的です。
講義方法	講義形式で進めます。毎回レジュメを配布します。
準備学習	刑事法入門を履修済みであり、刑法総論・各論など、その他の刑事法関係科目を履修済みであるか、履修中であることが望ましい。
成績評価	学期末試験で評価します。
講義構成	1. イントロダクション ～刑事手続の基本構造 2. 捜査手続概説、捜査の基本原則、捜査の端緒 3. 任意捜査と強制捜査 4. 任意捜査の限界 5. 対物的強制処分(1) 6. 対物的強制処分(2) 7. 対物的強制処分(3) 8. 対人的強制処分(1) 9. 対人的強制処分(2) 10. 被疑者の取調べ(1) 11. 被疑者の取調べ(2) 12. 被疑者の防御(1)黙秘権 13. 被疑者の防御(2) 弁護士依頼権・接見交通権 14. まとめと復習 (進行状況によって変更することがあります)

教科書	上口裕、後藤昭、安富潔、渡辺修『刑事訴訟法〔第4版〕』（有斐閣、2006年） ＊六法は必ず持参してください。
参考書・資料	〔資料〕 井上正仁編『別冊ジュリスト・刑事訴訟法判例百選（第8版）』（有斐閣、2005年） 〔参考書〕 田中開、寺崎嘉博、長沼範良『刑事訴訟法〔第3版〕』（有斐閣、2008年） 福井厚『刑事訴訟法講義〔第3版〕』（法律文化社、2007年） 白取祐司『刑事訴訟法〔第5版〕』（日本評論社、2008年）
講義関連事項	毎回レジュメを配布します。レジュメは、MY KONANIにもアップロードするので、出席しない場合は、そこからダウンロードして下さい。ただし、穴埋めの部分の答えは、MY KONANIにアップロードしません。
担当者から一言	私語は他の受講生の迷惑になるため、厳禁です。緊張感をもって受講してください。他の受講生の迷惑になる行為を行った場合には、即刻退室していただきます。
その他	質問等は、kana.s@center.konan-u.ac.jpまで。

授業コード	41061		
授業科目名	刑事訴訟法Ⅱ（前）		
担当者名	富田智和（トミタ トモカズ）		
配当年次	3・4年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	火曜1限

講義の内容	刑事訴訟法のうち、公訴の提起から上訴・再審に至るまでの部分を取り扱う。 条文や制度、法律上の論点について解説することはもちろんであるが、それ以外にも現在刑事裁判に携わっている者として、現在の刑事裁判実務やその問題点などについても言及したいと考えている。
到達目標	刑事訴訟法のうち公訴の提起から上訴・再審に至るまでの基本的な事項についての理解が得られるようにしたいと考えている。
講義方法	講義形式で行う。
準備学習	教科書を事前に読んで講義に臨むのがベストである。また、新聞やニュースで刑事裁判について取り扱ったものがあれば興味を持って見ておくこと。
成績評価	学期末試験で評価する。
講義構成	1 刑事訴訟法序論（刑事手続の流れ、基本構造、刑事訴訟法の学び方） 2 公訴の提起（1） 3 公訴の提起（2） 4 公判期日の流れ、構造等 5 公判前整理手続、裁判員制度等 6 公判手続（1） 7 公判手続（2） 8 証拠法（1） 9 証拠法（2） 10 証拠法（3） 11 自白法則 12 伝聞法則（1） 13 伝聞法則（2） 14 裁判、上訴・再審 ※但し、講義の進行具合によっては変更されることがあり得る。
教科書	①上口裕・後藤昭・安富潔・渡辺修著「刑事訴訟法〔第4版〕」（有斐閣Sシリーズ） ②井上正仁「刑事訴訟法判例百選（第8版）」（有斐閣） ※六法は毎回必ず持参すること。 ※これ以外の参考文献については初回の講義において指示する。

授業コード	41A31
-------	-------

授業科目名	刑事法入門(刑法通論) (1クラス)(前)		
担当者名	笹倉香奈(ササクラ カナ)		
配当年次	1年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	水曜3限
特記事項	法学部1年次 出席番号1～250		
オフィスアワー	講義時に又はメールで事前に予約をしてください。		

講義の内容	刑法、刑事訴訟法、及び刑事政策の基礎を解説します。
到達目標	刑事法の基礎を学びつつ、専門科目を履修する上で必要な、法的思考力を身につけることが、本講義の目的です。
講義方法	講義形式で行います。
準備学習	講義時に配布するレジュメに、毎回の講義のポイントとなる点を記載します。必ず復習すること。
成績評価	学期末試験で評価します。
講義構成	1 刑事法とは ～刑事法の存在理由と全体構造 2 犯罪統計から学ぶ ～犯罪の現況 3 刑罰とは ～死刑存廃論を通して考える 4 刑法の基礎(1) ～刑法の原則 5 刑法の基礎(2) ～犯罪の成立要件① 6 刑法の基礎(3) ～犯罪の成立要件② 7 刑法の基礎(4) ～犯罪の成立要件③ 8 刑法の基礎(5) ～生命と刑法 9 刑事訴訟法の基礎(1) ～犯罪の捜査① 10 刑事訴訟法の基礎(2) ～犯罪の捜査② 11 刑事訴訟法の基礎(3) ～公訴の提起 12 刑事訴訟法の基礎(4) ～公判と裁判員制度 13 少年法 14 まとめと復習 * 講義の進行によって、予定を変更することがあります。
教科書	最新の六法(講義の際は必ず持参すること)。
参考書・資料	平成21年版犯罪白書 * 講義中に、適宜文献案内を行ないます。
講義関連事項	毎回レジュメを配布します。

担当者から一言	私語は厳禁です。緊張感をもって受講してください。
その他	レジュメ等はMY KONANIにアップロードします。

授業コード	41A32		
授業科目名	刑事法入門(刑法通論) (2クラス)(前)		
担当者名	笹倉香奈(ササクラ カナ)		
配当年次	1年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	水曜2限
特記事項	法学部1年次 出席番号251～最後、法学部2年次以上		
オフィスアワー	講義時に又はメールで事前に予約をしてください。		

講義の内容	刑法、刑事訴訟法、及び刑事政策の基礎を解説します。
到達目標	刑事法の基礎を学びつつ、専門科目を履修する上で必要な、法的思考力を身につけることが、本講義の目的です。
講義方法	講義形式で行います。
準備学習	講義時に配布するレジュメに、毎回の講義のポイントとなる点を記載します。必ず復習すること。

成績評価	学期末試験で評価します。
講義構成	1 刑事法とは ～刑事法の存在理由と全体構造 2 犯罪統計から学ぶ ～犯罪の現況 3 刑罰とは ～死刑存廃論を通して考える 4 刑法の基礎(1) ～刑法の原則 5 刑法の基礎(2) ～犯罪の成立要件① 6 刑法の基礎(3) ～犯罪の成立要件② 7 刑法の基礎(4) ～犯罪の成立要件③ 8 刑法の基礎(5) ～生命と刑法 9 刑事訴訟法の基礎(1) ～犯罪の捜査① 10 刑事訴訟法の基礎(2) ～犯罪の捜査② 11 刑事訴訟法の基礎(3) ～公訴の提起 12 刑事訴訟法の基礎(4) ～公判と裁判員制度 13 少年法 14 まとめと復習 * 講義の進行によって、予定を変更することがあります。
教科書	最新の六法(講義の際は必ず持参すること)。
参考書・資料	平成21年版犯罪白書 * 講義中に、適宜文献案内を行ないます。
講義関連事項	毎回レジュメを配布します。
担当者から一言	私語は厳禁です。緊張感をもって受講してください。
その他	レジュメ等はMY KONANにアップロードします。

授業コード	41058		
授業科目名	刑法各論I（後）		
担当者名	森永真綱（モリナガ マサツナ）		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	木曜1限

講義の内容	本講義では、刑法各論の各テーマの内、財産犯以外を対象とする。
到達目標	刑法各論の各テーマのうち財産犯以外に関する基本的な知識を修得してもらうと共に、刑法総論と有機的に関連づけ、刑法的な論理的・体系的思考力をより深めることを目的とする。
講義方法	レジュメに沿って進める。板書することもあるが、基本的には口頭による説明が中心である。
準備学習	刑法総論の講義内容を復習しておくこと。理解が不十分だった人は、井田良『基礎から学ぶ刑事法(第4版)』(2010年3月刊行予定・有斐閣)の第4章～第16章を読み復習しておくこと。また法学検定試験委員会編『2010年度法学検定試験問題集』の3級、4級(2010年4月刊行予定・商事法務)を使って、問題を解きつつ理解を深めるというやり方も有用である(やる気のある人なら、4級だけでなく、3級の問題にも十分対応可能である)。
成績評価	期末テストによる。
講義構成	1 生命・身体に対する罪(1) 2 生命・身体に対する罪(2) 3 自由に対する罪(1) 4 自由に対する罪(2) 5 人格に対する罪(1) 6 人格に対する罪(2)、信用・業務に対する罪 7 風俗に対する罪、放火罪(1) 8 放火罪(2) 9 放火罪(3) 10 偽造罪(1) 11 偽造罪(2) 12 偽造罪(3)・公務執行妨害罪 13 証拠隠滅罪・偽証罪

	14賄賂の罪 15まとめ
教科書	山口厚『刑法』(2005年・有斐閣)
参考書・資料	適宜指示する。
担当者から一言	刑法は、何回も繰り返すことで、徐々に理解が深まる領域なので、しっかり復習してください。

授業コード	41059		
授業科目名	刑法各論Ⅱ(刑法各論Ⅱ(財産犯)) (前)		
担当者名	平山幹子(ヒラヤマ モトコ)		
配当年次	3・4年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	火曜2限
オフィスアワー	開講時に連絡する。		

講義の内容	本講義は、刑法典が定めている種々の犯罪のうち、財産に対する罪を対象とするものである。
到達目標	実務上も重要な財産犯の諸規定に関する基本的に知識と、それに基づき事案を適切に処理する論理的思考力を身につけることが目的である。具体的には、法学検定試験(2級)や公務員試験、各種資格試験に対応する基礎知識と考え方の修得を目指す。
講義方法	毎回、講義構成、検討項目、問題の所在等を示したレジュメを配布し、口頭により説明する。とくに重要な項目については、黒板を用いるほか、受講生に練習問題を解いてもらいながら、進めることもある。
準備学習	事前に配布したレジュメ・資料には目を通してくること。
成績評価	学期末試験による。
講義構成	1 開講ガイダンス・財産犯総論 2 窃盗の罪(1) 3 窃盗の罪(2) 4 窃盗の罪(3) 5 強盗の罪(1) 6 強盗の罪(2) 7 詐欺の罪(1) 8 詐欺の罪(2) 9 恐喝の罪 10 横領の罪(1) 11 横領の罪(2) 12 背任の罪(1) 13 背任の罪(2) 14 盗品関与罪、毀棄・隠匿の罪
教科書	山口厚『刑法』(有斐閣・2005年)
参考書・資料	山口厚『刑法各論・補訂版』(有斐閣・2005年) 西田典之ほか編『刑法判例百選Ⅱ各論・第6版』(有斐閣・2008年)
講義関連事項	1. 教科書と六法を必ず持参すること。 2. 出席はとらない。 3. 講義中の私語を禁ずる。

担当者から一言	本講義は、各種資格試験に合格するための基礎知識の取得を目指すものである。まじめに勉強に取り組まないかぎり単位取得は望めないので、よく考えて選択すること。
---------	--

授業コード	41C31		
授業科目名	刑法総論I（1クラス)(後)		
担当者名	森永真綱(モリナガ マサツナ)		
配当年次	1年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	水曜1限

講義の内容	本講義では、刑法総論の各テーマの内、構成要件論、違法論、責任論の一部を対象とする。 ★なお、この講義は、より積極的に刑法をはじめとする法律学に挑戦しようとする方を対象としたクラスです。刑事法入門を始め前期の授業の理解が不十分であったと感じている方は、刑法総論Ⅰ②を受講してください。
到達目標	刑法総論の基本的な知識の修得、及び刑法特有の論理的・体系的な思考力を養うことを目的とする。
講義方法	レジュメに沿って進める。板書することもあるが、基本的には口頭による説明が中心である。
準備学習	井田良『基礎から学ぶ刑事法(第4版)』(2010年3月刊行予定・有斐閣)の第4章～第16章を読み、刑法を概観しておかれない。また法学検定試験委員会編『2010年度法学検定試験問題集』の3級、4級(2010年4月刊行予定・商事法務)を使って、問題を解きつつ理解を深めるというやり方も有用である(やる気のある人なら、4級だけでなく、3級の問題にも十分対応可能である)。
成績評価	期末テストによる。
講義構成	1刑法学序論(1) 2刑法学序論(2) 3罪刑法定主義 4構成要件論の基礎 5因果関係論(1) 6因果関係論(2) 7不作為犯論 8違法論の基礎、正当行為 9正当防衛論(1) 10正当防衛論(2) 11正当防衛論(3)、緊急避難論(1) 12緊急避難(2) 13責任論の基礎 14原因において自由な行為 15まとめ
教科書	山口厚『刑法』(2005年・有斐閣)
参考書・資料	適宜指示する。
担当者から一言	刑法は、何回も繰り返すことで、徐々に理解が深まる領域なので、しっかり復習してください。

授業コード	41C32		
授業科目名	刑法総論I（2クラス)(後)		
担当者名	前田忠弘(マエダ タダヒロ)		
配当年次	1年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	水曜1限
オフィスアワー	水曜日午後(講義終了後に予約してもらおうと確実です)		

講義の内容	この講義は、刑法総論の学習課題のうち、構成要件論、違法論、責任論の一部を内容とします。 ★なお、この講義は刑事法入門をはじめ前期の授業の理解が不十分であったと感じている学生を対象としたクラスです。より積極的に刑法をはじめとする法律学に挑戦しようとする学生は、刑法総論Ⅰ(1クラス)を受講してください。
到達目標	この講義では、犯罪の成立に関する基本的な知識と考え方を身につけるとともに、法的なものの見方、考え方の育成を目指します。
講義方法	教科書と講義時に配布するワークシートを用いて説明し、考えてもらいます。とくに重要な項目については、受講生に練習問題を解いてもらいながら進めることもあります。
準備学習	授業で理解できなかったところを質問できるように、復習を心がけてください。どんな小さな質問でも歓迎します。
成績評価	学期末試験によって、成績評価を行います。 なお、講義中に指示する任意提出の宿題につき、真摯または意欲的と評価できる場合には加点の対象とします。
講義構成	1 刑法の意義と役割 2 犯罪および刑罰の基礎的問題(1)罪刑法定主義 3 犯罪および刑罰の基礎的問題(2)刑罰論

	4 構成要件論の基礎 5 因果関係 6 不作為犯 7 中間まとめ 8 違法論の基礎 9 正当行為 10 正当防衛(1) 11 正当防衛(2) 12 緊急避難 13 責任論の基礎 14 故意と過失 15 まとめ
教科書	山口厚『刑法』(2005年 有斐閣)

担当者から一言	法学検定試験(3級)に対応できる刑法総論の基礎知識と考え方を修得できるように取り組みましょう。
その他	講義中の私語および携帯電話の使用(含メール)は厳禁です。 遅刻、中途退出、講義中の飲食、帽子的着用も原則として認めません(必要のある人は事前に連絡してもらおうと助かります)

授業コード	41057		
授業科目名	刑法総論Ⅱ（前）		
担当者名	森永真綱（モリナガ マサツナ）		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	水曜1限

講義の内容	本講義では、刑法総論の各テーマの内、責任論、未遂犯論、共犯論、罪数論を対象とする。
到達目標	刑法総論の基本的な知識の修得、及び刑法特有の論理的・体系的な思考力を養うことを目的とする。
講義方法	レジュメに沿って進める。板書することもあるが、基本的には口頭による説明が中心である。
準備学習	井田良『基礎から学ぶ刑事法(第4版)』(2010年3月刊行予定・有斐閣)の第4章～第16章を読み、刑法を概観しておきたい。また法学検定試験委員会編『2010年度法学検定試験問題集』の3級、4級(2010年4月刊行予定・商事法務)を使って、問題を解きつつ理解を深めるというやり方も有用である(やる気のある人なら、4級だけでなく、3級の問題にも十分対応可能である)。
成績評価	期末テストによる。
講義構成	1 故意 2 錯誤論(1) 3 錯誤論(2) 4 過失犯論(1) 5 過失犯論(2) 6 未遂犯論(1) 7 未遂犯論(2) 8 共犯の基礎理論(1) 9 共犯の基礎理論(2) 10 共同正犯(1) 11 共同正犯(2) 12 共犯の諸問題(1) 13 共犯の諸問題(2) 14 罪数論 15 まとめ
教科書	山口厚『刑法』(2005年・有斐閣)
参考書・資料	適宜指示する。

担当者から一言	刑法は、何回も繰り返すことで、徐々に理解が深まる領域なので、しっかり復習してください。
---------	---

授業コード	41033
-------	-------

授業科目名	現代政治学I(比較政治I) (前)		
担当者名	馬場 優(ババ マサル)		
配当年次	3・4年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	月曜1限

講義の内容	ヨーロッパの主要国の政治制度と政治的現状を紹介することを主たる内容とする。またそれと関連して、今日のヨーロッパ主要国が直面している問題のひとつである「貧困」に関する複数の問題を取り上げる予定である。
到達目標	ヨーロッパ主要国の政治制度とその歴史的背景、および政治の現状について理解できる。
講義方法	教科書と担当者が配布するレジュメと板書によって進めていく。
準備学習	テキストの予習
成績評価	定期試験(100%)
講義構成	1回目 イン트로ダクション 2回目 ヨーロッパ連合(EU) 3回目 ドイツ(1) 4回目 ドイツ(2) 5回目 ドイツ(3) 6回目 フランス(1) 7回目 フランス(2) 8回目 フランス(3) 9回目 イギリス(1) 10回目 イギリス(2) 11回目 イギリス(3) 12回目 イタリア(1) 13回目 イタリア(2) 14回目 オーストリア(1) 15回目 オーストリア(2)
教科書	網谷龍介・伊藤武・成廣孝編 『ヨーロッパのデモクラシー』(ナカニシヤ出版、2009年)
参考書・資料	必要に応じて紹介する。
講義関連事項	講義および試験全般については、第1回目で改めて言及するので、必ず出席すること。

担当者から一言	毎回授業に出席する義務はありません。学生の皆さんの自主性にお任せします。ただし、自分の都合で休んだ場合には、自分できちんと対処してください。授業中の不必要な教室の外への出入りはやめてください。携帯電話のために出て行くなら、授業開始までに電源を切るか、授業終了後に電話してください。他人の迷惑になることはやめてください。場合によっては、期末試験を受ける資格を剥奪することもあります。
---------	--

授業コード	41034		
授業科目名	現代政治学II(比較政治II) (後)		
担当者名	久米郁男(クメ イクオ)		
配当年次	3・4年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	火曜4限

講義の内容	社会における様々な財やサービスは、誰でも手に入れることができるわけではないという意味で「希少」である。この希少な資源をどのように配分するか、その仕組みとして市場経済が存在する。しかし、市場を通しての資源配分に対して政府も資源の配分を行う。この講義では、具体的な例を用いてこの市場と政府の関係を考える。
到達目標	現代の政治経済現象を見る視点を養う。
講義方法	講義形式で行うが、適宜、質問票を配布するなどして双方向の講義となるよう工夫をする。
準備学習	久米郁男他『はじめて出会う政治学 第3版』を読んでおくことが望ましい。
成績評価	講義中の課題と試験で行う予定である。
講義構成	以下の10のトピックについて講義を行う 第一部 理論 (1)市場メカニズム

	(2) 政府の役割 (3) 政府の能力と政治経済への影響 マクロ経済政策をめぐる経済学における論争を概観して、政府の能力に関する経済学的な見方を整理して説明する (4) 成功する政府・失敗する政府 政府の政策が成功したり失敗したりする原因に関する最近の理論を説明する 第二部 公共政策から見る (5) 財政赤字と政治制度 日本の財政赤字の拡大についてその原因を考える (6) バブル不況と政策対応 バブル崩壊後の長期不況への政策対応を事例に政策の失敗の原因を考える (7) 福祉政策 再分配政策の持つ意味と福祉政策の発展について考える (8) 福祉政策と労働市場 (9) 福祉政策と政治制度 (10) 資本主義の多様性
教科書	久米郁男他『New Liberal Arts Selection 政治学』有斐閣
担当者から一言	しっかり出席して講義を聴いてください。
ホームページタイトル	久米郁男ホームページ
URL	http://www.geocities.jp/kumeikuo/

授業コード	41A71		
授業科目名	憲法I (A)(後)		
担当者名	小泉洋一(コイズミ ヨウイチ)		
配当年次	1年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	木曜2限
特記事項	法学部1年次 出席番号1～210		
オフィスアワー	火曜日昼休み		

講義の内容	日本国憲法において人権保障がどのように表れているか、人権保障の基本原則は何か、憲法の人権規定に いかなる解釈上の問題があるか、この解釈上の問題をいかに考えるべきか。 これらの点を受講生に解説するのが、この講義の内容である。その重要な項目を次のとおりである。 人権の歴史と類型 幸福追求権 平等権 精神的自由権 思想良心の自由、信教の自由、学問の自由 表現の自由 表現の自由の限界 集会結社の自由 経済的自由権 人身の自由 社会権 生存権 教育の受ける権利、労働者の権利 受益権・参政権、国民の義務 人権保障の限界 講義では人権規定に関する個別の問題を扱った後、人権に関する一般的問題にふれる予定である。
到達目標	人権の基本原則、人権の種類、人権の内容、人権の特徴、人権の限界および人権に関する具体的な問題に 関して正確に理解すること。
講義方法	教科書に基づき講述する。他の講義資料の配付や板書などは最小限にとどめる予定である。
準備学習	教科書を入手してそれを開講前から通読し始めること。その際、理解できなくてもかまわない。それをとおして どのようなことを学ぶか、どのようなことがどこに書いてあるかを大まかに知っておくこと。それは受講していく際 に大いに役に立つはずである。 またこの科目専用のノートを用意しておくことも必要である。 何よりもよく勉強するという決意を持っておくことはもちろんである。

成績評価	もっぱら期末の筆記試験により成績評価を行う。筆記試験は、講義で取り扱った各事項に関するいくつかの記述の正誤を答えさせ、誤りのものには、その誤りの理由を述べさせるという形式の問題を数問出題するとともに、講義で扱った基本的事項や重要な問題点に関して各自が論説するという形式の問題を1題出題する予定である。このような出題によって、受講生が個々の事項について正確な理解をしているかを確認させていただくとともに、基本的事項について理解した上でいかに考察しているかを尋ねさせていただくようにする。 正誤問題の配点は100点満点で50点であり、論説問題は50点となる。 講義で取り扱ったことすべてを、試験の出題範囲とする。その重要事項は次のとおりである。 人権の歴史と類型 幸福追求権 平等権 精神的自由権 思想良心の自由、信教の自由、学問の自由 表現の自由 表現の自由の限界 集会結社の自由 経済的自由権 人身の自由 社会権 生存権 教育の受ける権利、労働者の権利 受益権・参政権、国民の義務 人権保障の限界 試験には教科書の持ち込みを可とする予定である。 成績の「欠席」かどうかの基準はこの試験を受けたかどうかとする。
講義構成	後期 第1回 人権の歴史と類型 第2回 幸福追求権 第3回 平等権 第4回 精神的自由権 思想良心の自由、信教の自由、学問の自由 第5回 精神的自由権 表現の自由 第6回 精神的自由権 表現の自由の限界 第7回 精神的自由権 集会結社の自由 第8回 経済的自由権 第9回 人身の自由 第10回 社会権 生存権 第11回 教育の受ける権利、労働者の権利 第12回 受益権・参政権、国民の義務 第13回 人権保障の限界 第14回 人権保障の及ぶ範囲 第15回 試験
教科書	小泉洋一ほか『憲法の基本』(法律文化社)。必要に応じて、次の参考書として示したものを各自で精読して自学自習してもらいたい。
参考書・資料	必要に応じて、次の参考書として示したものを各自で精読して自学自習してもらいたい。 『憲法判例百選Ⅰ』『Ⅱ』別冊ジュリスト。 芦部信喜(高橋和之補訂)『憲法第4版』岩波書店、2007年 辻村みよ子『憲法第3版』日本評論社、2008年 高橋和之『立憲主義と日本国憲法』有斐閣、2005年 野中俊彦ほか『憲法Ⅱ第4版』有斐閣、2006年
講義関連事項	この講義は日本国憲法に関連するほか、他の法、たとえば民法、刑法、刑事訴訟法などにも関連する。
担当者から一言	講義の時に質問のある場合、講義の終了時に質問していただければ大いに歓迎するが、講義中は質問を遠慮していただきたい。だからといって質問を行うことにためらう必要はない。 受講生は、憲法に関する知識を中等教育でかなり得ているはずである。この講義はそれは異なり、決して平易ではないので、勉強するというしっかりした決意を持って受講することが必要である。受講生の努力が求められる。 なお、この科目の成績評価について受講生はよくしておくのが有益である。それは、期末の筆記試験により成績評価を行うというものである。 その筆記試験は、講義で取り扱った各事項に関するいくつかの記述の正誤を答えさせ、誤りのものには、その誤りの理由を述べさせるという形式の問題を数問出題するとともに、講義で扱った基本的事項や重要な問題点に関して各自が論説するという形式の問題を1題出題する予定である。 このような出題によって、受講生が個々の事項について正確な理解をしているかを確認させていただくとともに、基本的事項について理解した上でいかに考察しているかを尋ねさせていただくようにする。 正誤問題の配点は100点満点で50点であり、論説問題は50点となる。

その他	日本国憲法において人権保障がどのように表れているか、憲法の人権規定にいかなる解釈上の問題があるか、この解釈上の問題をいかに考えるべきか。 これらの点を受講生に解説するのが、この講義の目的である。 講義では以下のように、人権規定に関する個別の問題を扱った後、人権に関する一般的問題にふれる予定である。 人権の歴史と類型 幸福追求権 平等権 精神的自由権 思想良心の自由、信教の自由、学問の自由 精神的自由権 表現の自由 精神的自由権 表現の自由の限界 精神的自由権 集会結社の自由 経済的自由権 人身の自由 社会権 生存権 教育の受ける権利、労働者の権利 受益権・参政権、国民の義務 人権保障の限界 人権保障のおよぶ範囲 以上のことに関心を持つ一人でも多い学生に受講していただきたい。
-----	---

授業コード	41A72		
授業科目名	憲法I (B)(後)		
担当者名	小泉洋一(コイズミ ヨウイチ)		
配当年次	1年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	水曜2限
特記事項	法学部1年次 出席番号211～最後		
オフィスアワー	火曜日昼休み		

講義の内容	日本国憲法において人権保障がどのように表れているか、人権保障の基本原則は何か、憲法の人権規定にいかなる解釈上の問題があるか、この解釈上の問題をいかに考えるべきか。これらの点を受講生に解説するのが、この講義の内容である。
到達目標	人権の基本原則、人権の種類、人権規定に関する解釈上の問題、その問題に関する判例学説を正しく理解すること。
講義方法	教科書に基づき講述する。他の講義資料の配付や板書などは最小限にとどめる予定である。
準備学習	教科書を購入してそれを開講前から通読し始めること。その際、理解できなくてもかまわない。それをとおしてどのようなことを学ぶか、どのようなことがどこに書いてあるかを大まかに知っておくこと。それは受講していく際に大いに役に立つはずである。 またこの科目専用のノートを用意しておくことも必要である。 何よりもよく勉強するという決意を持つておくことはもちろんである。
成績評価	もっぱら期末の筆記試験により成績評価を行う。筆記試験は、講義で扱った主要な事項や重要な問題点に関して受講生各自が説明するとともに、論述するという形式の問題を2, 3題出題させていただくようなものと考えている。 講義で取り扱ったことすべてを、試験の出題範囲とする。試験には教科書の持ち込みを可とする予定である。 成績の「欠席」とそれ以外を分ける基準は、期末試験を受験したかどうかとする。
講義構成	後期 第1回 人権の歴史と類型 第2回 幸福追求権 第3回 平等権 第4回 精神的自由権 思想良心の自由、信教の自由、学問の自由 第5回 精神的自由権 表現の自由 第6回 精神的自由権 表現の自由の限界 第7回 精神的自由権 集会結社の自由 第8回 経済的自由権 第9回 人身の自由 第10回 社会権 生存権

	第11回 教育の受ける権利、労働者の権利 第12回 受益権・参政権、国民の義務 第13回 人権保障の限界 第14回 人権享有主体 第15回 試験 以上の順番は変更することもある。
教科書	小泉洋一ほか『憲法の基本』(法律文化社、2008年)。これは私が中心となって2年以上の期間をかけて完成させた本である。
参考書・資料	必要に応じて、次の参考書として示したものを各自で精読して自学自習してもらいたい。 『憲法判例百選Ⅰ』『Ⅱ』別冊ジュリスト。 芦部信喜(高橋和之補訂)『憲法第4版』岩波書店、2007年 辻村みよ子『憲法第3版』日本評論社、2008年 高橋和之『立憲主義と日本国憲法』有斐閣、2005年 野中俊彦ほか『憲法Ⅱ第4版』有斐閣、2006年
担当者から一言	講義の時に質問のある場合、講義の終了時に質問していただきたい。

授業コード	41A73		
授業科目名	憲法I (C)(後)		
担当者名	櫻井智章(サクライ トモアキ)		
配当年次	学部・学科により異なる	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	金曜1限
特記事項	法学部1年次以外		
オフィスアワー	特に設けません。大抵は研究室にいます。 詳細は第1回の講義時に説明します。		

講義の内容	「憲法」と題する講義の対象は、大きく基本的人権と統治機構とに分けることができます。この講義では、そのうちの基本的人権に関する問題を扱います。
到達目標	最高裁判所の重要判例を中心に、基本的人権の分野に関する基礎的な知識と基本的な考え方を習得することが、この講義の目的です。
講義方法	毎回、講義資料を配布し、それに従って進めていく予定です。
準備学習	毎回、配布資料の最後に、次回扱う判例と教科書の該当箇所を示すので、予習してくることが望ましい。民主党政権の下で重要な法改正がなされる可能性があります。日頃からニュース等に注目しておいてください。
成績評価	期末試験の成績で評価します。 詳細は第1回の講義時に説明します。
講義構成	第1回 ガイダンス、「憲法上の権利」論 第2回 法の下での平等 第3回 精神的自由(1) 第4回 精神的自由(2) 第5回 経済的自由 第6回 身体的自由、適正手続き 第7回 包括的基本権 第8回 参政権 第9回 社会権 第10回 基本権の主観的妥当範囲 第11回 基本権の客観的妥当範囲 第12回 公務員の基本権 第13回 政教分離 第14回 「憲法上の権利」総論 第15回 試験
教科書	大沢秀介編著『判例ライン憲法』(成文堂、2007年) 詳細は第1回の講義時に説明します。
参考書・資料	第1回の講義時に詳しく説明しますが、以下の本を勧めておきます。 ①伊藤正己『憲法入門〔第四版補訂版〕』(有斐閣、2006年) ②芦部信喜〔高橋和之補訂〕『憲法〔第四版〕』(岩波書店、2007年)

	③阪本昌成『憲法2 基本権クラシック[全訂第三版]』(有信堂高文社、2008年) ④大石眞『憲法講義Ⅱ』(有斐閣、2007年) ⑤佐藤幸治『憲法[第三版]』(青林書院、1995年)		
担当者から一言	最高裁判所の判例を理解するためには相応の努力が要求されます。		
授業コード	41A81		
授業科目名	憲法Ⅱ(A)(前)		
担当者名	櫻井智章(サクライ トモアキ)		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	月曜4限
特記事項	法学部2年次 出席番号1～210		
オフィスアワー	特に設けません。大抵は研究室にいます。 詳細は第1回の講義時に説明します。		
講義の内容	「憲法」と題する講義の対象は、大きく基本的人権と統治機構とに分けることができます。 この講義では、そのうちの統治機構に関する問題を扱います。 なお、憲法訴訟に関連する事項は、憲法Ⅲで取扱われるため、この講義では扱いません。		
到達目標	統治機構(政治制度)を法的に考察します。 各憲法機関の(1)地位(2)組織(3)権限(4)手続、及び(5)機関相互の関係を中心に、統治機構の分野に関する基礎的な知識と基本的な考え方を習得することが、この講義の目的です。		
講義方法	毎回、講義資料を配布し、それに従って進めていく予定です。		
準備学習	公法入門を履修済みであることが望ましい(憲法Ⅰについては履修の有無を問わない)。 政権交代もあり、今後大きく変わることが予想される分野ですので、日頃からニュース等に注目しておいてください。		
成績評価	期末試験の成績で評価します。 詳細は第1回の講義時に説明します。		
講義構成	第1回 ガイダンス、憲法に関する基礎知識 第2回 日本国憲法の歴史 第3回 統治機構総論、国家の形態と象徴 第4回 内閣(1) 第5回 内閣(2) 第6回 国会(1) 第7回 国会(2) 第8回 公民団 第9回 政党、選挙制度 第10回 議院内閣制 第11回 裁判所(1) 第12回 裁判所(2) 第13回 地方自治、戦争放棄 第14回 憲法保障と憲法改正 第15回 試験		
教科書	特に指定しません。詳細は第1回の講義時に説明します。 2010(平成22)年版の六法を持参してください(憲法典の改正はありませんが、附属法令の改正がありますので、最新版を持つよう心掛けて下さい)。		
参考書・資料	第1回の講義時に詳しく説明しますが、以下の本を勧めておきます。 ①阪本昌成『憲法1 国制クラシック[第二版]』(有信堂高文社、2004年) ②大石眞『憲法講義Ⅰ[第二版]』(有斐閣、2009年) ③芦部信喜[高橋和之補訂]『憲法[第四版]』(岩波書店、2007年) ④樋口陽一『憲法[第三版]』(創文社、2007年) ⑤佐藤幸治『憲法[第三版]』(青林書院、1995年)		
担当者から一言	やる気のある学生を待っています。		

授業コード	41A82		
授業科目名	憲法Ⅱ(B)(前)		
担当者名	櫻井智章(サクライ トモアキ)		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	金曜2限
特記事項	法学部2年次 出席番号211～最後		
オフィスアワー	特に設けません。大抵は研究室にいます。 詳細は第1回の講義時に説明します。		

講義の内容	「憲法」と題する講義の対象は、大きく基本的人権と統治機構とに分けることができます。 この講義では、そのうちの統治機構に関する問題を扱います。 なお、憲法訴訟に関連する事項は、憲法Ⅲで取扱われるため、この講義では扱いません。
到達目標	統治機構(政治制度)を法的に考察します。 各憲法機関の(1)地位(2)組織(3)権限(4)手続、及び(5)機関相互の関係を中心に、統治機構の分野に関する基礎的な知識と基本的な考え方を習得することが、この講義の目的です。
講義方法	毎回、講義資料を配布し、それに従って進めていく予定です。
準備学習	公法入門を履修済みであることが望ましい(憲法Ⅰについては履修の有無を問わない)。 政権交代もあり、今後大きく変わることが予想される分野ですので、日頃からニュース等に注目しておいてください。
成績評価	期末試験の成績で評価します。 詳細は第1回の講義時に説明します。
講義構成	第1回 ガイダンス、憲法に関する基礎知識 第2回 日本国憲法の歴史 第3回 統治機構総論、国家の形態と象徴 第4回 内閣(1) 第5回 内閣(2) 第6回 国会(1) 第7回 国会(2) 第8回 公民団 第9回 政党、選挙制度 第10回 議院内閣制 第11回 裁判所(1) 第12回 裁判所(2) 第13回 地方自治、戦争放棄 第14回 憲法保障と憲法改正 第15回 試験
教科書	特に指定しません。詳細は第1回の講義時に説明します。 2010(平成22)年版の六法を持参してください(憲法典の改正はありませんが、附属法令の改正がありますので、最新版を持つよう心掛けて下さい)。
参考書・資料	第1回の講義時に詳しく説明しますが、以下の本を勧めておきます。 ①阪本昌成『憲法1 国制クラシック[第二版]』(有信堂高文社、2004年) ②大石眞『憲法講義Ⅰ[第二版]』(有斐閣、2009年) ③芦部信喜[高橋和之補訂]『憲法[第四版]』(岩波書店、2007年) ④樋口陽一『憲法[第三版]』(創文社、2007年) ⑤佐藤幸治『憲法[第三版]』(青林書院、1995年)

担当者から一言	やる気のある学生を待っています。
---------	------------------

授業コード	41A83		
授業科目名	憲法Ⅱ(C)(前)		
担当者名	小泉洋一(コイズミ ヨウイチ)		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	月曜4限

特記事項	法学部2年次以外
オフィスアワー	火曜日 昼休み
講義の内容	この講義では憲法の一般的な事項および日本国憲法における統治機構（政治制度）を取り扱う。国民主権とは何か。また国民主権、権力分立、そして人権保障の諸原則に照らしてわが国の統治機構をめぐる憲法上の問題をいかに考えるべきか。これらの基本的問題の考察にこそ講義の目的がある。 講義で取り扱う主要事項は具体的に次のとおり。 憲法の概念 平和主義 人権享有主体 国民主権 天皇 国会 内閣 裁判所 憲法改正
到達目標	憲法の統治機構分野に関する諸原則を理解すること。この分野における諸規定の目的、内容およびそれに関する具体的な問題を理解すること。諸規定に関する解釈上の問題に対する基本的な考え方を理解すること。これらが到達目標である。
講義方法	教科書に基づき講述する。できるかぎり教科書の記述順に話すが、場合によれば変えることもある。 講義中、日本国憲法以外の法文も参照することがあるので六法全書を教室に持参していただきたい。 講義中、教科書を見ながら話をよく聞き、よく理解に努めていただきたい。
準備学習	教科書を入手してそれを開講前から通読し始めること。その際、理解できなくてもかまわない。それをとおしてどのようなことを学ぶか、どのようなことがどこに書いてあるかを大まかに知っておくこと。それは受講していく際に大いに役に立つはずである。
成績評価	もっぱら期末の筆記試験により成績評価を行う。 試験は正誤問題と論述問題の形式で行う。正誤問題では各講義で扱った事項を正確に理解しているかを尋ね、論述問題では本科目の主要な問題を文章で説明することができるかを問う。正誤問題は6題を予定し、論述問題は1題である。配点は正誤問題50点、論述問題50点である。 試験時間は60分の予定である。 試験の出題範囲は講義で取り扱ったことすべてであり、より具体的にいえば以下の通りである。 憲法の概念、平和主義 人権享有主体 国民主権 天皇 国会 内閣 裁判所 憲法改正 パソコンなど持ち込みが禁止されているものを除くほか、すべてのものを試験場に持ち込むことを許す方法で前期末に試験を実施する。 成績の「欠席」とそれ以外を分ける基準は、期末試験を受験したかどうかとする。 この試験の準備として、憲法Ⅱ全体をノートと教科書をよく見直して広く見直しておくことが必要である。またできれば憲法Ⅰで扱う人権分野も復習しておいた方がよい。いずれにせよ、広くかつ正しく理解することが必要となる。 また、この準備として、この科目の過去の試験問題をみておくのは大変よいことである。
講義構成	前期 第1回 憲法の概念、平和主義 第2回 参政権、人権享有主体 第3回 国民主権 第4回 天皇 第5回 国会の地位・組織 第6回 国会の活動・権能 第7回 議院の権能・議員の特権・内閣の地位

	第8回 内閣の行政・内閣の組織・権能 第9回 内閣の責任・司法権の概念 第10回 裁判所の組織 第11回 司法権独立・財政 第12回 地方自治の意義・地方公共団体の組織 第13回 地方公共団体の権能 第14回 憲法改正・改憲論議 第15回 試験 以上は予定であって、状況により変更することもある。
教科書	小泉洋一ほか『憲法の基本』法律文化社、2008年 講義範囲とは関わりなく何度か通読してほしい。 各章末にある「まとめてみよう」は、講義の後、各自のノートに要点をまとめておくこと。「考えてみよう」は参考文献を読んだりして挑戦するとよい。
参考書・資料	『憲法判例百選Ⅱ』別冊ジュリスト。 芦部信喜(高橋和之補訂)『憲法第4版』岩波書店、2007年 辻村みよ子『憲法第3版』日本評論社、2008年 高橋和之『立憲主義と日本国憲法』有斐閣、2005年 野中俊彦ほか『憲法Ⅱ第4版』有斐閣、2006年
講義関連事項	この講義を理解するには、憲法Ⅰを履修済みであることが必要である。未履修の者はこの講義を受講しながら、それとは別に必ず自習で憲法の人権分野をよく勉強することが必要である。 この自習のためには教科書を精読し、その要点にまとめ、それを理解してほしい。その理解が独自流とならないために、参考文献も読んだ方がよい。
担当者から一言	講義の前および講義中は質問も慎んでもらいたい。講義中に質問したくなったときは、質問を書きとめ、それに従い講義終了後に私に質問していただきたい。

授業コード	41043		
授業科目名	憲法Ⅲ（後）		
担当者名	小泉洋一（コイズミ ヨウイチ）		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	水曜1限
オフィスアワー	火曜日 昼休み		

講義の内容	憲法のうち司法権と違憲審査制度に関する分野を概説する。
到達目標	司法権と違憲審査制度に関する原則および法解釈上の問題への基本的な考え方を理解すること。
講義方法	教科書と講義資料に基づいて講述する。
準備学習	憲法Ⅰおよび憲法Ⅱを履修したことを前提にして、それらで学んだことを復習しておくことが必要な準備である。
成績評価	もっぱら期末の筆記試験により成績評価を行う。試験では知識や法的思考をどれほど習得しているかを受講生に尋ねさせていただくため、5問ほどの正誤問題および1問の論述問題を出題する。講義で取り扱ったことすべてを、試験の出題範囲とし、教科書である『憲法判例集』の試験場への持ち込みを認める方法で試験を実施する予定である。 この講義では試験を受験しなかった者は講義に出席したことがあっても欠席と評価する。
講義構成	講義予定 第1回 憲法保障と違憲審査制の意義◆ 第2回 憲法保障と違憲審査制の意義◆・違憲審査の性格◆ 第3回 違憲審査の性格◆ 第4回 司法の概念 第5回 司法権の限界

	第 6 回 憲法訴訟の提起・違憲審査の対象◆ 第 7 回 違憲審査の対象◆ 第 8 回 憲法判断の方法 第 9 回 違憲審査の方法◆ 第 10 回 違憲審査の方法◆ 第 11 回 違憲審査の方法◆◆ 第 12 回 違憲審査の方法◆・違憲判断の方法 ◆ 第 13 回 違憲判断の方法◆ 第 14 回 違憲判決の効力 第 15 回 試験
教科書	野中・江橋『憲法判例集』第10版（有斐閣、2009）
参考書・資料	芦部 信喜・高橋 和之編『憲法判例百選Ⅱ』別冊ジュリスト。 その他のものは開講後指示する。また講義資料も配付する。
講義関連事項	この講義を効果的に受講するには憲法Ⅰと憲法Ⅱを履修していることが必要である。
担当者から一言	講義の前および講義中は質問も慎んでもらいたい。講義中に質問したくなったときは、質問を書きとめ、それに従い講義終了後に私に質問していただきたい。

授業コード	41A11		
授業科目名	公法入門（1クラス)(前)		
担当者名	島田 茂(シマダ シゲル)		
配当年次	1年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	木曜2限
特記事項	法学部1年次 出席番号1～210、法学部2年次以上		

講義の内容	憲法や行政法は「公法」に属する。講義では、法の基本的な概念や考え方について総論的に講義した後、憲法、行政法、国際法などの領域から幾つかの論点を選び出し、公法規範の意義や機能、その解釈・適用の方法等について述べていく。
到達目標	公法の基本的な概念や考え方を習得する。
講義方法	通常の講義形式で行う。
準備学習	事前に指定された教科書の該当項目を読んでくること
成績評価	学期末の試験で評価する。
講義構成	第1回(4月8日) 法の概念 第2回(4月15日) 公法の領域 第3回(4月22日) 憲法と国法秩序 第4回(5月6日) 国際社会の法 第5回(5月13日) 国家と環境 第6回(5月20日) 裁判所 第7回(5月27日) 国会と法律制定権 第8回(6月3日) 内閣・衆議院の解散 第9回(6月10日) 行政組織 第10回(6月17日) 行政の活動 第11回(6月24日) 地方自治の法 第12回(7月1日) 精神的自由権 第13回(7月8日) 経済的自由権と社会権 第14回(7月15日) 情報公開 第15回(未定) 試験
教科書	小泉・島田編著「公法入門」(法律文化社)

授業コード	41A12
-------	-------

授業科目名	公法入門（2クラス）(前)		
担当者名	小泉洋一（コイズミ ヨウイチ）		
配当年次	1年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	木曜2限
特記事項	法学部1年次 出席番号211～最後		
オフィスアワー	火曜日昼休み		
講義の内容	これから法学を専門に勉強することになる法学部生に対し、憲法、行政法、国際法、税法等、公法全般に関する基本的事項、その他基礎知識を講義する。		
到達目標	これから法学を専門に勉強することになる法学部生に対し、今後の学習の基礎となり、また有益となるであろう基礎知識を修得すること。また、これから専門的に取り組むべき主要な課題を知ること。		
講義方法	各回の講義とも教科書に基づき講述する。また講義資料を配付することもある。各自、講義前にその関連頁を一読するとともに、講義中は教科書をみながら話を聴いていただきたい。 なお、第4回は岡森先生が、第5回は中井先生が、第7回は櫻井先生が、それぞれ講義を担当する。		
準備学習	教科書を入手して、きちんと理解できなくてもよいから、それを最初から最後までざっと一読しておく。この科目用のノートを用意しておく。六法全書を入手しておく。六法はできれば最新のものがよい。六法もざっとみておいた方がよい。		
成績評価	もっぱら期末の筆記試験により成績評価を行う。その試験は、基本的に私がこの科目で行ってきた、次の2つの出題方法をとる。 第1は、毎回の講義で取り扱った個別の各事項に関するいくつかの記述を正誤を答えさせ、誤りのものには、その誤りの理由を述べさせるという形式の問題を数問出題するというものである。これは各講義の重要事項を受講生が正確に理解しているかを問うことを目的としている。 第2は、この講義全般に関わる最も重要な事項について、受講生各自が論述するという形式の問題を1題出題するというものである。これは、受講生がもっとも基本的な事項を自分なりに考察しているか、またそれを文書で説明することができるかどうかを尋ねることを目的とする。 なお、正誤問題の配点は100点満点で50点であり、論述問題は50点となる。 試験は講義で取り扱ったことすべてを試験の出題範囲とする。その主たる項目は次のとおりである。 法の概念 公法の領域 憲法と国法秩序 国家と環境 国際社会の法 国会と法律制定権 裁判所 内閣・衆議院の解散 行政組織 行政の活動 地方自治の法 精神的自由権 経済的自由権と社会権 情報公開 この試験に対応するためには、もっとも基本的事項を広く勉強するとともに、各講義で扱われる重要事項について深く理解できるように勉強することが必要になる。 六法の持ち込みを認める予定である。 なお、この科目において成績の「欠席」とそれ以外を分ける基準は、期末の試験を受験したかどうかによる。		
講義構成	前期 第1回(4月8日) 法の概念 第2回(4月15日) 公法の領域 第3回(4月22日) 憲法と国法秩序 第4回(5月6日) 国家と環境 第5回(5月13日) 国際社会の法 第6回(5月20日) 国会と法律制定権 第7回(5月27日) 裁判所 第8回(6月3日) 内閣・衆議院の解散 第9回(6月10日) 行政組織 第10回(6月17日) 行政の活動		

	第11回(6月24日)地方自治の法 第12回(7月1日)精神的自由権 第13回(7月8日)経済的自由権と社会権 第14回(7月15日)情報公開 第15回(未定) 試験 ただし以上の順番は変わることがあるかもしれない。
教科書	小泉・島田編『公法入門』法律文化社、2009年。
参考書・資料	必要に応じて講義資料を配付する。参考文献は教科書掲載の文献案内を参照してほしい。講義の際には各自六法も持参のこと。 なお、教科書にも参考書を示しているので、必要があればそれもみていただきたい。
担当者から一言	受講生の努力が求められる。
URL	http://www.center.konan-u.ac.jp/~juri/hougakukai_index.htm

授業コード	41072		
授業科目名	国際私法I(前)		
担当者名	金ムンスク(キム ムンスク)		
配当年次	3・4年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	水曜2限
オフィスアワー	各回の講義後		
講義の内容	日本の社会および生活の国際化の進展に伴う国際私法関係の法律問題について、その解決方法の理解が不可欠となっている。講義では、国際私法の基本的な仕組みの理解を目的とする。		
到達目標	国際的な法律関係において国際私法の観点からの必要性を認識し、問題の解決方法を理解することができる。		
講義方法	教科書を中心に講義を進めるが、適時、裁判例及び関連資料を配布する。		
準備学習	契約法、不法行為法、親族法、相続法の講義を聞いておくことが望ましい。 教科書、レジュメを中心に予習し、具体的な事例・裁判例について検討する。		
成績評価	定期試験(70%)及び3回提出されたレポート(30%)の内容に応じて評価する。		
講義構成	1. 国際私法の必要性 2. 国際私法の基礎的観念 3. 国際私法の法的性質と機能 4. 隣接法分野 5. 国際私法の沿革 6. 法源 7. 法律関係の性質決定 8. 連結点の確定 9. 準拠法の指定 10. 反致 11. 外国法の適用 12. 公序 13. 先決問題と適応問題 14. まとめ		
教科書	櫻田嘉章『国際私法〔第5版〕』(有斐閣、2006)		
参考書・資料	櫻田嘉章・道垣内正人編『国際私法判例百選〔新法対応補正版〕』(有斐閣、2007)		
講義関連事項	六法は必ず持ってくる。その他の資料は、講義中に適宜紹介する。		

授業コード	41073		
授業科目名	国際私法Ⅱ(後)		
担当者名	金ムンスク(キム ムンスク)		
配当年次	3・4年次	単位数	2

開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	火曜1限
オフィスアワー	各回の講義後		
講義の内容	国際私法の基本的な仕組みを理解した後、国際私法の各論、特に2006年の改正部分を中心に、国際私法の具体的解決方法についての理解を本講義の目的とする。		
到達目標	国際私法分野において、とくに契約、不法行為、婚姻・離婚に関する法律関係について具体的な事例を自主的に解決できるようにする。		
講義方法	教科書を中心に講義を進めるが、適時、裁判例及び関連資料を配布する。		
準備学習	教科書、レジュメを中心に予習し、具体的な事例・裁判例について検討する。契約法、不法行為法、親族法、相続法、国際私法Ⅰの講義を聞いておくことが望ましい。		
成績評価	定期試験(70%)及び3回提出されたレポート(30%)の内容に応じて評価する。		
講義構成	1. 自然人 行為能力・失踪宣告 2. 法人 3. 契約債権 当事者自治、消費者契約・労働契約、強行法規の特別連結理論 4. 法定債権 とくに不法行為、製造物責任、名誉・信用の毀損 5. 債権譲渡・債権質 6. 婚姻 7. 離婚 8. 親子関係 9. 相続・遺言		
教科書	櫻田嘉章『国際私法〔第5版〕』(有斐閣、2006)		
参考書・資料	櫻田嘉章・道垣内正人『国際私法判例百選〔新法対応補正版〕』(有斐閣、2007) その他の資料は、講義中に適宜紹介する。		
講義関連事項	六法は必ず持ってくること。		

授業コード	41025		
授業科目名	国際政治学Ⅰ(前)		
担当者名	池田佳隆(イケダ ヨシタカ)		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	水曜3限
オフィスアワー	水曜4限		

講義の内容	国際政治学の基礎的な考え方について学ぶ。
到達目標	国際政治学の基本概念を理解する。
講義方法	通常の講義形式による。
準備学習	講義のテーマに関連しそうなニュースに注目しておく。
成績評価	期末試験による。 (持ち込みは認めない予定である)
講義構成	1 国際政治の歴史 2 国際社会と国内社会 3 国際政治におけるアクター 4 国際政治におけるパワー 5 国際政治のアリーナ 6 国際政治の見方 7 ゲーム理論と国際政治
教科書	特に指定しない。
参考書・資料	講義中に紹介する。
担当者から一言	普段から国際社会の様々な問題について目を向けるように心がけておいてください。

授業コード	41026		
授業科目名	国際政治学II (後)		
担当者名	池田佳隆(イケダ ヨシタカ)		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	水曜3限
オフィスアワー	水曜4限		

講義の内容	前期の国際政治学Iの講義内容を踏まえた上で、具体的な国際情勢について理解を深めることを目的とする。現在進行形の時事問題に関する解説も適時加える予定である。
到達目標	国際社会の主な地域な国際機構に関する基本的な知識を得る。
講義方法	通常の講義形式による。
準備学習	講義のトピックスに関する最近のニュースを検索し、理解しておく。
成績評価	期末試験による。 (持ち込みは認めない予定である)
講義構成	1アメリカと世界 2アジアの国際政治 3現代世界の統合と分離 4南北問題 5グローバルガバナンス
教科書	特に指定しない。
参考書・資料	講義中に紹介する。

担当者から一言	普段から時事問題に目を向けるように心がけておいてください。
---------	-------------------------------

授業コード	41097		
授業科目名	国際取引法I (前)		
担当者名	金ムンスク(キム ムンスク)		
配当年次	3・4年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	金曜2限
オフィスアワー	各回の講義後		

講義の内容	経済のグローバル化が進行している状況の下、国際取引の内容はますます多様になっているし、近年では電子商取引も急速に発達しつつある。 本講義は物品の国際売買を中心とした貿易取引の基本的な仕組みと国際紛争解決の方法について考える機会を与えるとともに、国際取引法の法律関係の理解を目的とする。
到達目標	とくに契約分野において国内法・国際条約の比較を行い、基本的な知識を深め、国際物品売買に関する理論・仕組みを理解できるようにする。
講義方法	教科書を中心に講義を進めるが、適時、裁判例及び関連資料を配布する。
準備学習	教科書、レジュメを中心に予習し、具体的な事例・裁判例について検討する。契約法の知識を必要としているため、契約法または国際私法を修得していることが望ましい。
成績評価	定期試験(70%)及び3回提出されたレポート(30%)の内容に応じて評価する。
講義構成	1. 国際取引に適用される法 2. 国際取引の当事者 (1)個人 (2)法人 (3)国家及び国家機関 3. 国際的な物品の売買 (1)国際売買契約 (2)国際物品運送

	(3)国際貨物保険 (4)国際的な代金の決済 (5)製造物責任 4. 国際取引紛争の解決 (1)国際民事訴訟 ①国際裁判管轄権 ②外国判決の承認および執行 (2)国際商事仲裁 5. 国際倒産
教科書	山田鐸一・佐野寛『国際取引法〔第3版補訂第2版〕』（有斐閣、2009）
参考書・資料	適宜、関連資料を配布する。
講義関連事項	六法は必ず持ってくること。

授業コード	41C11		
授業科目名	国際法I(国際法総論)（1クラス)(前)		
担当者名	中井伊都子(ナカイ イツコ)		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	水曜2限
特記事項	法学部2年次		
オフィスアワー	メールで事前に連絡してください。		

講義の内容	国際法は、各国家の管轄権の及ぶ範囲とその行使のあり方を規制することを第一の目的としてきた。この伝統的な国際法の役割を理解し、さらに国際法の現代的課題である全地球的な問題を解決するための法的な仕組みを検討する基礎として、国際法の歴史的発展と「国家」を法的に把握することを目的とする。
到達目標	国際社会における諸問題を、法的な視点から考察することのできる視点を培う。
講義方法	条約集とレジュメを参照しながら、講義形式で行う。
準備学習	講義内で条約集と一緒に読む余裕はありませんので、指定した条約は必ず事前に目を通していただくこと。
成績評価	中間レポート(40点)と期末試験(60点)。
講義構成	1 国際法の概念 - 国際法の歴史 - 国際法の法的性格 - 国際法と国内法の関係 2 国際法の成立形式 - 慣習国際法 - 条約 3 国際法の主体 - 国家 - その他の主体 4 国家の成立 - 国家承認論 - 国家承継 5 国家機関
教科書	『国際法』(第5版)有斐閣Sシリーズ 『ベーシック条約集』(2009 年版)東信堂
参考書・資料	国際判例や関連する国家の情報などは、講義ごとに配布する。
担当者から一言	国際問題に関心を持ちその理解をより深めるために、新聞の国際面にも必ず目を通すことを習慣付けてください。

授業コード	41C12		
授業科目名	国際法I(国際法総論) (2クラス)(前)		
担当者名	中井伊都子(ナカイ イツコ)		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	水曜3限
特記事項	法学部2年次以外		
オフィスアワー	事前にメールで連絡してください。		

講義の内容	国際法は、各国家の管轄権の及ぶ範囲とその行使のあり方を規制することを第一の目的としてきた。この伝統的な国際法の役割を理解し、さらに国際法の現代的課題である全地球的な問題を解決するための法的な仕組みを検討する基礎として、国際法の歴史的発展と「国家」を法的に把握することを目的とする。
到達目標	国際社会における諸問題を、法的な視点から考察することのできる視点を培う。
講義方法	条約集とレジュメを参照しながら、講義形式で行う。
準備学習	講義内で条約集と一緒に読む余裕はありませんので、指定した条約は必ず事前に目を通して頂くこと。
成績評価	中間レポート(40点)と期末試験(60点)。
講義構成	1 国際法の概念 ・ 国際法の歴史 ・ 国際法の法的性格 ・ 国際法と国内法の関係 2 国際法の成立形式 ・ 慣習国際法 ・ 条約 3 国際法の主体 ・ 国家 ・ その他の主体 4 国家の成立 ・ 国家承認論 ・ 国家承継 5 国家機関
教科書	『国際法』(第5版)有斐閣Sシリーズ 『ベーシック条約集』(2009 年版)東信堂
参考書・資料	国際判例や関連する国家の情報などは、講義ごとに配布する。
講義関連事項	国際問題に関心を持ちその理解をより深めるために、新聞の国際面にも必ず目を通すことを習慣付けてください。

授業コード	41C21		
授業科目名	国際法II(国際人権法) (後)		
担当者名	大塚泰寿(オオツカ ヤスヒサ)		
配当年次	2年次	単位数	2

開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	金曜2限
オフィスアワー	事前にメールなどで連絡してください。		
講義の内容	一般国際法上、外国人保護のための規則は早くから整備されてきたが、自国民の取り扱いについては長く国内管轄事項とされていた。しかし現在では、人権の保障は国際社会全体の問題と考えられており、国家は、自国の管轄権下にある個人に対して、一定の国際人権水準を満たすことが求められている。この講義では、前半において外国人の保護に関する国際法を、後半において人権の国際的保障制度について概観する。		
到達目標	国際人権法の基本的知識を取得し、国際的な人権問題について法的な視点から説明することができる。		
講義方法	レジュメを配布するとともに、教科書・条約集を読みながら、講義形式で進めていく。		
準備学習	教科書の関係する部分に、事前に目を通しておくことが望ましい。		
成績評価	定期試験(75%)とレポート・平常点(25%)により評価を行う。定期試験だけでは、単位修得はかなり困難である。		
講義構成	第1部 外国人の保護に関する国際法 1 国籍 2 外国人の法的地位 3 外交的保護 4 難民の保護 5 犯罪人の引渡し 第2部 人権の国際的保障制度 1 人権の国際的保障の歴史と展開 2 条約による人権保障 3 条約の国内的実施 4 条約の国際的実施		
教科書	松井芳郎編『ベーシック条約集』(東信堂) 松井芳郎・佐分晴夫・坂元茂樹・小畑郁・松田竹男・田中則夫・岡田泉・薬師寺公夫『国際法[第5版]』有斐閣Sシリーズ		
参考書・資料	講義中に適宜指示する。		
講義関連事項	国際法についての基礎知識を有していることを前提に講義を行うため、国際法Ⅰの受講を強く推奨する。(ただし国際法Ⅰの講義を受講していないからといって、履修が認められないわけではない)		
その他	講義中の私語や携帯電話使用などは厳禁である。		

授業コード	41055		
授業科目名	国際法Ⅲ(国際法各論Ⅰ)(前)		
担当者名	中井伊都子(ナカイ イツコ)		
配当年次	3・4年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	木曜2限
オフィスアワー	メールで事前に連絡してください。		
講義の内容	現代国際法において最も重要な法源である条約に関する国際法規を検討し、さらに国際社会における紛争の平和的解決のためのメカニズムを考察する。		
到達目標	国際紛争の原因とその経緯および解決方法について、法的な観点から考察することのできる視点を培う。		
講義方法	条約集とレジュメを参照しながら、講義形式で行う。		
準備学習	条約集の指定した部分を必ず読んでくること。		
成績評価	中間レポート(40点)と期末試験(60点)。		
講義構成	1. 条約法 ・条約の成立 ・条約への留保 ・条約の無効原因 2. 国家管轄権 ・属地的管轄権という原則		

	・管轄権の域外適用 3. 平和と安全の維持 ・武力行使の違法化 ・集団安全保障 ・国際法上の自衛権 ・平和維持活動 4. 国家責任 ・国家責任の成立要件 ・違法性阻却事由 5. 国際判例研究
教科書	松井芳郎編 『ベーシック条約集2009年版』(東信堂) 松井芳郎・佐分晴夫・坂元茂樹・小畑郁・松田竹男・田中則夫・岡田泉・薬師寺公夫 『国際法[第5版]』(有斐閣Sシリーズ)
講義関連事項	国際法Ⅰを履修していないと、理解が非常に困難であることが予想されます。必ず国際法Ⅰを履修してから、本講義を受けてください。

授業コード	41067		
授業科目名	債権法I(契約法I) (前)		
担当者名	住田英穂(スミタ ヒデホ)		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	金曜1限
オフィスアワー	木曜日の昼休み 事前に連絡するようにして下さい。		
講義の内容	債権総則のうち、「保証」を除いた部分を講義する。具体的には、「講義構成」の項目を参照して下さい。 債権総論では、「債権」という権利について、その内容や効力などを検討するという抽象的な議論がなされ、難解なことが多い。そこで、本講義では、日常生活になじみの深い、契約から生じた債権を念頭に置きながら、講義を進めることにする。		
到達目標	① 債権総論に関する全体像を把握し、主要な実定法のルールおよび概念について、その意味を理解し、具体例を挙げながら説明できる。 ② 法的問題を解決するために、事例問題の事実の概要を客観的に把握し、解決の根拠となるルールを発見し、それを適用して、妥当な解決を見だし、その理由を説明できる。		
講義方法	毎回、レジュメを配布します。レジュメと教科書に沿って講義を進める。		
準備学習	1年次配当科目である「民法法入門」が履修済みであることが望ましい。		
成績評価	期末試験の成績に基づく評価を原則とします。六法を持参しているかのチェックをかねて、出席をとることがあるかもしれません。		
講義構成	第1章 債権法ガイダンス 第2章 債権の目的 第3章 債権の効力 第4章 責任財産の保全 第5章 多数当事者の債権関係 第6章 債権譲渡と債務引受 第7章 債権の消滅		
教科書	池田真朗『新標準講義 民法債権総論』（慶應義塾大学出版会）		
参考書・資料	必要な資料は、レジュメと共に講義にて配布します。		
講義関連事項	六法を必ず持参するようにして下さい。		

授業コード	41068
-------	-------

授業科目名	債権法Ⅱ(契約法Ⅱ) (後)		
担当者名	桑岡和久(クワオカ カズヒサ)		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	水曜1限
オフィスアワー	講義終了後		

講義の内容	民法典債権各論のうち契約および債権総論中の保証
到達目標	契約における法律関係について理解すること
講義方法	具体例を交えつつ解説する形式で進める
準備学習	民法総則Ⅰ、Ⅱおよび債権法Ⅰを履修していることが望ましい
成績評価	学期末試験の成績により評価する
講義構成	Ⅰ．契約総論 1、契約法の全体構造 2、契約の意義 3、契約の成立 4、契約成立後終了前までの法関係 5、契約の終了 Ⅱ．契約各論 1、売買 2、贈与 3、消費貸借 4、賃貸借 5、使用貸借 6、請負 7、委任 8、組合 9、和解 10、保証
教科書	初回の講義で紹介する
参考書・資料	六法
担当者から一言	六法必携

授業コード	41091		
授業科目名	司法精神医学 (前)		
担当者名	森 裕(モリ ヒロシ)		
配当年次	3・4年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	木曜5限

講義の内容	精神医学と法学は、扱う事象が人の活動であるといった点において共通する基盤を有しているといえる。しかし、それらは、問題解決の方法論として立つべき視座が異なっている場合も少なくない。精神医学は、ある人の歴史的事実をひも解く経験科学であるが、法学は、そのような事実に加え、規範的判断を伴う。たとえば、被疑者、ないし被告人の刑事責任能力判断といった文脈において、その違いが先鋭化する。 司法精神医学は、このような、精神医学と法学との狭間に生じうる様々な事象を扱う学問である。より具体的には、精神障害を抱える人が刑罰法令に触れる行為をした際の刑事責任能力や、その後の処遇の在り方などがその対象となる。 この講義では、精神医学と法学の立ち位置の違いを常に意識しながら、両者の間に生じうる様々な問題点について理解し、また、それらについての問題解決志向型の思考パターンを身につけてもらうことを目的とする。 まず、前半において、触法精神障害者の処遇、刑事責任能力、さらに、心神喪失者等医療観察法について学ぶ。そして、後半において、精神医学と民事法との関わりを見出しながら、少年犯罪についても触れてゆく。 なお、適宜、症例や裁判例を用いる予定である。
到達目標	第1講 精神医学と法 人の様々な営みについて、精神医学と法学が関与することがある事象について理解することができる。 第2講 精神医学と刑事法、触法精神障害者の処遇(1)

	精神医学と刑事法との接点を学び、触法精神障害者の処遇の動向について、歴史的観点から説明することができる。 第3講 触法精神障害者の処遇(2) 触法精神障害者の処遇の動向について、欧米のものについて学び、今後のわが国における在り方についての問題提起ができる。 第4講 刑事責任能力論(1) 刑事責任能力の概念について学び、精神医学からの関わりについて説明することができる。 第5講 刑事責任能力論(2) 刑法学の立場から、刑事責任能力論の位置づけや内容について理解することができる。 第6講 刑事精神鑑定の実際 これまでの講義を踏まえ、刑事手続きにおける精神鑑定の意義、手法、問題点を指摘することができる。 第7講 精神科医療と人権 精神科医療の歴史について学び、その特徴や問題点を指摘することができる。 第8講 心神喪失者等医療観察法(1) 心神喪失者等医療観察法の趣旨や意義、歴史的経緯について説明することができる。 第9講 心神喪失者等医療観察法(2) 心神喪失者等医療観察法について、司法と精神科医療の果たすべき役割について説明することができる。 第10講 司法精神科医療の実際 心神喪失者等医療観察法による精神科医療の実際について理解することができる。 第11講 精神医学と民事法(1) 意思能力、行為能力、民事責任能力などから、民事法と精神医学との関わりについて説明することができる。 第12講 精神医学と民事法(2) 成年後見制度の趣旨と運用について説明することができる。 第13講 精神科医療と少年犯罪 刑罰法令に触れる行為を行ったような少年について、司法と精神科医療の関わりについて理解することができる。 第14講 司法精神医学の今後の課題 これまでの講義を踏まえ、司法と精神医学のコラボレーションによって解決してゆくべき課題を挙げることができる。
講義方法	原則として、プレゼンテーションソフトを用いて講義を進める。なお、講義内容によっては、司法精神科医療の第一線で活躍する臨床家による講話を行うことがある。
準備学習	(1)履修条件 刑法総論、及び民法について、基本的知識を有していることが望まれる。なお、精神医学についての事前の知識等は必要としない。 (2)授業時間以外における学習方法 インターネットや新聞等といった膨大な情報の中から、「精神鑑定」や「責任能力」といったキーワードに着眼してもらいたい。
成績評価	学期末試験によって、成績評価を行う。毎回の出席は確認しないが、最終講義(第14講)において学期末試験について言及することがある。
講義構成	1 精神医学と法「司法精神医学概論」 2 精神医学と刑事法、触法精神障害者の処遇(1)「我が国における歴史と現状」 3 触法精神障害者の処遇(2)「欧米における歴史と現状」 4 刑事責任能力論(1)「精神医学の側面から-処遇論を中心に」 5 刑事責任能力論(2)「刑法学の側面から-解釈論、裁判例を中心に」 6 刑事精神鑑定の実際「現状と裁判員裁判を踏まえて」 7 精神科医療と人権「偏見・差別、強制医療、自己決定権とノーマライゼーション」 8 心神喪失者等医療観察法(1)「精神保健福祉法による医療の限界と立法趣旨について」 9 心神喪失者等医療観察法(2)「裁判所が関わる精神科医療」 10 司法精神科医療の実際「心神喪失者等医療観察法指定入院医療機関における医療」 11 精神医学と民事法(1)「意思能力、行為能力、民事責任能力」 12 精神医学と民事法(2)「成年後見制度とその運用」 13 精神科医療と少年犯罪「精神科医療が必要な少年とは」 14 司法精神医学の今後の課題「まとめ」 なお、講義の進捗状況によっては、その内容が変更になる場合がある。
教科書	野野朔編『精神医療と心神喪失者等医療観察法・ジュリスト増刊』(有斐閣)
参考書・資料	隈無く網羅したものとして『司法精神医学(第1巻～第6巻)』(中山書店)がある。また、岩井宣子『精神障害者福祉と司法』(向学社)、安田拓人『刑事責任能力の本質とその判断』(弘文堂)など。
講義関連事項	法曹だけでなく、法律実務家、並びに精神保健福祉の専門家等を目指す受講生に必要最低限の知見を提供したい。

担当者から一言	受講生が、精神医学の初学者であることを前提に講義を進める。受講生には、法学を学んでいるという自己の立場を意識しつつ、司法精神医学が扱う様々な事象について、問題意識を持ってもらいたいと願っている。なお、質問や疑問点が生じた場合にはそのまま放置せず、講義後に担当者まで質問するように願いたい。
---------	--

授業コード	41084		
授業科目名	社会保障法I(前)		
担当者名	武井 寛(タケイ ヒロシ)		
配当年次	3・4年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	水曜3限
オフィスアワー	水曜4限		

講義の内容	社会保障法 I では、社会保障の考え方の基本を簡単に整理したのち、保険方式で営まれている社会的な法制度、すなわち、労災保険、雇用保険、年金保険、医療保険、介護保険について、当該法制度の趣旨や仕組み、給付の内容、関連する裁判例などの基本的知識を学ぶ。
到達目標	社会保険に関する法の基本的考え方を理解すること。
講義方法	あらかじめ配布する予定のレジュメにしたがって、必要な内容について順次講義する。パワーポイント等を必要に応じて用いる。
準備学習	日々の医療や年金等に関するニュースに注意すること。
成績評価	講義の途中に行う小テストと期末テストの成績によって評価する。
講義構成	1 授業内容の説明＋憲法と社会保障法、社会保険 2 社会保険の意義と機能 3 医療保険 4 医療保険 5 医療保険 6 医療保険＋介護保険 7 介護保険 8 介護保険 9 介護保険 10 年金保険 11 年金保険 12 年金保険 13 労災保険 14 労災保険 15 雇用保険
教科書	本沢巳代子・新田秀樹編著『トピック社会保障法』不磨書房
参考書・資料	必要に応じてレジュメに資料を添付する。なんらかの六法が必携。

授業コード	41085		
授業科目名	社会保障法II(後)		
担当者名	武井 寛(タケイ ヒロシ)		
配当年次	3・4年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	水曜3限
オフィスアワー	水曜4限		

講義の内容	社会保障法 II では、社会保障の考え方の基本を簡単に整理したのち、いわゆる社会福祉の制度と、生活保護制度について、当該法制度の趣旨や仕組み、給付の内容、関連する裁判例などの基本的知識を学ぶ。社会福祉の制度領域として、おおむね児童福祉、障害者福祉および家庭福祉に分けて講義する。また、今後の社会保障について、現在行われている議論等も紹介しながら、そのあるべき姿を探ってみたい。
到達目標	社会福祉および生活保護に関する法の基本的考え方を理解すること。

講義方法	あらかじめ配布する予定のレジュメにしたがって、必要な内容について順次講義する。パワーポイント等を必要に応じて用いる。
準備学習	日々の社会福祉領域に関するニュースに注意すること。
成績評価	講義の途中に行う小テストと期末テストの成績によって評価する。
講義構成	1 授業内容の概略説明＋憲法と社会保障法、社会福祉、生活保護 2 社会福祉法の歴史的展開 3 社会福祉法の基本原則と法構造 4 児童福祉 5 児童福祉 6 障害者福祉 7 障害者福祉 8 高齢者福祉 9 家庭福祉 10 家庭福祉 11 生活保護 12 生活保護 13 生活保護 14 社会福祉基礎構造改革と提供主体 15 今後の社会保障制度－セーフティネット論との関連で
教科書	本沢巳代子・新田秀樹編著『トピック社会保障法』不磨書房
参考書・資料	必要に応じてレジュメに資料を添付する。なんらかの六法が必携。

授業コード	41F11		
授業科目名	商法I(会社法I) (A)(前)		
担当者名	前嶋京子(マエシマ キョウコ)		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	火曜3限
特記事項	法学部2年次		
オフィスアワー	木曜日3時限。その他必要があるときは、アポイントをとること。		

講義の内容	「商法Ⅰ」では、会社法についての講義を行う。 現代社会において「会社」の果たす役割の重要性はいうまでもない。その「会社」のうち特に「株式会社」を中心に講義を行う。内容的には、「商法Ⅱ」の講義と併せて、株式会社の設立をはじめとして、その組織や運営、解散・清算にいたるまでの全般を網羅する(従って、「商法Ⅱ」の受講を強く要望する)。 「商法Ⅰ」では、以下の「講義構成」に掲げる事項についての講義を行う。
到達目標	本講義では、会社法の基礎知識を得、現在問題となっている諸点の理解を深め、将来実際の社会で活躍するために必要な会社法に関する知識を得ると共に、会社法に関する問題についての理解力・判断力を養うことを目標とする。
講義方法	通常の講義形式により行う。
準備学習	卒業後の社会人になれば、会社法は日常的に経験する法領域ではあるが、多くの学生諸君は、未だ会社法的な事項を日常的に経験していないと思われる。そこで、「会社法的な常識」は未だ発達していないので、授業に出席し、授業中に理解できるように努めると共に、復習をしっかりとて、次の授業に臨むようにすること(復習をして疑問を持ったところは、早い時期に質問に来ること)。
成績評価	定期筆記試験のみで成績を評価する。 評価に際しては、基本的な事項の理解を重要視する。
講義構成	1.授業の進め方の説明等 2.会社法序説 会社法概念、会社の種類等 (組織変更を含む) 3.株式会社法総論 株式会社の特色等 4.株式会社の設立 5.株式・株主 6.株式会社の資金調達

	a.募集株式の発行等 (新株発行・自己株式の処分) b.新株予約権 c.社債
教科書	森淳二郎・吉本健一編『会社法 エッセンシャル 補訂版』有斐閣ブックス(2009年)。なお、最新版が出た場合には、最新版を利用する。
参考書・資料	必要に応じて紹介する。
講義関連事項	本講義は「商法Ⅱ」と一体のものとして構成されているので、「商法Ⅱ」の受講を強く要望する。

担当者から一言	授業では2006年に施行された会社法についての講義をする。書店で販売されている会社法関連の出版物や図書館の蔵書には、旧法(商法会社編の旧規定)に関する記述がなされているものも多い。履修・自習上、各自が会社法に関する書籍・文献を利用するときは、発行年月日等を確認して、旧法の記述を新会社法に関するものと誤解しないように注意されたい。 また、会社法に関する法務省令はしばしば改正されているので、面倒がらずに、最新の六法等で確認しながら、学習をすすめていくようにすること。
その他	六法必携。六法については最新版(平成22年版)を用意すること。

授業コード	41F12		
授業科目名	商法I(会社法I) (B)(前)		
担当者名	山本真知子(ヤマモト マチコ)		
配当年次	3・4年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	月曜3限
特記事項	法学部2年次以外		
オフィスアワー	月曜4限。その他についてはアポイントを取ること。		

講義の内容	会社法総論、株式会社[総説、株式、株式会社の機関]
到達目標	会社法総論、株式会社[総説、株式、機関]についての基礎的な知識を身につける。
講義方法	・教科書、六法、判例等に基づいた講義形式。
準備学習	・予習(講義の最後に指示された教科書の該当頁を読む。教科書中に出てきた条文については六法を引く。) ・復習(講義の内容を次回までに復習し、疑問点については参考文献等で調べる。)
成績評価	・学期末試験の成績で評価する。
講義構成	第1回 会社法総論 商法と会社法、会社の意義 第2回 会社の種類、株式会社総説 第3回 株式(1) 第4回 株式(2) 第5回 株式(3) 第6回 株式(4) 第7回 株式(5) 第8回 株式会社の機関(1) 株主総会① 第9回 株式会社の機関(2) 株主総会② 第10回 株式会社の機関(3) 取締役、取締役会① 第11回 株式会社の機関(4) 取締役、取締役会② 第12回 株式会社の機関(5) 取締役、取締役会③ 第13回 株式会社の機関(6) 会計参与、監査役、監査役会、会計監査人 第14回 株式会社の機関(7) 委員会設置会社 会社法の課題 ※内容、進度は理解度等に応じて多少変更する場合がある。
教科書	1近藤光男編『現代商法入門[第8版]』(有斐閣、2009年) ※講義開始までに改訂された場合には最新版を使用する。 2『ポケット六法平成22年度版』(有斐閣)等の最新版の六法
参考書・資料	1 江頭憲治郎『株式会社法[第3版]』(有斐閣、2009年) 2 神田秀樹『会社法[第11版]』(弘文堂、2009年) 3 宮島 司『新会社法エッセンス[第三版]』(弘文堂、2008年)

	4 森淳二郎・吉本健一編著『会社法—エッセンシャル[補訂版]』(有斐閣、2009年) 5 河本一郎・岸田雅雄・森田章・川口恭弘『日本の会社法[新訂第9版]』(商事法務、2008年) 等会社法に対応したもの。講義開始までに改訂された場合には最新版を参考にすること。
講義関連事項	・商法Ⅰ(会社法Ⅰ)と商法Ⅱ(会社法Ⅱ)で「会社法」全体についての講義を行うので、商法Ⅰを履修する人は商法Ⅱも履修するようにしてください。 ・逆に商法Ⅱ(会社法Ⅱ)を履修する人は商法Ⅰ(会社法Ⅰ)を履修済みであることが望ましいです。そうでない場合には必ず商法Ⅰ(会社法Ⅰ)を併行履修してください。 ・また、商法は民法の特別法ですので、民法の知識が一定範囲で必要となります。民事法入門と民法のうち財産法に関連する科目を履修しておくか、併行して履修して下さい。
担当者から一言	・平成17年6月に成立した会社法は1000に近い条文を有し、また、その法務省令も多くの条文を有し、その構成と内容は非常に「複雑」なものになっています。その骨格と全体像の理解を目標としますので、講義に出席するとともに予習・復習をして下さい。 ・教科書、最新版の六法を毎時間必ず持参すること。
その他	・法学部以外の履修希望者は、「講義関連事項」と「担当者から一言」を十分に理解した上で履修登録をするようにしてください。

授業コード	41F21		
授業科目名	商法Ⅱ(会社法Ⅱ)(A)(後)		
担当者名	前嶋京子(マエシマ キョウコ)		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	水曜3限
特記事項	法学部2年次		
オフィスアワー	木曜日3時限。その他必要があるときは、アポイントをとること。		

講義の内容	「商法Ⅱ」では、「商法Ⅰ」と一体のものとして、会社法についての講義を行う(従って、「商法Ⅰ」の受講を強く要望する)。 現代社会において「会社」の果たす役割の重要性はいうまでもない。その「会社」のうち特に「株式会社」を中心に講義を行う。内容的には、「商法Ⅰ」の講義の続き、すなわち、株式会社の組織や運営、計算、組織再編、解散・清算等についての講義をする。 「商法Ⅱ」では、以下の「講義構成」に掲げる順に講義を行う。
到達目標	会社法の基礎知識を得、現在問題となっている諸点の理解を深め、将来実際の社会で活躍するために必要な会社法に関する知識を得ると共に、会社法に関する問題についての理解力・判断力を養うことを目標とする。
講義方法	通常講義形式で行う。
準備学習	前期の商法Ⅰ(会社法Ⅰ)の内容に続いて講義を行うので、商法Ⅰで学習したことについて、よく復習しておくこと。また、商法Ⅱの授業に出席し、授業中に講義内容を理解するように努めると共に、復習をしっかりとて、次の授業に臨むようにすること(復習をして疑問を持ったところは、早い時期に質問に来ること)。
成績評価	定期筆記試験のみで成績を評価する。 評価に際しては、基本的な事項の理解を重要視する。
講義構成	1.株式会社の機関(総論) 2.株主総会 (定款変更、利益供与を含む) 3.取締役・取締役会 4.会計参与 5.監査役(会) 6.会計監査人 7.委員会設置会社の機関 8.計算 9.企業再編—株式会社の合併、分割、株式交換・株式移転 10.解散・清算等 11.外国会社等
教科書	森淳二郎・吉本健一編『会社法 エッセンシャル 補訂版』有斐閣ブックス(2009年)。なお、最新版が出た場合には、最新版を利用する。
参考書・資料	必要に応じて紹介する。

講義関連事項	本講義は「商法Ⅰ」と一体のものとして構成されているので、「商法Ⅰ」の受講を強く要望する。
担当者から一言	授業では2006年に施行された会社法についての講義をする。書店で販売されている会社法関連の出版物や図書館の蔵書には、旧法(商法会社編の旧規定)に関する記述がなされているものが多い。履修・自習上、各自が会社法に関する書籍・文献を利用するときは、発行年月日等を確認して、旧法の記述を新会社法に関するものと誤解しないように注意されたい。 また、会社法に関する法務省令はしばしば改正されているので、面倒がらずに、最新の六法等で確認しながら、学習をすすめていくようにすること。
その他	六法必携。六法については最新版(平成22年版または平成23年版)を用意すること。

授業コード	41F22		
授業科目名	商法Ⅱ(会社法Ⅱ) (B)(前)		
担当者名	山本真知子(ヤマモト マチコ)		
配当年次	3・4年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	水曜4限
特記事項	法学部2年次以外		
オフィスアワー	月曜4限。その他についてはアポイントを取ること。		

講義の内容	株式会社の資金調達の方法、計算、設立、定款変更・会社の解散・精算等、持分会社、企業買収・企業再編(M&A)、外国会社
到達目標	株式会社の資金調達の方法、計算、設立、定款変更・会社の解散・精算等、持分会社、企業買収・企業再編(M&A)、外国会社についての基礎的な知識を身につける。
講義方法	・教科書、六法、判例等に基づいた講義形式
準備学習	・予習(講義の最後に指示された教科書の該当頁を読む。教科書中に出てきた条文については六法を引く。) ・復習(講義の内容を次回までに復習し、疑問点については参考文献等で調べる。)
成績評価	・学期末試験の成績で評価する。
講義構成	第1回 株式会社の資金調達(1) 募集株式の発行① 第2回 株式会社の資金調達(2) 募集株式の発行② 第3回 株式会社の資金調達(3) 不公正な株式発行等、株式発行等の無効 第4回 株式会社の資金調達(4) 新株予約権 第5回 株式会社の資金調達(5) 社債 第6回 株式会社の計算等(1) 総説、会計の原則と会計帳簿、計算書類 第7回 株式会社の計算等(2) 資本金と準備金、剰余金の配当、違法な剰余金の配当等に関する責任 第8回 設立(1) 第9回 設立(2)、定款変更、解散・精算 第10回 企業買収・企業再編(1) 総説、組織再編行為 第11回 企業買収・企業再編(3) 合併、会社分割、株式交換・株式移転、 第12回 企業買収・企業再編(4) 自己株式と株式の相互保有、事業譲渡・譲受け等、組織変更 第13回 企業買収・企業再編(5) 敵対的企業買収と企業買収防衛策、親子会社関係 第14回 持分会社、外国会社 ※内容、進度は理解度等に応じて多少変更する場合がある。
教科書	1 近藤光男編『現代商法入門[第8版]』(有斐閣、2009年) ※講義開始までに改訂された場合には最新版を使用する。 2『ポケット六法平成22年度版』(有斐閣)等の最新版の六法
参考書・資料	1 江頭憲治郎『株式会社法[第3版]』(有斐閣、2009年) 2 神田秀樹『会社法[第11版]』(弘文堂、2009年) 3 宮島 司『新会社法エッセンス[第三版]』(弘文堂、2008年) 4 森淳二郎・吉本健一編著『会社法—エッセンシャル[補訂版]』(有斐閣、2009年) 5 河本一郎・岸田雅雄・森田章・川口恭弘『日本の会社法[新訂第9版]』(商事法務、2008年) 等会社法に対応したもの。講義開始までに改訂された場合には最新版を参考にすること。
講義関連事項	・商法Ⅰ(会社法Ⅰ)と商法Ⅱ(会社法Ⅱ)で「会社法」全体についての講義を行うので、商法Ⅰを履修する人は商法Ⅱも履修するようにしてください。

	・逆に商法Ⅱ(会社法Ⅱ)を履修する人は商法Ⅰ(会社法Ⅰ)を履修済みであることが望ましいです。そうでない場合には必ず商法Ⅰ(会社法Ⅰ)を併行履修してください。 ・また、商法は民法の特別法ですので、民法の知識が一定範囲で必要となります。民事法入門と民法のうち財産法に関連する科目を履修しておくか、併行して履修して下さい。
担当者から一言	・平成17年6月に成立した会社法は1000に近い条文を有し、また、その法務省令も多くの条文を有し、その構成と内容は非常に「複雑」なものになっています。その骨格と全体像の理解を目標としますので、講義に出席するとともに予習・復習をして下さい。 ・教科書、最新版の六法を毎回必ず持参すること。
その他	・法学部以外の履修希望者は、「講義関連事項」と「担当者から一言」を十分に理解した上で履修登録をするようにしてください。

授業コード	41076		
授業科目名	商法Ⅲ(商行為法) (前)		
担当者名	山本真知子(ヤマモト マチコ)		
配当年次	学部・学科により異なる	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	月曜2限
オフィスアワー	月曜4限。その他についてはアポイントを取ること。		

講義の内容	商法の意義と法源、隣接法との関係、商人、商行為、商号、商業登記、商業帳簿、商業使用人と 代理商、商行為法総論・各論
到達目標	商法総則・商行為法についての基礎的な知識を身につける。
講義方法	・教科書、六法、判例等に基づいた講義形式。
準備学習	・予習(講義の最後に指示された教科書の該当頁を読む。教科書中に出てきた条文については六法を引く。) ・復習(講義の内容を次回までに復習し、疑問点については参考文献等で調べる。)
成績評価	・学期末試験の成績で評価する。
講義構成	第1回 講義の進め方等についての説明 商法と何か、商法の適用 第2回 商人と営業 第3回 商行為① 第4回 商行為② 第5回 商業登記 第6回 商号、商業帳簿 第7回 商業使用人 第8回 代理商、企業取引の補助者 第9回 企業間の売買(商事売買) 第10回 消費者取引① 第11回 消費者取引② 第12回 運送営業 第13回 運送取扱営業 第14回 寄託を受けた商人の責任 まとめ、学期末テストの説明等 ※ 商法総則と商行為法を効率的に学ぶため、教科書の順番と異なった進め方をする場合がある。 ※ 内容、進度は理解度等に応じて多少変更される場合があります。
教科書	1 近藤光男編『現代商法入門〔第8版〕』(有斐閣、2009年) ※講義開始までに改訂された場合には最新版を使用する。 2『ポケット六法平成22年度版』(有斐閣)等の最新版の六法

担当者から一言	・商法は民法の特別法ですので、民法の知識が一定範囲で必要となります。民事法入門と民法のうち財産法に関連する科目を履修しておくか、併行して履修してください。
---------	--

	・教科書、最新版の六法を毎時間必ず持参すること。
--	--------------------------

授業コード	41077		
授業科目名	商法Ⅳ(手形・小切手法Ⅰ) (前)		
担当者名	前嶋京子(マエシマ キョウコ)		
配当年次	3・4年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	月曜5限
オフィスアワー	木曜日3時限。その他必要があるときは、アポイントをとること。		

講義の内容	本講義では、手形法・小切手法を講義していく。 手形や小切手は、日常生活ではあまり縁のないものであるが、ビジネスの社会では、かつてそうであったほどではないにせよ、今も、決済や金融の手段などとして重要な存在であるといえる。特に、将来銀行等へ就職したときには、手形や小切手は日常的に接するものとなろう。 本講義では、手形・小切手を通じて、有価証券の持つ特有な法制度の基礎的な知識を得ることができるが、このような知識は、他の講義科目では得られないものといえよう。
到達目標	現代の経済社会において、かつてほど手形・小切手の重要性はなくなってきているといえるであろうが、それでもなお、典型的な有価証券として、経済社会におけるその役割には、軽んじ得ないものがあるといえる。本講義では、手形・小切手の学習を通じて、有価証券特有の制度・基礎知識を修得することを目標とする。
講義方法	通常の講義形式で行う。
準備学習	受講上、民法の基礎知識が必要とされる。 日常生活ではあまり経験することのない特殊な法領域といえるので、事前の学習は困難かもしれないので、授業後の復習をしっかりと、次の授業に臨むようにすること。
成績評価	定期筆記試験のみで成績を評価する。 評価に際しては、基本的な事項の理解を重要視する。
講義構成	1. 授業のすすめ方の説明等 2. 有価証券概論 3. 約束手形・為替手形、小切手の異同 4. 手形・小切手の経済的機能 5. 手形行為・小切手行為総論 6. 手形・小切手の振出 7. 為替手形における引受 8. 譲渡と裏書(保証を含む) 9. 支払・不渡、遡求 10. 権利の消滅・時効 11. 証券の喪失と公示催告・除権決定 12. その他(参加、複本、謄本等を含む)
教科書	川村正幸『手形小切手法<第2版>』法研出版(2007年)
参考書・資料	必要に応じて紹介する。
講義関連事項	民法についての基礎知識が必要となる。
担当者から一言	学生の日常生活ではあまり見ることのない手形や小切手についての講義であるため、「日常的な常識」では想像しにくい内容が講義されることとなるので、自学自習が比較的難しいものであるといえる。できる限り講義には出席すること。
その他	六法必携。

授業コード	41078		
授業科目名	商法Ⅴ(保険法) (後)		
担当者名	前嶋京子(マエシマ キョウコ)		
配当年次	3・4年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	火曜2限
オフィスアワー	木曜日3時限。その他必要があるときには、アポイントをとること。		

講義の内容	商法Ⅴでは、保険法を講義していく。 今や保険は、企業の経済活動上のリスク管理の面で必要な制度であるだけでなく、私たちの日常生活においても、なくてはならない制度となっている。例えば、結婚や子供の出生を機に生命保険に入ったり、自宅を建てれば火災保険に入るといったことは日常の生活で普通に行われることである。また、自動車を購入すれば、当然のように自動車保険も購入する。このように保険というものが、ごく日常的で重要であるにもかかわらず、保険に関する知識は一般的に乏しいといえる。そこで、この授業では、保険制度の基本的な事項を大切に、保険法に規定のある損害保険・生命保険・傷害疾病保険といった私保険全般に関する基礎知識や問題となりうる点について講義していく。
到達目標	本講義では、保険法の基礎知識を得、現在問題となっている諸点の理解を深め、将来実際の社会で活躍するために必要な保険法に関する知識を得ると共に、保険法に関する問題についての理解力・判断力を養うことを目標とする。
講義方法	通常の講義形式により行う。
準備学習	受講上、民法の基礎知識が必要とされる。 常日頃から、身近にある保険契約について関心を持ち、保険約款なども読んでみるなど、興味を持って授業に臨んでもらいたい。 授業後の復習はしっかりして、次の授業に臨むようにすること。
成績評価	定期筆記試験のみで成績を評価する。 評価に際しては、基本的な事項の理解を重要視する。
講義構成	1.授業の進め方の説明等 2.保険法についての概説 保険制度の目的・機能 保険法の法源 など。 3. 各保険契約共通の概念・問題 保険契約の関係者 保険事故・保険料・保険金 告知義務 など 4.損害保契約 損害保険契約の特徴 被保険利益・保険価額 保険者の地位 など 5.生命保険・傷害疾病保険 生命保険契約の特徴 契約の成立・当事者 など 傷害保険・疾病保険(傷害疾病損害保険・傷害疾病定額保険を含む)の特徴・効果 など
教科書	山下友信等『保険法 第3版』有斐閣アルマ。2010年3月発行予定のものであるので、旧版を買わないように注意すること。なお、発行予定のものであることから、万一 授業開始前までに間に合わないときには、変更することもあり得るので注意すること。
参考書・資料	読みやすい入門書として、竹濱修『保険法入門』日経文庫(2009年)がある。その他、必要に応じて紹介する。
講義関連事項	商法Ⅴは、商法Ⅰ～Ⅳとは異なった分野の学習といえるが、商法Ⅲの履修後であることが望ましい。また、民法についての基礎知識は必要となる。

担当者から一言	授業では2008年に成立し、本年4月に施行された保険法についての講義をする。書店で販売されている保険法関連の出版物や図書館の蔵書には、旧法(商法第10章保険の旧規定)に関する記述がなされているものも多い。履修・自習上、各自が保険法に関する書籍・文献を利用するときは、発行年月日等を確認して、旧法の記述を新保険法に関するものと誤解しないように注意されたい。
その他	六法必携。六法については最新版(平成22年版または平成23年版)を用意すること。

授業コード	41092		
授業科目名	情報社会論Ⅰ(B)(後)		
担当者名	濱井禧价(ハマイ ヨシスケ)		
配当年次	3・4年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	火曜4限

講義の内容	社会のあらゆる分野において急速に浸透してきた情報化は、従来の社会構造、産業構造に大きな変革をもたらしつつある。本講義では、高度な情報技術に支えられて発展する情報化社会の現状を理解させるとともに、この
-------	---

	発展に寄与する情報産業の社会的位置づけと意義を理解させ、情報産業に携わる個人の持つべき職業倫理、健全な職業観を身に付ける。
到達目標	情報化社会の現状を理解する。個人の持つべき職業倫理、健全な職業観を身に付ける。
講義方法	電子教材、参考資料、板書による説明
準備学習	特になし
成績評価	1. 平常点(出席およびレポート提出)――40% 2. 課題発表――20% 3. 定期試験――40%
講義構成	第1回:情報技術の歴史 第2回:コンピュータおよび通信技術の現状 第3回:社会構造・産業構造とその変化 第4回:コミュニケーション(広義)の本質と情報技術 第5回:組織と情報化事例(公共事業) 第6回:組織と情報化事例(製造業――その1) 第7回:組織と情報化事例(製造業――その2) 第8回:組織と情報化事例(情報サービス産業) 第9回:社会における情報技術の分類とその内容(具体的業務内容) 第10回:知的所有権とコンピュータテクノロジー 第11回:情報技術倫理 第12回:情報セキュリティ 第13回:課題発表 第14回:課題発表
教科書	講義に必要なテキストは適宜配布する。
担当者から一言	実社会における情報技術を理解し、将来の職業観の確立に役立ててほしい。

授業コード	31U12		
授業科目名	初級マクロ経済学 (B)(後)		
担当者名	王 凌(ワン リン)		
配当年次	1年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	木曜4限

講義の内容	マクロ経済学に関する基礎的内容を講義する。国民所得の決定モデル、金融市場のモデル等を解説し、マクロ経済問題を理解する上で必要不可欠な知識を学ぶ。授業の目的は、経済の仕組みを巨視的・全体的に捉えて分析するための基本的な概念と標準的なマクロ経済理論を理解し、政策的なインプリケーションについても応用できる能力を身に着けることである。
到達目標	具体的な到達目標は次の5つです。 (1) GDPについて理解すること。 (2) 需要と供給という視点からマクロ経済の動きを理解すること。 (3) 乗数プロセスで景気の波及メカニズムを説明すること。 (4) マクロ経済の均衡を理解すること。 (5) 信用乗数メカニズムを理解すること。
講義方法	原則として教科書の内容に基づいた講義を行う。
準備学習	担当教員に指示された、教科書の箇所を読んでおくこと。
成績評価	原則として期末試験の成績にもとづいて評価する。適宜平常点を加味する。
講義構成	第1回 イントロダクション 第2回～第4回 GDP 第5回 需要、供給と景気 第6回 乗数プロセスと限界消費性向 第7回 需要(所得、生産)の決定とマクロ経済の均衡

	第8回 所得の調整と需要の調整 第9回～第10回 マクロ経済モデルとマクロ経済均衡の計算 第11回～第12回 貨幣 第13回～第14回 信用乗数のメカニズム
教科書	伊藤元重、『入門 経済学』第3版、日本評論社、2009年

授業コード	31U22		
授業科目名	初級ミクロ経済学 (B)(前)		
担当者名	王 凌(ワン リン)		
配当年次	1年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	木曜4限

講義の内容	人々がモノをつくること(生産)、人々がモノを使うこと(消費)、そして、人々がモノをやりとりすること(交換)、この3つから経済は成り立っています。これら3つの経済活動は、「市場経済」と呼ばれる仕組みのなかで行われています。この授業では、個々の経済主体(企業、家計、政府)の行動に主眼を置き、市場経済のもとで、生産、消費、交換という経済活動がどのように行われるのかを学びます。
到達目標	具体的な到達目標は次の5つです。 (1)トレードオフ、機会費用、インセンティブなどの、経済学の基本的な考え方を知ること。 (2)需要と供給のグラフを使って、市場均衡、価格の変化や生産量・消費量の変化を説明できるようになること。 (3)需要曲線の意味、消費者の消費行動がどのように需要曲線で表されているのかを理解すること。 (4)供給曲線の意味、生産者の生産行動がどのように供給曲線で表されているのかを理解すること。 (5)各経済主体の意思決定・行動様式の相互依存性を理解すること。
講義方法	原則として教科書の内容に基づいた講義を行う。
準備学習	担当教員に指示された、教科書の箇所を読んでおくこと。
成績評価	原則として期末試験の成績にもとづいて評価する。適宜平常点を加味する。
講義構成	第1回 イン트로ダクション 経済学とはどのような学問か、ミクロ経済学の分析内容と分析手法などについて解説します。 第2回～第4回 需要と供給 需要と供給のグラフが何を表しているのかを学び、そのグラフを使って、世の中で実際に起こっているできごとを説明するやりかたを学びます。 第5回～第6回 需要曲線と消費者行動 人々の、モノを買って使う、という行動が、どのように需要曲線で表されるのかを学びます。 第7回～第8回 費用の構造と供給行動 人々の、モノをつくって売る、という行動が、どのように供給曲線で表されるのかを学びます。 第9回～第10回 市場取引と資源配分 人々が自由に自発的にモノ売り買いすることを通じて誰が何をどれだけ生産し消費するかが決まる、という社会のしくみ(＝市場経済)の性能を学びます。 第11回～第14回 ゲーム理論 ゲーム理論とはどのようなものであるのか、そしてそれを利用して経済問題をどのように分析できるのかを学びます。
教科書	伊藤元重、『入門 経済学』第3版、日本評論社、2009年

授業コード	41C81
-------	-------

授業科目名	親族法（1クラス）(前)		
担当者名	金ムンスク(キム ムンスク)		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	木曜1限
特記事項	法学部全学年 出席番号1～210		
オフィスアワー	各回の講義後		

講義の内容	本講義は、民法第4編親族を対象とする講義である。 親族法はいわゆる「家族」構成員相互の法律関係(家族や男女関係、親子関係等)を主として対象とする。家族構成員たる自然人はまた社会の構成員として存在するため、社会の変化や意識の変化にも注意を払い、親族法を捉える必要がある。 講義では、家族のあり方について考える機会を与えとともに、親族法分野の理解を目的とする。
到達目標	親族法の特徴や仕組みについて理論・裁判例を理解し、具体的な事例を解決できるようにする。
講義方法	講義は、基本的には教科書に沿って進める。最初に各制度の枠組みやその基本的な考え方を概説した後、重要な論点を中心に講義を行う。
準備学習	教科書、レジュメを中心に予習し、具体的な事例・裁判例について検討する。相続法をとる人はこの講義を聞いておくことが望ましい。
成績評価	定期試験(70%)と3回提出されたレポート(30%)の内容に応じて評価する。
講義構成	1. 家族法の全体像 2. 婚姻の成立Ⅰ(婚姻の意義、婚姻成立の要件) 3. 婚姻の成立Ⅱ(婚姻の無効と取消し、婚約・結納・内縁) 4. 婚姻の効果Ⅰ(一般的效果) 5. 婚姻の効果Ⅱ(財産的效果) 6. 離婚の成立 7. 離婚の効果 8. 親子Ⅰ(実子) 9. 親子Ⅱ(養子) 10. 親権Ⅰ 11. 親権Ⅱ 12. 後見・保佐・補助 13. 扶養 14. まとめ
教科書	千藤ほか『プリメール民法5 家族法〔第2版〕』(法律文化社、2005)
参考書・資料	水野紀子・大村敦志・窪田充見編『家族法判例百選〔第7版〕』(有斐閣、2008) その他の資料は、講義中に適宜紹介する。
講義関連事項	六法は必ず持ってくること。

授業コード	41C82		
授業科目名	親族法（2クラス）(前)		
担当者名	辻上佳輝(ツジガミ ヨシテル)		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	月曜2限
特記事項	法学部全学年 出席番号211～最後、法学部以外		

講義の内容	親族法は民法第4編「親族」を主な対象とする分野である。後期開講の「相続法」とあわせて「家族法」と呼ばれるこの分野は、親族関係(「親戚関係」と同じ意味だと思ってよい)、婚姻(「結婚」)、離婚、親子、養子縁組、離縁、扶養などについて学ぶ。 内容は、大学生ならばこれから数年のうちには経験する可能性が高いものばかりで(もちろん経験したくない事柄もあるが…)、いずれ自分の生活に役立つことばかりである。
到達目標	親族法のみならず法律学全体の目標であるが、①親族法で使う言葉を理解し、正しく使えるようになること、②親族法や民法が持っている理論を正しく使えるようになること、③法体系の中で今学んでいることがどこに位置

	するのを知ること、が究極的な目標である。 親族法では、これに加えて④実際の社会で動いているルールと法規定がどのように関係し、また乖離しているのを知ること、も重要となる。
講義方法	「My Konan」の指定ページにてアップロードする講義レジュメと口述による。
準備学習	この講義では、予習は一切必要でない。最初に講義を聞き、参考書などで補充すること。
成績評価	期末試験の成績による。
講義構成	第1回 ガイダンス・親族法の学び方 第2回 親族 第3～6回 婚姻 第7～8回 離婚 第9～11回 親子 第12～13回 養子・特別養子・離縁 第14～15回 扶養
教科書	使用せず、詳細なレジュメによる。
参考書・資料	参考書の一覧は、第1回のレジュメに列挙している。 自分にあったものを用いること。

授業コード	41032		
授業科目名	政治学原論(政治学原論II) (後)		
担当者名	飯田文雄(イダ フミオ)		
配当年次	学部・学科により異なる	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	金曜2限

講義の内容	この講義は、現代政治の理解に必要な諸理論を、その思想的・歴史的前提を踏まえつつ考察することを目的とする。具体的には、本講義の考察対象となるのは、主として20世紀以降の現代先進民主主義諸国に共通する政治的現象の理解に不可欠な諸理論である。また現在の時点では、それらを、以下に挙げるテーマを手がかりに整理・概観する予定である(事情により変更の可能性はある)。
到達目標	①基本的な政治学の概念を理解すること ②それら概念が現実の政策にどう応用されているかを理解すること ③①②を通して公務員試験受験の基礎となる学力をつけること これらが到達目標である。
講義方法	大教室での講義形式で授業を行う。質問は適宜授業後に受け付ける。
準備学習	政治学の他の科目を出来る限り聴講しておくことは勿論この講義の準備として有益である。また同様に、政治学の専門書や政治思想史の古典を読むことも準備として有益である。
成績評価	期末の筆記試験の成績による。
講義構成	序 現代政治理論の方法 第1章 リベラリズムの歴史的展開 1-1 リベラリズムと権利 1-2 リベラリズムと自己利益 1-3 リベラリズムと人格発展 第2章 自由 2-1 二つの自由論 2-2 共同体論と自由 2-3 共和主義の自由論 第3章 権力 3-1 現代権力論の起源 3-2 3次元的権力論 以上各項目を各1～2時間程度で講義する
教科書	「現代政治学の名著」(佐々木毅編、中央公論社) 「現代政治理論」(川崎・杉田編、有斐閣、2006)
参考書・資料	参考書:「政治学講義」(佐々木毅著、東京大学出版会)「概説西洋政治思想史」(中谷・足立編著、ミネルヴァ書房)他、講義内で適宜指示 資料:講義の理解を促進し、より進んだ勉強を奨励するため、参考文献リスト等を適宜配布する予定である。

担当者から一言	教科書等、シラバス作成時に未確定な事柄を中心とした、講義の進め方に関する重要事項を、初回の講義で伝達するので、必ず出席すること。
---------	--

授業コード	41A41		
授業科目名	政治学入門(政治学原論I) (A)(前)		
担当者名	池田佳隆(イケダ ヨシタカ)		
配当年次	1年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	木曜4限
特記事項	法学部1年次 出席番号1～210		
オフィスアワー	水曜4限		

講義の内容	入門用のテキストを用いて、政治学の基本的な考え方を学ぶ。
到達目標	政治学の基本的な概念を理解する。
講義方法	通常の講義形式による。
準備学習	テキストの該当部分を読んでおく。
成績評価	期末試験による。
講義構成	1投票行動 2マスメディア 3政党 4官僚制 5利益団体 6首相 7地方自治 8国際政治 9グローバリゼーション
教科書	ポリティカル・サイエンス事始め(第3版) 伊藤光利編、有斐閣、2009年3月 (必ず2009年に発売された最新版を購入してください。同じタイトルでも古い版だと内容が異なります。)
担当者から一言	法律を勉強する人も政治学の基礎を学んでおいて損はありません。積極的に参加してください。

授業コード	41A42		
授業科目名	政治学入門(政治学原論I) (B)(前)		
担当者名	池田佳隆(イケダ ヨシタカ)		
配当年次	1年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	木曜5限
特記事項	法学部1年次 出席番号211～最後		
オフィスアワー	水曜4限		

講義の内容	入門用のテキストを用いて、政治学の基本的な考え方を学ぶ。
到達目標	政治学の基本的な概念を理解する。
講義方法	通常の講義形式による。
準備学習	テキストの該当部分を読んでおく。
成績評価	期末試験による。
講義構成	1投票行動 2マスメディア 3政党 4官僚制 5利益団体 6首相 7地方自治 8国際政治 9グローバリゼーション
教科書	ポリティカル・サイエンス事始め(第3版) 伊藤光利編、有斐閣、2009年3月 (必ず2009年に発売された最新版を購入してください。同じタイトルでも古い版だと内容が異なります。)
担当者から一言	法律を勉強する人も政治学の基礎を学んでおいて損はありません。積極的に参加してください。

授業コード	41A43
-------	-------

授業科目名	政治学入門(政治学原論I) (C)(後)		
担当者名	西山隆行(ニシヤマ タカユキ)		
配当年次	学部・学科により異なる	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	火曜2限
特記事項	法学部1年次以外		
オフィスアワー	随時行います。あらかじめご連絡ください。		

講義の内容	政治学の基本的な考え方や政治の仕組みを学ぶとともに、実際の政治現象をどのように捉えたらよいのか、新聞記事などを随時紹介しながら考えていきます。
到達目標	講義を通じて、政治に関心を持ち、日本の政治状況や社会問題について知ろうとする姿勢を身につけてもらいたい。そして、政治学に関心を持ち、さらに勉強したいと思ってもらえればうれしいです。
講義方法	講義形式にて行います。 毎回、レジュメとともに資料や新聞記事を配布します。レジュメはMyKonanに掲載しますが、資料や新聞記事のコピーはMyKonanに掲載されませんので注意してください。
準備学習	最近の政治状況について、常日頃から新聞等に目を通して把握しておいてください。 また、参考文献にあげた『はじめて出会う政治学』に目を通しておくと、授業内容の理解が進むでしょう。
成績評価	期末試験の成績を基本とします。
講義構成	0. はじめに：現在の政治状況 I. 政治のプロセスと経済・市民社会 1. 選挙(投票) 2. 世論とメディア 3. 利益団体 4. 地方自治 5. 政策過程 II. 政治の仕組み(統治の主体) 1. 国会 2. 政党 3. 議院内閣制と総理大臣 4. 官僚制 5. 政治過程に関する理論
教科書	授業は特定の教科書に沿った構成としていませんが、随時参考とすべき基本的文献として、とりあえず次のようなものをあげておきます。各自の目的にあったものを選んでもらえるよう、第1回のガイダンスで文献の説明をします。 北山・真淵・久米『はじめて出会う政治学(第3版)』有斐閣、2009年。 伊藤光利編『ポリティカル・サイエンス事始め(第3版)』有斐閣、2009年。 久米・川出・古城・田中・真淵『ニューリベラルアーツ 政治学』有斐閣、2003年。
参考書・資料	上記を参照。

担当者から一言	第1回目のガイダンスで、試験の形式や成績評価の詳細を説明しますので、受講者は必ず出席してください。
---------	---

授業コード	41035		
授業科目名	政治過程論I (前)		
担当者名	平野淳一(ヒラノ ジュンイチ)		
配当年次	3・4年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	木曜3限

講義の内容	本講義では政治学的な視点をを用いると政治過程がどのように見えるのかを解説します。政治についての情報はテレビや新聞、ネットなどからも得ることができ、ジャーナリストや専門家がそれぞれの観点から行った分析にも触れることができます。しかし、そうしたメディアで流されている情報を基に政治の動向を読み解いたり、日本政治に対する自分なりの見方を形成していくことは簡単ではありません。実際に起こっている諸問題をより深く掘り下げて理解するためには、長期的かつ多様な観点から政治現象を捉えることが有益です。 そのために本講義では政治学の分野における理論枠組みや研究成果の紹介を通じて、政治現象の一般的な理解を深めることを目指します。具体的な流れとしては、日本政治の歴史的・制度的背景を概観した後、政治過程を選挙過程と政策過程の二つの領域に分けて論じます。2009年の衆議院選挙では民主党が勝利し、戦後初
-------	---

	の選挙による政権交代が起りましたが、政権交代による変化についても講義では適宜触れていくつもりです。
到達目標	① 現代日本政治に関する知識を深める ② 多様な視点から政治現象を理解する ③ 政治に関する時事解説の妥当性を自分なりに判断する力を身につける
講義方法	通常の講義形式で行います。レジュメを配布しますので、それを基に説明を加えていく方式を取ります。
準備学習	北山俊哉・真淵勝・久米郁男『はじめて出会う政治学：構造改革の向こうに』（有斐閣、2009年）を一読しておく と授業内容が理解しやすくなると思います。
成績評価	期末試験のみで評価します。
講義構成	政治過程論Ⅰ、政治過程論Ⅱを通じて全体で四部から構成されます。 1. 政治過程論とは何か 2. 戦後日本政治の展開 ① 日本政治の基本的な制度構造 ② 戦後日本政治史の概略 3. 選挙過程 ① 選挙制度 ② 政党システム・政党組織 ③ 有権者の行動 ④ 政治家の行動 ⑤ 日本の選挙過程の特徴と近年に見られる変化 （※ 以下は政治過程論Ⅱ） 4. 政策過程
教科書	建林正彦・曾我謙悟・待鳥聡史『比較政治制度論』有斐閣、2008年。
参考書・資料	三宅一郎『投票行動』東京大学出版会、1989年。 ※ その他については講義中に適宜紹介します。
講義関連事項	政治過程論Ⅰ、政治過程論Ⅱは担当者が同じで講義内容の連続性も高いので、両方受講することをお勧めします。
担当者から一言	日本政治についてより深く理解したい方の受講を歓迎します。政治を批判的に見ることは大切ですが、実際に起こっていることを十分に理解して初めて何が問題なのかを自分なりに考えることができます。講義を通じて政治を冷静な目で見ながらも身近に感じることの面白さや大切さをお伝えできるようにしたいと思います。

授業コード	41036		
授業科目名	政治過程論Ⅱ（後）		
担当者名	平野淳一（ヒラノ ジュンイチ）		
配当年次	3・4年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	木曜2限

講義の内容	本講義では政治学的な視点を用いると政治過程がどのように見えるのかを解説します。政治についての情報はテレビや新聞、ネットなどからも得ることができ、ジャーナリストや専門家がそれぞれの観点から行った分析にも触れることができます。しかし、そうしたメディアで流されている情報を基に政治の動向を読み解いたり、日本政治に対する自分なりの見方を形成していくことは簡単ではありません。実際に起こっている諸問題をより深く掘り下げて理解するためには、長期的かつ多様な観点から政治現象を捉えることが有益です。 そのために本講義では政治学の分野における理論枠組みや研究成果の紹介を通じて、政治現象の一般的な理解を深めることを目指します。具体的な流れとしては、日本政治の歴史的・制度的背景を概観した後、政治過程を選挙過程と政策過程の二つの領域に分けて論じます。2009年の衆議院選挙では民主党が勝利し、戦後初の選挙による政権交代が起りましたが、政権交代による変化についても講義では適宜触れていくつもりです。
到達目標	① 現代日本政治に関する知識を深める ② 多様な視点から政治現象を理解する ③ 政治に関する時事解説の妥当性を自分なりに判断する力を身につける
講義方法	通常の講義形式で行います。レジュメを配布しますので、それを基に説明を加えていく方式を取ります。
準備学習	北山俊哉・真淵勝・久米郁男『はじめて出会う政治学：構造改革の向こうに』（有斐閣、2009年）を一読しておく と授業内容が理解しやすくなると思います。
成績評価	期末試験のみで評価します。

講義構成	政治過程論Ⅰ、政治過程論Ⅱを通じて全体で四部から構成されます。 1. 政治過程論とは何か 2. 戦後日本政治の展開 3. 選挙過程 （※ 以上は政治過程論Ⅰ） 4. 政策過程 ① 執政制度と政治的リーダーシップ ② 議会制度 ③ 官僚制 ④ 司法制度 ⑤ 地方政府・中央地方関係 ⑥ 利益集団 ⑦ マスメディア ⑧ 日本の政策過程の特徴と近年に見られる変化
教科書	建林正彦・曾我謙悟・待鳥聡史『比較政治制度論』有斐閣、2008年。
参考書・資料	講義中に適宜紹介します。
講義関連事項	政治過程論Ⅰ、政治過程論Ⅱは担当者が同じで講義内容の連続性も高いので、両方受講することをお勧めします。
担当者から一言	日本政治についてより深く理解したい方の受講を歓迎します。政治を批判的に見ることは大切ですが、実際に起こっていることを十分に理解して初めて何が問題なのかを自分なりに考えることができます。講義を通じて政治を冷静な目で見ながらも身近に感じることの面白さや大切さをお伝えできるようにしたいと思います。

授業コード	41051		
授業科目名	税法I(租税実体法) (前)		
担当者名	石原 忍(イシハラ シノブ)		
配当年次	3・4年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	木曜1限

講義の内容	租税実体法のうち資産税(相続税・贈与税)を講義する(講義の進行状況により消費税を加える)。相続税・贈与税では、①相続税法が私法と対立している部分を有すること②相続税・贈与税と所得税との関連を理解する。
到達目標	「何に対してどのように課された税金を、誰が、何時、どのように納付するのか」を判断し、課税上の問題点を考察できることを目的とする。なお、本講義は、相続税・贈与税の計算ができるようになることを目的とするものではない。
講義方法	教科書のうち重要部分について、判例を参照しながら講義する。なお適宜プリント、レジュメを配布する。
準備学習	相続法の初歩的理解があれば、受講がスムーズになると考えられます。
成績評価	期末試験による。
講義構成	第1回 ガイダンス、租税法総論 第2回 相続法の確認 相続税と贈与税の関係 第3回 相続税の納税義務者 相続税の課税価格について(本来の財産) 第4回～第9回 相続税の課税価格について(みなし相続財産、非課税、課税価格の計算の特例) 第10回～第11回 相続税の総額から各人の相続税額 第12回～第14回 贈与税(課税要件から税額まで)
教科書	第1回の講義で指示する。 受講生は第1回の講義の後準備してください。
参考書・資料	水野忠恒ほか編「租税判例百選[第4版]」(有斐閣・2005年) 佐藤英明『プレップ租税法』((弘文堂・2006年) 岡村忠生ほか『ベーシック税法[第4版]』(有斐閣・2009年)
講義関連事項	判例六法(有斐閣)など、税法の掲載された法規集を用意してください。
担当者から一言	租税法の初学者であっても、関心のある学生は積極的に参加してみてください。

授業コード	41052		
授業科目名	税法II(租税手続法) (後)		
担当者名	石原 忍(イシハラ シノブ)		
配当年次	3・4年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	木曜1限

講義の内容	租税手続法、租税争訟法、租税処罰法を講義する。
到達目標	納税義務の成立・確定・消滅の過程を理解したうえで、租税債務の「公共性・公平性」という特質に伴って、納税義務者に保障されている制度及び国に留保されている特権について、それらの役割と問題点を議論することを目的とする。
講義方法	教科書のうち重要部分について、判例を参照しながら講義する。なお講義ではレジュメを用意する予定。
準備学習	行政法の初歩的理解があれば、受講がスムーズになると思われます。 租税法の理解を深めるため、租税実体法(所得税法・法人税法・相続税法)を内容とする講義を受講することを勧めます。
成績評価	期末試験による。
講義構成	第1回 ガイダンス、租税法総論 第2回～第3回 納税義務の成立〔課税要件総論(1)〕 第4回～第5回 納税義務の成立〔課税要件総論(2)～納税義務の成立、諸義務まで〕 第6回～第8回 納税義務の確定(1)(納税申告ほか) 第9回～第10回 納税義務の確定(2)(課税処分ほか) 第11回～第12回 納税義務の確定(3)(その他) 第13回～第14回 租税処罰法、租税争訟法
教科書	第1回の講義で指示する。 受講生は第1回の講義の後準備してください。
参考書・資料	水野忠恒ほか編「租税判例百選〔第4版〕」(有斐閣・2005年) 岡村忠生ほか『ベーシック税法〔第4版〕』(有斐閣・2009年) 佐藤英明『ブレップ租税法』((弘文堂・2006年)
講義関連事項	判例六法(有斐閣)など、税法の掲載された法規集を用意してください。

担当者から一言	租税法の初学者であっても、関心のある学生は積極的に参加してみてください。
---------	--------------------------------------

授業コード	41019		
授業科目名	西洋政治史I(前)		
担当者名	高野清弘(タカノ キヨヒロ)		
配当年次	1年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	金曜5限
オフィスアワー	金曜日3時～4時		

講義の内容	15世紀末までのテューダー朝成立までのイギリスの政治史を中心として、ヨーロッパの政治の流れを概観する。明治以来、わが国は、欧米諸国に学んで近代化の努力を重ねてきた。したがって、わが国の政治制度の多くは、議会制度を始めとして、欧米の諸制度をモデルとするものである。この講義で対象とするのは、そのような制度が完成される以前の西洋社会であり、それゆえ、本講義は、いわばそのような制度を生み出した歴史的土壌を理解することを目指す。
到達目標	イギリスを軸に、中世のヨーロッパの姿を理解すること。
講義方法	講義内容についての詳細なレジュメを配布し、それにしたがって講義する。講義の中で、イギリスの歴史を扱った映画なども紹介し、ビデオ等で鑑賞することを推奨する。また、小説や戯曲も紹介するので、積極的に読んでいただきたい。
準備学習	授業の中で紹介した本を読んでくることが望ましい。
成績評価	原則として、期末の筆記試験の点数で成績評価を行う。授業の中で紹介した本や映画についてのレポートを提

	出した場合、加点の対象とする。これは任意であるが、次の要件を備えたものでなければならない。本の場合、著者、書名、出版社、出版年が明記されていること、映画の場合、映画のタイトル、監督、主演俳優、公開年が明記されていること、および、ワープロで40字36行2枚以上(本文)。手書きや以上の要件を備えていない場合には、加点の対象としない。締め切りは、6月の最終講義日。また、メールに添付での提出は歓迎するので、アドレスを知りたい学生は申し出ること。なお、2009年度はかなりの数の履修者に不可の判定を下した。先輩やネットの情報はあてにならないので注意すること。
講義構成	第1章 始めに 第2章 イギリス像の転換 第3章 ケルトとローマ 第4章 イングランド・スコットランド・ウェールズの形成 第1節 民族大移動 第2節 イングランドの形成 第3節 ウェールズ・スコットランドの形成 第5章 第1節 「属領時代」 第2節 「属領」から島国へ 第3節 王と諸侯 第4節 議会の形成 第5節 諸侯の政権掌握と抗争 第6節 経済と社会 第6章 終わりに—テューダー朝の成立
教科書	教科書は指定しない。
参考書・資料	川北稔・木畑洋一編『イギリスの歴史』(有斐閣アルマ) 青山吉信・今井宏編『概説イギリス史』(有斐閣選書) 高野清弘『政治と宗教のはざままで』(行路社) その他、随時、興味深い本を紹介する。

担当者から一言	出席はとりません。講義を聴く意志のある学生の積極的な出席を求めます。
ホームページタイトル	丸山眞男を読む会
URL	http://www.osipp.osaka-u.ac.jp/yomukai/

授業コード	41020		
授業科目名	西洋政治史Ⅱ(後)		
担当者名	高野清弘(タカノ キヨヒロ)		
配当年次	1年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	金曜5限
オフィスアワー	金曜日3時～4時		

講義の内容	本講義においては、イギリスを機軸として、近代以降の西洋政治史を概観する。したがって、テューダー朝の成立を序論とし、二つの革命を経て、海外進出、工業化の進展によってイギリス帝国が成立していった過程と、それが次第に凋落していった経緯を論ずるが、イギリス史の展開は他の西欧諸国との関係抜きには論じられないので、そのことにも言及する。
到達目標	イギリスを中心に成立過程のヨーロッパ近代社会を知ること。
講義方法	本講義は、詳細なレジュメを配布し、それにそくして講義する。。できれば、この時期のイギリスの歴史に関係した映画や小説なども紹介していきたい。
準備学習	授業の中で紹介した本を読んでくることが望ましい。
成績評価	原則として、期末の筆記試験の点数で成績評価を行う。授業の中で紹介した本や映画についてのレポートを提出した場合、加点の対象とする。これは任意であるが、次の要件を備えたものでなければならない。本の場合、著者、書名、出版社、出版年が明記されていること、映画の場合、映画のタイトル、監督、主演俳優、公開年が明記されていること、および、ワープロで40字36行2枚以上(本文)。手書きや以上の要件を備えていない場合には、加点の対象としない。締め切りは、12月の最終講義日。また、メールに添付での提出は歓迎するので、アドレスを知りたい学生は申し出ること。評価は結構厳しく行う予定であるので、そのつもりで受講すること。
講義構成	講義構成 序章 歴史とは何か。 第1章 近代イギリスの成立

	第1節 テューダー朝の立と宗教改革 その1 その2 第2節 エリザベスの時代 その1 その2 第2章 二つの革命 第1節 ピューリタン革命 その1 その2 第2節 名誉革命 その1 その2 第3章 ユニオン・ジャックの成立 第1節 地主支配体制の確立と議会主義の成立 第2節 「二重革命」の時代
教科書	教科書は指定しない。
参考書・資料	川北稔・木畑洋一編『イギリスの歴史』(有斐閣アルマ) 青山吉信・今井宏編『概説イギリス史』(有斐閣選書) 高野清弘『政治と宗教のはざま』(行路社) 随時、関連した文献を紹介する。
担当者から一言	出席はとりません。講義を聴く意志のある学生の積極的な出席を求めます。
ホームページタイトル	丸山眞男を読む会
URL	http://www.osipp.osaka-u.ac.jp/yomukai/

授業コード	41039		
授業科目名	西洋政治思想史I(前)		
担当者名	高野清弘(タカノ キヨヒロ)		
配当年次	3・4年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	月曜4限
オフィスアワー	金曜日3時～4時		

講義の内容	近代初頭にいたるまでの西洋政治思想の流れを概観する。今日、「政治」という言葉には、マイナスのイメージが伴い、また、「思想」に対しても嫌悪感ないし敵意が一般化しているように思われる。政治自体は人間の歴史が始まるとともに営まれていたのであろうが、政治についての反省的な思索が開始されたのは、西洋においては、古典古代のギリシャにおいてであった。そこでは、政治に否定的な意味合いはなく、人間が人間であろうとする限りなさざるを得ない行為と観念されていた。本講義においては、政治の復権を目差して、今一度西洋の政治思想を古典古代から理解することを試みる。キリスト教も西洋思想の柱であるので、その思想についても概説を試みる。
到達目標	少なくとも、西洋の思想の根本をなす、キリスト教的な考え方とギリシア的な考え方の相違について学生がある程度の理解を獲得することを目指す。
講義方法	プリントを配布する。レポートを課すこともありうる。
準備学習	授業において推薦する書物を読むこと。
成績評価	この科目は、毎年、受講生数が大きく変動するため、あらかじめ確たる方針を提示することができない。しかし、基本的には期末試験によって成績評価を行う。
講義構成	前期 1. 政治思想史の課題 2. 政治学の始源 3. 理想国家の構想——プラトン 4. ポリス政治の総括——アリストテレス 5. ポリスの没落とヘレニズム世界 6. エピクロス派とストア派 7. ローマの政治思想 8. キリスト教の登場

	9. アウグスティヌス——「神の国」と「地の国」 10. 中世ヨーロッパ社会の形成と政治思想の動向 11. トマス・アキナス——中世政治思想の体系化 12. 中世末期における政治思想の動向 13. ルネサンスの政治思想 14. 総括
教科書	教科書は特に指定しない。
参考書・資料	小笠原・小野・藤原『政治思想史』(有斐閣Sシリーズ) 福田歓一『政治学史』(東京大学出版会) 藤原保信『政治理論史』(早稲田大学出版部) 高野清弘『政治と宗教のはざままで』(行路社) その他、講義の中で適宜紹介する。
担当者から一言	なるべく、さまざまな分野に興味を持っていただきたい。
ホームページタイトル	丸山眞男を読む会
URL	http://www.osipp.osaka-u.ac.jp/yomukai/

授業コード	41040		
授業科目名	西洋政治思想史Ⅱ(後)		
担当者名	高野清弘(タカノ キヨヒロ)		
配当年次	3・4年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	月曜3限
オフィスアワー	金曜日 3時～4時		
講義の内容	マキアヴェッリ以降の近代政治思想の流れを概観する。近年、特殊「近代」的な政治・経済・科学等に対する批判がかまびすしいが、近代に対して批判的に関わろうとする場合にも、我々自身が決定的に近代の刻印を受けていることの認識が当然の前提となろう。この意味において、我々は、近代の出発点に立ち戻り、もう一度近代の思想を捉え返す必要があるということになる。この場合、政治に関する思想を独立したものとしてではなく、自然科学・経済・宗教等と根本においては共通の基盤を有するものとして理解することを求めている。		
到達目標	西洋近代とは何か。この思想史上の大問題について思考する手掛かりを提供する。		
講義方法	プリントを配布する。レポートを課すこともありうる。また、メールによるものも含め、質問を課題とすることも考えている。しかし、これは予定であって、受講生数によって、講義方法を変更することもありうる。		
準備学習	講義において紹介した本を読んでくることが望ましい。		
成績評価	受講生数が、毎年大きく変動するので、あらかじめ確たる方針を提示できない。しかし、基本的には期末試験によって成績評価を行う。		
講義構成	1. 西洋政治思想Ⅰのまとめ 2. ルネッサンスの政治思想 マキアヴェッリ 3. トマス・モア 4. 宗教改革の政治思想 ルターの思想 5. 同上 6. カルヴァンと抵抗権 7. 政治学のゲシュタルト・チェンジ——トマス・ホブズ 8. 同上 9. リベラル・デモクラシーの定礎——ジョン・ロック 10. 同上 11. 市民社会批判——ルソー 12. 理性の再検討——ヒュームとカント 13. フランス革命の衝撃——ロマン主義・歴史主義・保守主義 14. まとめ		
教科書	教科書は特に指定しない。		
参考書・資料	小笠原・小野・藤原『政治思想史』(有斐閣Sシリーズ) 福田歓一『政治学史』(東京大学出版会) 藤原保信『政治理論史』(早稲田大学出版部) 高野清弘『政治と宗教のはざままで』(行路社) その他、講義の中で適宜紹介する。		

担当者から一言	なるべく、さまざまな分野に興味を持っていただきたい。
ホームページタイトル	丸山眞男を読む会
URL	http://www.osipp.osaka-u.ac.jp/yomukai/

授業コード	41009		
授業科目名	西洋法史I(前)		
担当者名	黒田忠史(クロダ タダブミ)		
配当年次	1年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	木曜1限
オフィスアワー	火曜日12:10～12:50 またはE-Mailによる約束時間		

講義の内容	現行日本法の近代化に大きな影響を与えてきた西欧法の基層にあるヨーロッパ特有の法思想、法制度、裁判制度などの歴史的経緯と特徴について概説する。とりわけ前期「西洋法史Ⅰ」では、ヨーロッパ前近代の法史について講義する。
到達目標	西洋古代・中世の法史料についての基礎的知識の習得と、近代法の基礎にある法文化の特性を理解できること。
講義方法	パワーポイントや資料(My Konanにアップロード済)、視聴覚教材などを使用し、講義する。
準備学習	My Konanに掲載している講義資料、法史料を事前に読んでおくこと。
成績評価	基本的には期末試験(100点満点)の結果で評価。
講義構成	第1講 序論(過去問解説、勉強方法、法史のトピック) 第2講 ヘブライズム法思想 第3講 古代ギリシャの民主政と陪審裁判 第4講 古ゲルマンの法と社会 第5講 ユースティニアヌス法典 第6講 中世前期の裁判制度 第7講 レーエン制と村落法 第8講 都市の成立と発展 第9講 神の平和、ラントの平和 第10講 中世の大学と法学部 第11講 中世ローマ法学の展開 第12講 カノン法 第13講 ギルドとツンフトの制度と法 第14講 ローマ法の継受、まとめ
教科書	特になし。
参考書・資料	勝田有恒・森征一・山内進編著『概説 西洋法制史』ミネルヴァ書房 2004年 黒田著『西欧近世法の基礎構造』晃洋書房 1999年 上山編『近代ヨーロッパ法社会史』ミネルヴァ書房 1997年
講義関連事項	毎回の講義の冒頭で、前回の復習、質問への回答、講義の課題設定を行うので、毎回遅刻しないように。質問や意見は、他の人にも説明できるように、できるだけ講義中のクエスチョン・タイムにしてください。
その他	My Konanに、パワーポイントで提示するスライドや配布資料を、すべて載せています。前もってプリントアウトし、毎回の講義に持参してください。

授業コード	41010		
授業科目名	西洋法史Ⅱ(後)		
担当者名	黒田忠史(クロダ タダブミ)		
配当年次	1年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	木曜4限
オフィスアワー	火曜日12:10～12:50 またはE-Mailによる約束時間		

講義の内容	「近代法」の形成過程、その普遍性と特殊性、それを決定づけたヨーロッパ各国の政治的・社会的「構造」の特徴について講述する。
到達目標	現行法を生み出した政治的・社会的・文化的な背景についての基礎的知識を習得。
講義方法	パワーポイントや資料(My Konanにアップロード済)、視聴覚教材などを使用し、講義する。
準備学習	My Konanの講義資料、法史料のダウンロードないしコピーと予習。
成績評価	期末試験の結果によって評価。
講義構成	第1講 序論(過去問を用いた勉強方法の説明、法史学のトピック) 第2講 帝国と領邦国家における裁判所組織の確立 第3講 永久ラント平和令とカロリナ刑事法典 第4講 魔女裁判と刑事法学 第5講 ルネサンスと人文主義法学 第6講 身分制議会と絶対主義国家 第7講 パンデクテンの現代的慣用 第8講 近世自然法論 第9講 プロイセン一般ラント法 第10講 啓蒙主義的法典編纂 第11講 歴史法学派 第12講 パンデクテン法学による法典編纂 第13講 ワイマル期とナチス法学 第14講 「自然法のルネサンス」と現代法学の課題
教科書	特になし。
参考書・資料	勝田有恒・森征一・山内進編著『概説 西洋法制史』ミネルヴァ書房 2004年 黒田著『西欧近世法の基礎構造』晃洋書房 1999年 勝田有恒・山内進編著『近世・近代ヨーロッパの法学者たち』ミネルヴァ書房 2008年 上山編『近代ヨーロッパ法社会史』ミネルヴァ書房 1997年 ネル著・村上訳『ヨーロッパ法史入門』東大出版 1999年 その他、講義の中の個別テーマごとに紹介する。
講義関連事項	講義の冒頭で、前回までの復習と質問への回答、課題設定などを行うので、遅刻しないように。質問や意見はE-Mailでも受付けますが、他の人にも説明できるように、できるだけ講義中のクエスチョン・タイムにしてください。
担当者から一言	さまざまな論文式の試験において十分に実力を発揮できるように、時々、小論文作成練習を行うが、あくまで実力をつけるための自主的練習であって、点数はつかない。

授業コード	41C91		
授業科目名	相続法（1クラス)(後)		
担当者名	金ムンスク(キム ムンスク)		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	水曜2限
特記事項	法学部全学年 出席番号1～210		
オフィスアワー	各回の講義後		

講義の内容	本講義は、民法第5編相続を対象とする講義である。 相続とは自然人の財産法上の地位(または権利義務)を、その者の死後に、法律もしくは死亡者の最終意思の效果として、特定の者に承継させることをいう。当事者(被相続人と相続人)の知・不知にかかわらず法律の規定に基づいて効力を生ずる相続を法定相続(または無遺言相続)といい、遺言という形で表明された被相続人の最終の意思に基づいて行われる相続を遺言による相続という。 講義では、相続制度・遺言制度の概要を理解させることを目的とする。
到達目標	相続法の特徴や仕組みについて理論・裁判例を理解し、具体的な事例を解決できるようにする。
講義方法	基本的には、教科書の内容に沿って、各制度の枠組みやその基本的な考え方を最初に概説し、重要な論点を中心に講義を進める。
準備学習	教科書、レジュメを中心に予習し、具体的な事例・裁判例について検討する。親族法をとる人はこの講義を聞いて

	ておくことが望ましい。
成績評価	定期試験(70%)及び3回提出されたレポート(30%)の内容に応じて評価する。
講義構成	I. 法定相続 1. 相続人 2. 相続財産 3. 単純承認・放棄 4. 相続分 5. 遺産共有 6. 遺産分割 7. 限定承認 8. 財産分離 9. 相続人の不存在 II. 遺言 1. 遺言の方式 2. 遺言による財産処分 3. 遺留分減殺請求権
教科書	千藤ほか『ブリエール民法5 家族法[第2版]』(法律文化社、2005)
参考書・資料	水野紀子・大村敦志・窪田充見編『家族法判例百選[第7版]』(有斐閣、2008) 参考書・資料は、講義中に適宜紹介する。
講義関連事項	六法は必ず持ってくること。

授業コード	41C92		
授業科目名	相続法（2クラス)(後)		
担当者名	辻上佳輝(ツジガミ ヨシテル)		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	月曜2限
特記事項	法学部全学年 出席番号211～最後、法学部以外		

講義の内容	相続法は民法第5編「相続」を主な対象とする分野である。前期開講の「親族法」とあわせて「家族法」をなす分野であり、できるかぎり前期の「親族法」を受講していることが望ましい。 相続法では、その名の通り「相続」に関するルールを学習する。家族の中に死人が出たとき、一般的な家庭であれば、まず通夜・葬儀を済ませ、役所への書類を提出し、ある程度落ち着けば最後に亡くなった家族が持っていた財産の分配のことを考えるはずである。 相続法は、最後の「財産の分配」のことだけを主に学ぶ分野である。 この講義の内容も、一生のうちに何回かは経験する事柄であり(当然、誰も経験したくないが…)、いずれ役に立つことばかりである。
到達目標	相続法のみならず法律学全体の目標であるが、①相続法で使う言葉を理解し、正しく使えるようになること、②相続法や民法が持っている理論を正しく使えるようになること、③法体系の中で今学んでいることがどこに位置するのかを知ること、が究極的な目標である。 相続法では、これに加えて④相続法で最も重視される「平等」の意義を深く知ること、も重要となる。
講義方法	「My Konan」の指定ページにてアップロードする講義レジュメと口述による。
準備学習	この講義では、予習は一切必要でない。最初に講義を聞き、参考書などで補充すること。
成績評価	期末試験の成績による。
講義構成	第1回 ガイダンス・相続法概説・相続法で学ぶこと 第2回 相続人と相続財産1 相続の開始・相続人 第3回 相続人と相続財産2 承認・放棄・相続人不存在 第4～6回 遺産分割・相続回復請求 第7回 限定承認・財産分離 第8～10回 遺言1 遺言の方式・効力 第11回 遺言能力 第12～13回 遺贈・死因贈与 第14～15回 遺留分
教科書	使用せず、詳細なレジュメによる。

参考書・資料	参考書の一覧は、第1回のレジュメに列挙している。 自分にあったものを用いること。
--------	---

授業コード	41086		
授業科目名	知的財産法II (後)		
担当者名	大瀬戸豪志(オオセト タカシ)		
配当年次	3・4年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	月曜4限
オフィスアワー	月曜日昼休み		

講義の内容	映画やコンピュータプログラムの著作物を保護する著作権、機械や医薬品等の発明を保護する特許権、デザインを保護する意匠権、ブランドを保護する商標権等の知的財産権は、現代の企業にとって不可欠の経営資源となっている。今年度の講義では、このような知的財産権のうち、特に著作権を中心として、実際の産業・経済社会におけるその機能の解明に重点を置く(特許権については、次年度に講義する)。
到達目標	著作権法の正確かつ体系的な理解
講義方法	講義ごとに事前に配布する講義要項と教科書に沿った予習を十分にしていることを前提として講義を行う。
準備学習	講義要項と教科書に沿った予習
成績評価	学期末の定期試験(筆記試験)
講義構成	第1講 知的財産法総説 第2講 著作権の客体(1)(著作物の概念) 第3講 著作権の客体(2)(著作物の具体例) 第4講 著作権の主体(著作者・著作権者) 第5講 著作権の内容・効力(1) 第6講 著作権の内容・効力(2) 第7講 著作権の制限(1) 第8講 著作権の制限(2) 第9講 著作権の利用 第10講 著作者人格権の内容・効力 第11講 著作権の侵害と救済手段 第12講 著作者人格権、著作隣接権、実演家人格権の侵害と救済手段 第13講 著作権の国際的保護 第14講 全体のまとめと質疑
教科書	島並・上野・横山編著『著作権法入門』有斐閣、2009

担当者から一言	講義を聴いて、ノートを正確にとること(がきるようになること)が大学で学ぶ最大の意義である。
---------	---

授業コード	41050		
授業科目名	地方自治(地方自治法) (前)		
担当者名	野田 崇(ノダ タカシ)		
配当年次	3・4年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	月曜3限

講義の内容	地方自治法とは、都道府県、市町村といった地方自治体の活動に関する法である。と言っても、例えば、自治体が住民に対して命令・強制を行う場合、国の行政活動と同様のルールに従うのであって、自治体だから特別の扱いを受ける訳ではない。自治体だから特別だと言えるのは、一つには法律と条例の関係など国の諸活動との関係であり、もう一つは、住民訴訟のように自治体に特有の制度である。本講義では、自治体行政に特有の法制度を説明する。
到達目標	地方自治法が定めている地方自治制度の概要を把握する。
講義方法	レジュメを配布し、講義形式にておこなう。適宜教科書の参照を指示する。
準備学習	特に課題等は課さないが、指定した教科書に目を通しておくこと。また、新聞を読み、地方自治制度や地方自治

	体に関する記事があれば、読むようにすること。
成績評価	期末試験による。
講義構成	一回目 地方自治とは何か・日本の地方自治の歴史 二回目 憲法と地方自治 三回目 地方公共団体とは？ 四回目 地方公共団体の事務 五回目 地方公共団体の事務・関与 六回目 地方公共団体の組織(1) 七回目 地方公共団体の組織(2) 八回目 地方公共団体の活動(1) 九回目 地方公共団体の活動(2) 十回目 地方公共団体の活動(3) 十一回目 地方公共団体の財政(1) 十二回目 地方公共団体の財政(2) 十三回目 住民監査請求・住民訴訟(1) 十四回目 住民監査請求・住民訴訟(2)
教科書	宇賀克也『地方自治法概説〔第二版〕』(有斐閣・2007年)
講義関連事項	小型六法を持参すること。

授業コード	41029		
授業科目名	中南米地域研究（後）		
担当者名	田沼幸子（タヌマ サチコ）		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	月曜3限

講義の内容	中南米地域に関する歴史、地理、文化について学ぶ。これらは静的で不変なものではなく、現代のグローバルな社会を形作ってきた世界システムの形成と深く関わっている。同時に、その形成に対応した各地域、文化独自の発展のあり方に注目する。
到達目標	中南米地域の地理・歴史・文化の概要に関する知識を身につける。
講義方法	各回ごとにフォーカスした地域・テーマに関して講義する。
準備学習	少なくとも中南米のうち5カ国の名前と位置を覚える。 中南米で制作された映画を一本観る。
成績評価	各講義ごとのリアクションペーパー、中間試験、期末試験の結果を総合して判断する
講義構成	1～4回 地理および先コロンブス期の歴史 5～8回 大航海時代および植民地期の歴史 9～12回 近代史 13～15回 現代史
教科書	なし
参考書・資料	毎回、関連資料を用いたレジュメを配布する

担当者から一言	中南米についてほとんど知識がなくても、関心がなくてもかまいませんが、講義を聞き、自分なりに考え、書くことを通じて、受け売りではない知識を身につけようとする意欲があることを期待します。大幅な遅刻をしたり、周囲に迷惑な私語をする者は退席してもらいます。出席率が悪い者は成績をつけませんので、履修しないでください。
---------	--

授業コード	41J31		
授業科目名	特講I(法律学特別講義)(1クラス)(前)		
担当者名	野口善國(ノグチ ヨシクニ)、伊藤信二(イトウ シンジ)、中山 高(ナカヤマ タカシ)		
配当年次	2年次	単位数	2

開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	火曜4限
講義の内容	「あなたも付添人、調査官」 少年事件の特質、少年処遇の基本、少年法「改正」問題等を主な内容とする。 単に、一方的に知識を与えるのではなく、現実の事例を元に、自分が付添人（付添人）、調査官、裁判官ならどう対応するかを自分の頭で考える。 民事または家事の具体的事例を題材にします。題材となった事例について、当事者から法律相談を受けた場合を仮定し、解決手段の選択、解決に向けての注意点を検討します。具体的には、 ①当該事例にどのような法律上の問題点が存するか ②法律上の問題点について、どのような主張及び反論が可能か ③主張及び反論を裏付ける証拠としてはどのようなものが考えられるか ④相応しい紛争解決手段にはどのようなものがあるかについて検討します。特別の法的知識は不要ですが、講義で検討する事例について、上記①ないし④を自分の頭で考えながら授業にのぞんで欲しいと思います。（伊藤）		
到達目標	1 少年の可塑性について知識の上だけでなく、感情的にも実感する。 2 現実の少年非行の手の流れを理解する。 3 自分の将来の職業の中で、少年非行にどう取り組むかイメージを持ち、職業へのモチベーションを高める。 民事（家事）に関する権利関係の捉え方、権利関係の実現手続について、実務的なイメージが掴めるようになることを目的とします。（伊藤）		
講義方法	毎時間、前半が講義（事案の説明など）、後半がそれぞれ自分の選択した職業の立場で意見を述べ、討論する。 講義の前半では、ビデオなどの視聴覚教材を利用して、民事（家事）事件の実務に関する説明を行います。後半では、民事（家事）の具体的事例を題材にして、当事者から相談を受けた場合の対応及び検討すべき点の解説を実務的観点から行います。六法全書を持参することが必要です。（伊藤）		
準備学習	特に必要ないが、教科書に眼を通しておけば効果的 特に必要ありません。（伊藤）		
成績評価	1 平常の意見発表の内容を50％ 2 定期試験（論述テスト）を50％で評価する。 期末の筆記試験の点数で評価します。（伊藤）		
講義構成	1 少年事件の特質と少年事件手続 2～4 事例討議 5 （1）少年非行をどう解決すべきか－全般的討論 （2）何を学んだか－反省会 6～9 民事（家事）の具体的事例に即して実務上の問題を検討します。（伊藤）		
教科書	歌を忘れたカナリヤたち 特にありません。講義で取り上げる事例についてはレジュメを配布します。（伊藤）		
参考書・資料	家庭の愛をください 親をせめるな 特にありません。（伊藤）		
担当者から一言	将来、自分が少年問題に直面した時、あなたはどのようにするかを一緒に考えましょう。 法律実務に興味をもつ学生の受講を希望します。（伊藤）		

授業コード	41J32
授業科目名	特講I(法律学特別講義)(2クラス)(後)
担当者名	中島健治(ナカジマ ケンジ)、石井龍一(イシイ リュウイチ)、鴫田香織(トキタ カオリ)

配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	火曜4限
特記事項	My KONANで先着順20名		
講義の内容	各回、特定のテーマをとりあげ、事件の体験等をまじえてお話をする。(鴫田) 1、今日の貧困問題を考える～私が弁護士になった頃のこと 2、セクシャル・ハラスメントをなくすために 3、命を守る 4、DVとストーカーの話 5、行政と市民と司法 弁護士が日頃どのような業務をしているかの理解を深めるべく、民事・刑事・家事の具体的事例を題材に、受任から事件終了までのプロセスを紹介しつつ、各段階で生じる問題点についてディスカッションを通じて検討する。民法・刑法の基礎知識があれば足りる。できるだけ身近な題材を取り上げ、自分が弁護士ならどうするかを自分の頭で考え随時意見を述べてもらう。(石井) 法曹になるための条件、勉強方法について検討する。 ロースクール入試(適性試験を含む)、ロースクールでの授業の内容、新司法試験の内容についても実際の問題を示しつつ、それぞれに対応するために必要な能力、勉強方法について検討する。 また、ロースクールでの学習、新司法試験のための学習が実務にどのように役に立つかについても検討してみたい。(中島)		
到達目標	弁護士の公益性を理解する。(鴫田) 弁護士の業務内容、社会的意義・役割を理解する。(石井) 法曹になるための方法、身につけるべき能力を理解する。(中島)		
講義方法	講義形式(鴫田) 民事・刑事・家事の具体的事例をレジュメで配布し、解説する。事例の中で生じる問題点について学生に意見を述べてもらい適宜ディスカッションする。(石井) 講義が中心にはなるが、適宜学生にも意見を述べてもらう機会を与え、ディスカッションも行なう。また、ロースクール入試や新司法試験を模した問題を講義の場で検討することも考えている。(中島)		
準備学習	特になし。(鴫田) 特になし。(石井) 特になし。 新司法試験の問題の検討も行なうが、どういう問題が出されているか知ることが目的なのでそれを解けることまでは求めている。 民法、刑法の基礎程度の学力があれば望ましい。(中島)		
成績評価	期末試験による。 (各教員が1問ずつ作成する問題から1問選択して回答)		
講義構成	講義の内容記載の通り(鴫田) 第6回～第10回 上記「講義の内容」に即して構成する。各回1事例又は2回で1事例を取り上げる。(石井) 第11回～第14回 上記「講義の内容」に即して構成する。第11回は法曹になるためのルート等についての説明を行なう。第12回以降は、ロースクール入試、新司法試験等の問題の検討も行なう。		
教科書	特になし。		
担当者から一言	弁護士の社会で果たす様々な役割を理解してもらえれば幸いです。(鴫田) 特に3年生の積極的な履修を期待します。(中島)		

授業コード	41096		
授業科目名	特講II(政治学特別講義)(後)		
担当者名	久米郁男(クメ イクオ)		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	火曜3限

講義の内容	新聞やテレビでは、世界中の様々なニュースが報道される。そこでは、国ごとに政治や経済、社会現象がずいぶん異なっているという印象を受けるだろう。しかし、国ごとに違いがあるかどうか、さらにどうして違いが生じるかを理解するためには、しっかりとした方法論を身につける必要がある。この講義では、比較政治的な分析をする上で必要な方法論を、日常での出来事(たとえば、身長が高いと収入が増えるのか?)から比較政治のテーマ(たとえば、民主主義になると戦争はしなくなるのか?)まで幅広い題材を用いて具体的に学んでいく。その際に、講義参加者を少人数のグループに分けて、グループワークを行ったり、プレゼンテーションやディベートを行いつつ方法論を身につけていくようにする。
到達目標	因果関係の推論の方法を身につける。
講義方法	この講義では、グループディスカッション、プレゼンテーション、ディベートなどを取り入れて、全員参加型の講義を行う。
準備学習	特に必要ない。
成績評価	講義への参加、講義中に課す課題によって評価する。 出席状況は、毎回、参加者に発言を求めながら確認する。なお、3回以上欠席がある場合は、単位は与えないので出席がしっかりできる人のみ受講してください。
講義構成	以下11のテーマを扱う。 (1) 社会科学的思想とは何か: 具体例で考えよう。 * 高根正昭『創造の方法学』講談社現代新書、第2章 * 増山幹高『計量政治分析入門』東大出版会、第1章 (2) 事実を知る記述的推論: 官僚が強いってどうやって分かるの * 高根、第3章 * 久米郁男他『政治学』有斐閣、第12章 * 佐藤信『推計学のすすめ』講談社ブルーバックス、第1章 * キング・コヘイン・ヴァーバ(以下ではKKVと略す)『社会科学のリサーチデザイン』勁草書房、第2章 (3) 原因を探る因果的推論: 少子化対策で子供の数を増やす方法って * 高根、第4章 * KKV、第3章 * 赤川学『子どもが減って何が悪い?』ちくま新書 (4) 「物差しを作る」操作化を考えよう: 首相のリーダーシップをどう測る * 高根、第3章 * 久米他『政治学』第11章2 (5) 観察と仮説演繹法: 「民主的平和論」を手がかりに * 戸田山和久『科学哲学の冒険』NHKブックス、第2章 * 久米他『政治学』第8章 (6) 啓蒙主義と実証: 日本はどのように論じられてきたか * 久米他『政治学』第11章1 * 丸山真男『現代政治の思想と行動』(未来社)1章。 (7) 文化論批判と反証可能性: 文化の違いで説明して大丈夫? * KKV、第5章4 * 大嶽秀夫『戦後政治と政治学』(東大出版会)2章 * Steven Reed, Making Common Sense of Japan, Pittsburgh University Press, 1993, chap2 (8) 因果関係推論の技法: 原因を発見しよう * 高根、第3章・6章 * KKV、第3章 (9) 比較分析の手法: 福祉国家はどうやって生まれるの * 高根、第6章

	* 河野勝編『アクセス比較政治学』日本経済評論社、第1章 (10) 事例の選択: アジアの経済発展を手がかりに * KKV, 第4章 ・クルーグマン「アジアの奇跡という幻想」『良い経済学悪い経済学』所収 ・Barbara Geddes, Paradigms and Sandcastles, Michigan UP, chapter 2. (11) 演繹と帰納、そして帰納の復権 * 戸田山和久『科学哲学の冒険』第3章・4章
教科書	高根正昭『創造の方法学』講談社現代新書
担当者から一言	参加型の授業です。どんどんあてますので、積極的に答えるようにしてください。
URL	http://www.geocities.jp/kumeikuo/

授業コード	41098		
授業科目名	特講Ⅲ（前）		
担当者名	金ムンスク(キム ムンスク)		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	金曜2限
オフィスアワー	各回の講義後		

講義の内容	経済のグローバル化が進行している状況の下、国際取引の内容はますます多様になっているし、近年では電子商取引も急速に発達しつつある。 本講義は物品の国際売買を中心とした貿易取引の基本的な仕組みと国際紛争解決の方法について考える機会を与えるとともに、国際取引法の法律関係の理解を目的とする。
到達目標	とくに契約分野において国内法・国際条約の比較を行い、基本的な知識を深め、国際物品売買に関する理論・仕組みを理解できるようにする。
講義方法	教科書を中心に講義を進めるが、適時、裁判例及び関連資料を配布する。
準備学習	教科書、レジュメを中心に予習し、具体的な事例・裁判例について検討する。契約法の知識を必要としているため、契約法または国際私法を修得していることが望ましい。
成績評価	定期試験(70%)及び3回提出されたレポート(30%)の内容に応じて評価する。
講義構成	1. 国際取引に適用される法 2. 国際取引の当事者 (1)個人 (2)法人 (3)国家及び国家機関 3. 国際的な物品の売買 (1)国際売買契約 (2)国際物品運送 (3)国際貨物保険 (4)国際的な代金の決済 (5)製造物責任 4. 国際取引紛争の解決 (1)国際民事訴訟 ①国際裁判管轄権 ②外国判決の承認および執行 (2)国際商事仲裁 5. 国際倒産
教科書	山田鐸一・佐野寛『国際取引法[第3版補訂第2版]』(有斐閣、2009)
参考書・資料	適宜、関連資料を配布する。
講義関連事項	六法は必ず持ってくること。

授業コード	41099		
授業科目名	特講Ⅳ（後）		
担当者名	石田信義（イシダ ノブヨシ）		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	月曜3限

講義の内容	現代世界においては北半球と南半球の政治経済の関係性が益々緊密化しており、地理的に日本と地球の反対側の位置にあるブラジルは、今日、ラテンアメリカ諸国の中で目覚ましい発展可能性が論じられている。また、日本からブラジルへの移民がスタートしてすでに100年を経たことで知られるように、ブラジルと日本との歴史的な関係性も深い。そこで本講義では、ラテンアメリカ、主にブラジルの政治経済の実態に関し、植民地期、独立期、そして国内統合化・開発を経て今日に至る政治・経済・社会・文化の諸相を総合的に理解することによってその実像を捉え、我が国の歩みとの関連性をも見ていくことによって、異なる文化地域の発展過程の独自性と世界的複合化に対する分析視点を養う。
到達目標	政治経済の実態を理解するために、対象地域の現在面に関する知識のみに留まることなく、比較の視座に基づいて物事の「源流」を総合的に辿る歴史的視野をもつ。
講義方法	講義では、資料配布等によりラテンアメリカの自然と人、政治経済及び社会・文化に関する基礎情報を最初に伝える。また、ビデオ等を見ることによってイメージ作りを助ける。授業は講義形式で進行し、歴史に関する方法論の説明を出発点として、政治経済の変化過程を時間を追って説明していく。学生個々人に対しては、対象地域に関する日頃の関心事についての率直な意見や報告を求める。必要と思われる文献・情報等は受講生に紹介し、またディスカッションを行う。
準備学習	学習の対象地域をラテンアメリカ、あるいはブラジルにのみ限定することなく、日頃の時事的な問題について広く関心を寄せておくこと。また、地図や歴史の教科書等を振り返ることによって、世界の地理的、歴史的な広がりイメージをしてみる。
成績評価	定期試験（70%）、出席日数及び発言等の積極性（30%）に基づいて総合評価する。但し、3分の2以上授業に出席しなければ成績を評価しない。
講義構成	第1回 比較文化の視点－歴史とは何か 第2回 ラテンアメリカ文化の枠組み－イベリア文化の積層 第3回 ブラジルの自然と人 第4回 統一性と多様性 第5回 植民地時代－熱帯農業基盤 第6回 社会文化的基層の形成 第7回 独立（1822年）と共和改革（1889年） 第8回 1900年代初期の政治的統合化 第9回 1945年～70年代の経済的統合化と軍事政権 第10回 1980年代の民政移管 第11回 1990年代以降の対外関係の多角化 第12回 政治的民主化過程と課題 第13回 ブラジルと日本 第14回 ブラジルにおける日系人社会 第15回 日系人の労働移動と今日（まとめ）
教科書	授業の進行に合わせて、適時主要参考文献を紹介する。
参考書・資料	E.H.カー[著]・清水幾太郎[訳]『歴史とは何か』（岩波新書）2003年第68刷発行 和辻哲郎[著]『風土』（岩波文庫）2002年第42刷発行 井上幸治[編]『南欧史』（山川出版）1997年第3刷発行 国本伊代・中川文彦[編]『ラテンアメリカ研究への招待』（新評論）1997年 富野幹雄・住田育法[編]『ブラジル学を学ぶ人のために』（世界思想社）2002年 堀坂浩太郎[編]『ブラジル新時代』（勁草書房）2004年 ブラジル日本商工会議所[編]『現代ブラジル事典』（新評論）2005年 シッコ・アレンカール、ルシア・カルビ、マルクス・ヴェニシオ・リベイロ[著]・東昭彦他[訳]『ブラジルの歴史』（世界の教科書シリーズ7）（明石書店）2007年

授業コード	41K01
-------	-------

授業科目名	2年次演習(2年次特講)(1クラス)(後)		
担当者名	高野清弘(タカノ キヨヒロ)		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	月曜4限
特記事項	[思想史] My KONANで先着順20名		
オフィスアワー	金曜日3時～4時		

講義の内容	本を読むこと、考えることの楽しさを学生諸君とともしたい。私も含め、今の人たちは「本当のもの」を知らないという気持ちがしてならない。本を読み、考えることを通じて、「本当のもの」の一端に触れたい。
到達目標	古代ローマの歴史を通じて、あるべき政治の姿を垣間見る。
講義方法	塩野七生『ローマ人の物語』のうち、ハンニバルまたはカエサルを読む。この本は面白くて、ためになる。つまり、現代の政治を考える上でのヒント、さらには、日常生活で各人がとるべき行動についての指針を与えてくれる本である。毎回、レポーターを決めて、その報告を出発点に、全員でわいわい話し合いたい。その前提は、全員が本を読んでくることであるので、読んでこない学生、本を持ってこない学生、筆記用具を机の上においていない学生には、厳しい指導を行う。『ローマ人の物語』は、長いローマの歴史を扱っているため、30巻を越えている。授業で取り上げるのはその一部でしかない。したがって、その他の巻のうち、各人が興味を持った巻について、レポートを課すことも予定している。なお、これとは別に、何からでも政治は学べるという視点から、劇映画を課題として課すことや、授業の中で取り上げることも考えている。
準備学習	その週取り上げる箇所を読んでくること。必ず質問を提起できるように読んでくることを求める。やむを得ず欠席した場合は、欠席した授業において取り上げた箇所を読んでくることが必須である。
成績評価	平常点。事前連絡なく3回以上欠席した場合は、単位を認めない。予習などの準備をせずに出席した場合は、欠席とみなし、同じくそれが3回以上に及ぶ場合には、単位を認めない。また、さまざまな形で課題を課すので、それも評価の対象とする。
講義構成	講義ではないので、記すことを得ない。
教科書	塩野七生『ローマ人の物語』(新潮文庫)、ハンニバルまたはカエサルを読む。
参考書・資料	高野清弘『政治と宗教のはざまで』(行路社)

担当者から一言	なるべく楽しく討論したいと思っています。上記のように、時には、ビデオなども討論の材料にしたいと考えています。下記のホームページでもできれば見てほしい。
ホームページタイトル	丸山眞男を読む会
URL	http://www.osipp.osaka-u.ac.jp/yomukai/

授業コード	41K02		
授業科目名	2年次演習(2年次特講)(2クラス)(前)		
担当者名	前嶋京子(マエシマ キョウコ)		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	月曜3限
特記事項	[私法系] My KONANで先着順20名		
オフィスアワー	木曜日3時限。その他必要があるときには、アポイントをとること。		

講義の内容	商法Ⅰの講義で詳しく扱うことができない会社法の論点を取り上げて検討する。 演習形式での授業であるので、報告テーマを割り当てられた報告者が調べてきたことを報告し、それについて皆で議論をしていくことになる。 報告のテーマとする論点は、会社法上の基礎的なものをであり、その論点についての学説や判例を、報告者を中心に整理をすることで、会社法の理解を深めていくことにする。また、会社法上有名な判決も時間の許す限り読んでいきたいと思っている。
到達目標	会社法に関する論点についての学説・判例を検討することで、会社法に関する理解を深めるとともに、法解釈のスキルを身につけることを目標とする。
講義方法	演習方式で行う。 報告担当者を決め、その者が与えられた論点に関連する学説・判例を調べ、報告をする。その報告をもとに、担当者以外の者も加わって、皆で検討していく。

準備学習	商法Ⅰの授業で詳しく扱えない会社法の論点についての学説・判例を検討していく関係上、商法Ⅰの授業を必ず受講すること。 なお、報告者以外も、報告予定のテーマについて、予め学習しておくことが望ましい。
成績評価	平常点にレポートの成績を加味して評価する。 平常点は、出席率・報告の内容・議論への参加の積極性等の内容を吟味して評価する。
講義構成	1. 自己紹介と授業のすすめ方の説明 2. 授業をすすめる上で必要な基礎知識等の確認・報告担当の割当 3. 報告者による論点についての報告と検討及び論点に関する判決紹介の報告 4. レポートの書き方の説明(報告の合間の適当な時期に行う) 5. 報告者による論点についての報告と検討及び論点に関する判決紹介の報告の続き 6. レポートの提出
教科書	特に使用しない(報告準備のために必要な文献等の紹介・指示は適宜行う)。
参考書・資料	必要に応じて紹介するが、一般的な予習のための参考書としては、江頭憲治郎等編『会社法判例百選(別冊ジュリストNo.180)』(有斐閣・2006年)や浜田道代等編『会社法の争点』(有斐閣・2009年)を、あげることができる。
講義関連事項	商法Ⅰの授業を必ず受講すること。
担当者から一言	授業の性質上、出席を重視する。報告担当になっていなくても、積極的に質問や意見発表をするなど、学生諸君の積極的取組を期待する。
その他	六法必携。六法については最新版(平成22年版)を用意すること。

授業コード	41K03		
授業科目名	2年次演習(2年次特講)(3クラス)(後)		
担当者名	桑岡和久(クワオカ カズヒサ)		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	月曜4限
特記事項	[私法系] My KONANで先着順20名		
オフィスアワー	演習終了後		

講義の内容	敷金返還に関する契約問題など民法に関連する領域の中からテーマを絞って少し立ち入って考えてみることを内容としています。
到達目標	民法分野について講義で学んだ知識を確認し、また講義よりももう一歩踏み込んで理解することを目的とします。
講義方法	比較的簡単な事例を解決することからはじめて、実際の判例を調べるなどした上で、発表や討論を通じて自らの理解の確認・促進をはかります
準備学習	テーマごとの資料の探索と精読。
成績評価	主な評価対象は報告や討論での発言です。正解が求められているわけではありませんので、発言内容が間違っているても減点されることはありません。
講義構成	第一回 ガイダンス 第二回以降 各テーマを報告・討論、裁判型ディベートなどの形式でおこなう
教科書	テーマや形式に応じてこちらから指定します
講義関連事項	六法を持参してください
担当者から一言	最初から完璧な報告・発言をするのは困難です。間違いから学んでいくことが大事ですので、失敗を恐れず積極的に挑戦してみてください。

授業コード	41K04
授業科目名	2年次演習(2年次特講)(4クラス)(後)
担当者名	武井 寛(タケイ ヒロシ)

配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	火曜2限
特記事項	[私法系] My KONANで先着順20名		
オフィスアワー	水曜4限		

講義の内容	法律学を学んでいながら、裁判例をきちんと読まずに卒業する人がいる(少なくとも私の経験上そのような人がいました)とすれば、それは寂しいことです。ということで、この講義では、労働法に関する基本的で重要ないくつかの判例について、最初から最後まで(当事者の主張から判決理由まで、そして地裁判決から最高裁判決まで)しっかりと読むことを目的にしたいと思っています。
到達目標	生の裁判例を抵抗なく読み、理解できる基礎的能力を身につける。
講義方法	演習形式で行います。具体的には、何人かのグループ(受講者の数により変動します)に分け、グループごとに、割り当てられた判例について、事実関係、当事者の主張、判決理由、その判決が教科書等ではどのように触れられているのか、自分たちはどのように思うか等をレジュメにまとめ、報告してもらい、その報告に基づいて全員で議論するかたちで行っていきます。
準備学習	少なくとも、配布された判例について(かなりの分量になることもありますが、この点、あらかじめ認識しておいてください)、全員が読んでくること。
成績評価	出席と授業への取り組みの積極性・報告の内容等によって総合評価します。10回以上授業に出席しなければ、成績を評価しません。
講義構成	第1回 授業のガイダンス、グループ分け、判例の割当 第2回以降 報告と討論
教科書	授業の性格上、ありません。
参考書・資料	必要に応じて適宜指示します。
担当者から一言	巷間、裁判所の判決文は、そのわかりにくさで批判されることもあり、それを読み通すのはしんどい作業になるかもしれません。でも、終わった後はなにか残るはずだと思います。

授業コード	41K05		
授業科目名	2年次演習(2年次特講)(5クラス)(集中)		
担当者名	中西淑美(ナカニシ トシミ)		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期(集中講義)、後期(集中講義)
特記事項	[基礎法系] My KONANで先着順18名 8月2日、3日、4日		

講義の内容	紛争処理制度と聞くとすぐに裁判を思い浮かべるかもしれないが、裁判以外にも仲裁や調停をはじめとするさまざまな制度がある。ADRと呼ばれるこれら裁判外紛争処理制度に対する関心や利用の高まりとともに、弁護士や調停者等に期待される役割や当事者との関わり方も大きく変化してきている。 クライアントが抱える紛争は、言うまでもなく法的側面のみでなく、社会的、関係的、情緒的次元をも含む複合的なものである。実務の現場で弁護士に要請されるのは、こうした紛争の構造を把握しながら、法的対応を創案していくことにある。その準備作業として、ここでは紛争の構造と展開について学際的な視点から理論的理解を深めていく。 次に、紛争交渉コミュニケーション理論として、弁護士にとってもとりわけ重要なクライアントとのコミュニケーションについて、心理学やカウンセリングの理論を参考にしながら、クライアントとの面談の構造についても検討する。最後に、紛争交渉コミュニケーション技法として、マイクロ・カウンセリングの技法を応用しつつ、その基礎として、適切なクライアントとのコミュニケーションの技法を紹介する。本授業は、クライアントとの効果的な関係構築と情報収集がなされたうえで、「交渉論」「紛争処理論」などを参考に、学際的な視点から紛争解決実務の複合的技法への理論的、技法的理解を深めていこうとするものである。 本授業は、学際的な視点から紛争解決実務の複合的技法への理論的、技法的理解を深めていこうとするものである。クライアントが抱える紛争は、言うまでもなく法的側面のみでなく、社会的、関係的、情緒的次元をも含む複合的なものである。
到達目標	紛争解決過程において、重要なクライアントとのコミュニケーション理論と技法について、心理学やカウンセリングの理論を参考に、クライアントとの面談の構造、紛争交渉コミュニケーション技法の一部を習得することを目標とする。 具体的には、①コンフリクトとは何か、②紛争における紛争構造モデルを知る、③メディエーション概念について

	知る、以上3項目を目標とする。
講義方法	少人数(24人以内)の演習形式で進める。毎回、予習を前提に、受講者によるミニプレゼンテーションを行ってもらい、それを素材にディスカッションを行う。適宜、スキルプレイ、ロールプレイを実施する。資料はパワーポイントで提示し、レジメの印刷・配布は行わない。
準備学習	和田 仁孝編 有斐閣「ADR 理論と実践」(第9章担当 中西) 2008 和田仁孝、中西淑美、「医療コンフリクトマネジメントーメディエーションの理論と実践」シーニュ社2006
成績評価	成績評価は、平常点と期末試験点の総合点とする。
講義構成	おおむね以下の内容で講義する予定。 1. ガイダンス 2. 紛争の構造と展開 3. 裁判とADR(裁判外の紛争処理) 4. コミュニケーションとしての紛争 5. 紛争交渉コミュニケーション理論 6. 面談(リーガルカウンセリング) 7. リーガルカウンセリング演習 8. 支援環境としての紛争処理システム～対話促進調停Mediation 9. 紛争交渉コミュニケーション技法:基礎編 10. Mediation演習(近隣紛争) 11. Mediation演習(近隣紛争) 12. 紛争交渉コミュニケーション技法:応用編 13. Mediation演習(近隣紛争) 14. Mediation演習(医療紛争) 15. 試験
教科書	特に使用しない。
参考書・資料	和田仁孝『民事紛争処理論』(信山社、1994) 和田仁孝・太田勝造・阿部昌樹編『交渉と紛争処理』(日本評論社、2002) 和田仁孝・太田勝造・阿部昌樹編『法と社会のアプローチ』(日本評論社、2004) 中村芳彦・和田仁孝『リーガルカウンセリングの技法』(法律文化社、2006) 和田仁孝『ADR 理論と実践』(有斐閣2008) アレン・アイビー『マイクロカウンセリング』(川島書店、1985) 鈴木有香『人と組織を強くする交渉力』自由国民社 2009) その他、講義の中で適宜紹介する。
講義関連事項	日本医療メディエーター協会(JAHM)ホームページ http://jahm.org/index.htm
担当者から一言	教室での私語・携帯電話等、他の受講者の妨げになるような行為があれば即時退室してもらう。演習の都合上、欠席は原則として認めない。

授業コード	41K06		
授業科目名	2年次演習(2年次特講)(6クラス)(後)		
担当者名	住本正樹(スミモト マサキ)、宮家史子(ミヤケ フミコ)、河野茂博(コウノ シゲヒロ)、岡地勇一(オカチ ユウイチ)		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	水曜4限
特記事項	[民事法系] 担当者:司法書士 My KONANで先着順20名		
講義の内容	兵庫県司法書士会に属する司法書士が、その実務経験に基づき、実際に生起する不動産登記・商業登記・裁判手続(消費者問題を中心)・成年後見業務に関する手続について解説するとともに、具体的事例を題材に講義をすすめる。実務現場では、何に注意を払って手続を遂行しているかを講義し、手続法と実体法とのかかわりを感じ得てもらうことを主題としている。なお、担当は次のとおり。 不動産登記 河野茂博(こうの しげひろ) 商業登記 住本正樹(すみもと まさき) 裁判事務 岡地勇一(おかち ゆういち) 成年後見 宮家史子(みやけ ふみこ)		
到達目標	民法(特に物権、親族・相続)、会社法(株式会社)等の実体法を勉強すること。司法書士の資格、職業について		

	調べること。
講義方法	通常の講義形態。必要によって発言を求めることがあり、できるだけ質問の時間をとる。
準備学習	司法書士が、どのように法律に携わっているか、また、社会の中で法律はどのような場面で利用されているのかを考えてもらいたい。
成績評価	レポート及び授業への寄与度を総合的に判断する。
講義構成	1. はじめに 司法書士業務について 2. 消費者問題入門(1) 3. 消費者問題入門(2) 4. 多重債務問題と司法書士(1) 5. 多重債務問題と司法書士(2) 6. 不動産登記法入門 7. 不動産取引と不動産登記(1) 8. 不動産取引と不動産登記(2) 9. 会社法と商業登記(司法書士の役割) 10. 商業登記入門(1) 11. 商業登記入門(2) 12. 家庭裁判所(家事事件)について、法定後見(総論) 13. 法定後見(各論) 14. 任意後見、遺言等 まとめ
教科書	各講師がレジュメを用意する。
参考書・資料	六法(講義には必ず持参して下さい)

担当者から一言	日常生活における身近な消費者問題、多重債務問題について、司法書士が取り扱う具体的事例を紹介しながら、問題解決の方法など理解してもらいたいと考えています。(岡地) 司法書士が日常多く取り扱う具体的な事例を通して、司法書士の業務及び不動産登記について伝えたいと考えています。(河野) 会社法務の実務について、自分の頭で考えてみたいと思っている学生の受講を希望します。(住本) 急激に進む高齢化に伴い、今後確実に利用が増える成年後見制度について具体的事例を紹介することで、成年後見制度を理解し、興味をもってもらいたいと考えています。そして、将来的に(司法書士になるか否か)を問わず身内の案件であってもいいので成年後見に携わってもらえれば大変うれしく思います。(宮家)
---------	--

授業コード	41K07		
授業科目名	2年次演習(2年次特講)(7クラス)(前)		
担当者名	濱谷和生(ハマタニ カズオ)		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	火曜2限
特記事項	[公法・私法・刑事法] 担当者:ロースクール教員・弁護士 My KONANで先着順30名		
オフィスアワー	原則火曜日の昼、しかし在室している限りいつでもドアをノックして下さい。		

講義の内容	本講義は、将来、ロースクール進学(つまり司法試験受験)および国家・地方公務員試験ならびに司法書士・行政書士等の各種国家資格試験等をを目指す学生諸君を対象にして、さしあたり過去の各種試験問題等を利用して(担当者において講義進行上、その水準は適宜修正する)、2年次段階において受験準備をするために必要な学力形成という視点から、主として憲民刑の法律知識の整理および学習の仕方や姿勢ならびに学習上のTIPsの伝達を目的とする。
到達目標	国Ⅱ程度の水準の問題に、自ら進んで取り組むことのできる態度と能力を涵養する。
講義方法	事前に配布する問題を前提に、各参加者の予習および知識の確認をかねて簡単な問題解説(各参加者への質問等を含む)を施した後、各自に事前に準備してもらった起案の報告をお願いする。最後の20分程度を使って、次の問題の簡単な説明を行う。
準備学習	憲法・民法・刑法について、講義が始まるまでの期間に、何でもよいのでごく簡単な入門書(一年の時に利用した教科書でかまいません)を、一週間ほどで集中して、必ず読んでおいてください。きっと力になると思います。
成績評価	数回実施する予定の小テストの成績による。
講義構成	第1回 オリエンテーリングと資料配付 第2回 憲法第1問 第3回 憲法第2問

	第4回 憲法の小テスト 第5回 民法第1問 第6回 民法第2問 第7回 商法 第8回 民事法の小テスト 第9回 刑法第1問 第10回 刑法第2問 第11回 刑法の小テスト 第12回 民事訴訟法 第13回 刑事訴訟法 第14回 予備日(質問日)
教科書	特に使用しない。
参考書・資料	適宜、講義の場で指示し、My Konan のウェブ上で配布することを原則とする。
講義関連事項	受験には抜け道や簡単なショートカットはありません。まんべんなく憲民刑を丁寧に勉強することこそが王道だと思います。また、しかし他面、それさえするのならば、栄冠への道は誰に対しても等しく開かれています。「どうせ甲南だから受験なんて無理だ」などということも絶対ないのです。受験への向き不向きを別にすれば、要は、やる気と根気だけです。自分を過小評価することなく、あるいは本学の教育体制に対し文句だけ言ってまともな勉強もしないでいる前に、自分のできることを精一杯やりましょう。そんなガッツのある受講者を全力で応援します。
担当者から一言	実は担当者も、学生時代に司法試験を受けたわけではありません。どちらかというと学業成績は悪かったと思います。そんなわけで、できない学生諸君の立場に立って、いわば一緒に過去問に取り組みたいと思います。担当者にとっても専門でない分野ばかりです(担当者は経済法専攻)ので、もちろん講義と解説の品質管理はしっかり致します(一応弁護士登録しています)が、やる気のある学生諸君との知的バトルを楽しみにしています。
ホームページタイトル	「2年次特講(8クラス)(前)」ホームページ、 www.syllabus.konan-u.ac.jp/customer/01/index.jsp?toc=4031

授業コード	41K08		
授業科目名	2年次演習(2年次特講)(8クラス)(前)		
担当者名	小舟 賢(コブネ マサル)		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	火曜2限
特記事項	[公法系] 担当者:ロースクール教員 My KONANで先着順20名		
オフィスアワー	火曜の昼休み		

講義の内容	この授業においては、新聞記事などを素材として、社会問題を読み解きながら、私たちの生活における法律との関係を考えます。
到達目標	社会と法律との関係を意識しながら、新聞記事の内容などを理解することができる。
講義方法	(1)指定された新聞記事などを受講生で輪読したうえで、まずは各自が自力でその内容をノートにまとめる作業を行います。そして質問項目に答える形で、その内容を十分理解しているか、あるいはどこの部分があまり理解できていないのかを確認します。(あまり理解できていなかったところも含めて、質問項目に対する回答を次の授業までに各自が調査を行ってレポートにまとめます。) (2)前回の授業における質問項目について、レポートをもとに回答を求めます。その後、肯定派、否定派、審判に分かれて、ディベートを行います。(肯定派と否定派の各グループは、予め第一立論を準備してレジュメを用意します。) その他、授業にて指示した準備学習をすること。
準備学習	日頃から新聞を読み、社会と法律との関係を意識すること。 講義資料等を予め読んでおき、分からないことがあれば予め調べておくこと。 その他、授業にて指示した準備学習をすること。
成績評価	出席点(28%)、授業点(36%)、期末レポート点(36%)で評価する。 ただし、無断欠席が3回以上あった場合は成績評価しない。
講義構成	1. 初回ガイダンス 2～13. 偶数回: 新聞記事の輪読、ノート作成、質問項目の検討 奇数回: 調査レポートの報告、ディベート 14. (日程調整日)

教科書	教科書は指定しない。配付資料と法令集を必ず持参すること。
参考書・資料	授業において適宜指示する。
担当者から一言	社会問題について関心のある学生、3年次でのゼミ履修を考えている学生に対して、特に受講を勧めます。 1年次での法律の授業にあまりついてこれなかった学生、法律に苦手意識のある学生でも、授業に積極的に参加する意志のある方であれば大いに歓迎します。
その他	やむを得ず授業を欠席する場合は、必ず事前に担当者に連絡すること。 ただし、緊急を要する場合は、事後の連絡でもよいものとする。

授業コード	41K09		
授業科目名	2年次演習(2年次特講)(9クラス)(後)		
担当者名	小舟 賢(コブネ マサル)		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	火曜3限
特記事項	[公法系] 担当者:ロースクール教員 My KONANで先着順20名		
オフィスアワー	火曜の昼休み		

講義の内容	この授業においては、新聞記事などを素材として、社会問題を読み解きながら、私たちの生活における法律との関係を考えます。
到達目標	社会と法律との関係を意識しながら、新聞記事の内容などを理解することができる。
講義方法	(1)指定された新聞記事などを受講生で輪読したうえで、まずは各自が自力でその内容をノートにまとめる作業を行います。そして質問項目に答える形で、その内容を十分理解しているか、あるいはどここの部分があまり理解できていないのかを確認します。(あまり理解できていなかったところも含めて、質問項目に対する回答を次の授業までに各自が調査を行ってレポートにまとめます。) (2)前回の授業における質問項目について、レポートをもとに回答を求めます。その後、肯定派、否定派、審判に分かれて、ディベートを行います。(肯定派と否定派の各グループは、予め第一立論を準備してレジュメを用意します。)
準備学習	日頃から新聞を読み、社会と法律との関係を意識すること。 講義資料等を予め読んでおき、分からないことがあれば予め調べておくこと。 その他、授業にて指示した準備学習をすること。
成績評価	出席点(28%)、授業点(36%)、期末レポート点(36%)で評価する。 ただし、無断欠席が3回以上あった場合は成績評価しない。
講義構成	1. 初回ガイダンス 2～13. 偶数回:新聞記事の輪読、ノート作成、質問項目の検討 奇数回:調査レポートの報告、ディベート 14.(日程調整日)
教科書	教科書は指定しない。配付資料と法令集を必ず持参すること。
参考書・資料	授業において適宜指示する。

担当者から一言	社会問題について関心のある学生、3年次でのゼミ履修を考えている学生に対して、特に受講を勧めます。 1年次での法律の授業にあまりついてこれなかった学生、法律に苦手意識のある学生でも、授業に積極的に参加する意志のある方であれば大いに歓迎します。
その他	やむを得ず授業を欠席する場合は、必ず事前に担当者に連絡すること。 ただし、緊急を要する場合は、事後の連絡でもよいものとする。

授業コード	41021		
授業科目名	日本政治史I(前)		
担当者名	森川正則(モリカワ マサノリ)		
配当年次	1年次	単位数	2

開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	金曜3限
講義の内容	この講義は、「20世紀の世界と日本の政治・外交」を主題とします。日本政治史Ⅰが対象とするのは20世紀の前半、すなわち戦前・戦中と呼ばれる時代で、日露戦争(1904～05年)の頃からアジア・太平洋戦争(1941～45年)の頃になります。前半では主に内政(国内政治)を扱い、後半では主に外交を扱います。また、その時々の国内・国際社会の状況に広く目配りするとともに、戦後・現在との対比も織り交ぜることによって、戦前・戦中という時代の姿に迫っていきます。		
到達目標	内政については、戦前の日本で民主主義(デモクラシー)と政党政治がどのように成長し、崩れていったのかを学び、考えてもらいます。また、外交については、国際社会の中で戦前の日本がどのような生き方をしたのか、どうして戦争への道を歩んでしまったのかを学び、考えてもらいます。そして、戦後・現在との対比を念頭に置きながら、戦前・戦中という時代を見つめることを通じて、私たちが生きている時代を過去とのつながりの中で見据える思考力・知的想像力を高めてもらうことが目標となります。		
講義方法	毎回、レジュメと資料を配布して講義を行います。併せて、映像・視聴覚教材も使用していきます。		
準備学習	下の「参考書・資料」欄で、講義全体に関係する図書を挙げておきました。事前学習や事後学習に役立ててもらえればと思います。		
成績評価	学期中に1度、レポートを提出してもらいます。成績は、レポート(評価割合40%)と学期末試験(評価割合60%)を総合して評価します。		
講義構成	第1回 古きを訪ね、今を考える 第2回 日露戦争と自由化・民主化の潮流 第3回 普通選挙制とマス・デモクラシー 第4回 「平民宰相」の誕生と政党政治 第5回 「ライオン宰相」たちの闘いと政党政治 第6回 大恐慌の衝撃 第7回 デモクラシーと政党政治のたそがれ 第8回 大戦の惨禍と20世紀の幕開け 第9回 舞台はパリからワシントンへ 第10回 戦争の違法化の潮流と軍縮交渉 第11回 揺れ動く「非常時日本」の生き方 第12回 宣戦布告なき戦い 第13回 交渉は春に始まり、冬に緊迫する 第14回 アジア・太平洋戦争の時代 第15回 学期末試験		
教科書	教科書は指定しません。毎回、講義レジュメ・資料を配布します。		
参考書・資料	御厨貴・天川晃『日本政治史：20世紀の日本政治』(放送大学教育振興会、2003年) 井上寿一『日本外交史講義』(岩波書店、2003年) 川島真・服部龍二編『東アジア国際政治史』(名古屋大学出版会、2007年) 坂野潤治『日本政治史：明治・大正・戦前昭和』(放送大学教育振興会、改訂版・1997年) 北岡伸一『政党から軍部へ：1924～1941』(日本の近代5、中央公論新社、1999年) イアン・ニッシュ『戦間期の日本外交：パリ講和会議から大東亜会議まで』(ミネルヴァ書房、2004年)		
講義関連事項	後期の日本政治史Ⅱと併せて履修することが望ましいです。		
その他	講義中の私語や携帯電話の使用は固く禁じます。		

授業コード	41022		
授業科目名	日本政治史Ⅱ(後)		
担当者名	森川正則(モリカワ マサノリ)		
配当年次	1年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	金曜3限
講義の内容	この講義は、前期の日本政治史Ⅰに続き、「20世紀の世界と日本の政治・外交」を主題とします。日本政治史Ⅱが対象とするのは20世紀の後半、すなわち戦後と呼ばれる時代で、アジア・太平洋戦争の終結から冷戦の終結後までになります。前半では主に内政(国内政治)を扱い、後半では主に外交を扱います。また、その時々の国内・国際社会の状況に広く目配りするとともに、戦前との対比も織り交ぜることによって、戦後という時代の姿に迫っていきます。		
到達目標	内政については、戦後の日本で民主主義(デモクラシー)と政党政治がどのように再生し、展開していったのかを学び、考えてもらいます。また、外交については、戦後の日本がどのように国際社会に復帰し、どんな生き方をし		

	ていったのかを学び、考えてもらいます。そして、戦後という時代を見つめることを通じて、私たちが生きる21世紀初めの現在を過去とのつながりの中で見据える思考力・知的想像力を高めてもらうことが目標となります。
講義方法	毎回、レジュメと資料を配布して講義を行います。併せて、映像・視聴覚教材も使用していきます。
準備学習	下の「参考書・資料」欄で、講義全体に関係する図書を挙げておきました。事前学習や事後学習に役立ててもらえればと思います。
成績評価	学期中に1度、レポートを提出してもらいます。成績は、レポート(評価割合40%)と学期末試験(評価割合60%)を総合して評価します。
講義構成	第1回 破滅、誓い、再生 第2回 占領の時代の姿 第3回 「1936・37年の躍進」は戦後へ 第4回 再び、二大政党制の時代へ？ 第5回 高度成長と「明治100年」 第6回 20世紀と昭和の終わり 第7回 政権交代なき政党政治の揺らぎ 第8回 歴史の中の2009年 第9回 1951年9月、サンフランシスコへ 第10回 「巨人政治家」たちの選択と日米関係 第11回 「不正常な状態」の終わりと日中関係 第12回 湾岸戦争の衝撃に揺れて 第13回 新世紀の同盟の役割と将来 第14回 新世紀のアジア・太平洋を生きる 第15回 学期末試験
教科書	教科書は指定しません。毎回、講義レジュメ・資料を配布します。
参考書・資料	御厨貴・天川晃『日本政治史：20世紀の日本政治』(放送大学教育振興会、2003年) 井上寿一『日本外交史講義』(岩波書店、2003年) 川島真・服部龍二編『東アジア国際政治史』(名古屋大学出版会、2007年) 福永文夫『戦後日本の再生：1945～1964年』(丸善、2004年) 河野康子『戦後と高度成長の終焉』(日本の歴史24、講談社、2002年) 五百旗頭真『戦後日本外交史』(有斐閣、新版・2006年)
講義関連事項	前期の日本政治史Ⅰを履修していることが望ましいです。
その他	講義中の私語や携帯電話の使用は固く禁じます。

授業コード	41037		
授業科目名	日本政治思想史I(前)		
担当者名	安西敏三(アンザイ トシミツ)		
配当年次	3・4年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	水曜5限
オフィスアワー	随時		

講義の内容	近世日本の、即ち江戸期における政治思想を扱うが、狭義の政治思想に限定することなく、広く政治的状況に結果的に影響を及ぼした、ないし及ぼす可能性をもった思想を対象とする。江戸期を対象とするのは「思想史」が制度史とか政治史に比較して相対的に連続性が強いからである。また時間的に現在に近い時代に関心が向くのが自然であるので、その分、過去の問題に眼を向けないのが一般的である。特に法学部学生はなかなか過去に眼をむけるチャンスがない。また教育便宜的にも日本政治史なり、外交史なりは明治以降を対象としている場合がほとんどであるので、それ以前の時代認識を得るためにも近代以前の思想の講義は必要である。もちろん日本政治思想史Ⅱは明治期も対象とするけれども、近代以前の思想を認識し、過去を現在と立体的に考えることによって、現代を対象化し、意識化し、自己の置かれた状況を知り、現在に対処すべき視点を豊かにするこの糧を提供したい。
到達目標	近世日本の基本的な思想についての最低限度の知識とそれに関連する史料を読む能力を培いたい。
講義方法	史料を付けたレジュメを配布して行う。
準備学習	講義で紹介する文献なり史料なりを読んでおく和良好的。
成績評価	出席点を加味することもあるが、基本的には学期末の試験による。
講義構成	序章 講義を始めるにあたって

	第一章 徳川封建制の機構と精神 第一節 徳川封建制の歴史的位置付け 第二節 武士道論の諸相 第二章 伝統的イデオロギーの諸形態 第一節 神道 第二節 仏教 第三節 キリスト教 第三章 儒学の政治思想 第一節 儒学あるいは朱子学(＝宋学＝新儒学) 第二節 「天人相関」もしくは「天人合一」の思想 第三節 宋学の理気哲学 第四節 自然秩序観の二表現 第五節 易姓革命の思想 第六節 儒教政治思想の主要観念 第七節 儒教思想の両極志向性 第八節 批判 第九節 江戸時代における修正と変容の諸形態
教科書	使用しないが、『丸山眞男講義録 日本政治思想史』第五、六、七冊は常に参照する。
参考書・資料	その都度、紹介する。
講義関連事項	講義の視点とテレビや映画などの江戸時代ものに見られる史観とを比較して考えるのも、良い。

授業コード	41038		
授業科目名	日本政治思想史Ⅱ(後)		
担当者名	安西敏三(アンザイ トシミツ)		
配当年次	3・4年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	水曜5限
オフィスアワー	随時		

講義の内容	日本政治思想史Ⅰと同じ問題意識で講義をするが、講義対象は江戸期から明治期までである。
到達目標	基本的な思想の流れと史料の読解能力の修得を目標とする。
講義方法	史料を付したレジュメを配布することによって行う。
準備学習	配布したレジュメの復習と参考文献を読んでおくことが望ましい。
成績評価	出席点を加味する場合もあるが、基本的には学期末の試験による。
講義構成	序章 講義を始めるにあたって 第一章 国学の政治思想 第一節 国学運動の三つの源泉 第二節 漢意と大和意の方法的対置 第三節 漢意と大和意の分説 第四節 本居宣長の「もののあはれ」の展開 第五節 国学政治思想の特色とディレンマー本居宣長を中心に一 第六節 幕藩体制と国学 第七節 汎美主義の政治的帰結 第八節 国学における「学問」意識の独立 第二章 反文明とユートピアー安藤昌益の政治思想ー 第一節 「互生」「直耕」と「法世」 第二節 「自然の世」への復帰 第三章 叛逆の論理ー山県大弼と大塩平八郎ー 第一節 「御威光」と叛逆 第二節 山県大弼と『柳子新論』 第三節 中斎大塩平八郎 第四章 「尊王論」の前提 第一節 「天下様」と「天子様」 第二節 天皇のイメージ 第五章 華夷思想と日本国観 第一節 「日本国」

	第二節 華夷思想への対応 第三節 「泰平」と「尊王論」 第六章 村人達と「一揆」 第一節 村 第二節 一揆の経過 第三節 要求の根拠と論理 第七章 「国体」の逆説―水戸学― 第一節 「水府の学」 第二節 「天」と「天皇」 第三節 「民志を―に」 第四節 「国体」論の逆機能 第八章 西洋観と「開国」 第一節 西洋との出会い 第二節 キリシタンの西洋 第三節 「窮理」の西洋 第四節 脅威としての西洋 第五節 佐久間象山―朱子学と西洋自然科学― 第六節 横井小楠―朱子学と西洋政治思想― 第七節 大橋訥庵―朱子学による西洋排撃― 第九章 幕末・維新・啓蒙期の政治思想―福澤諭吉を中心に― 第一節 「道理」と「万国公法」 第二節 国際政治と国家理性―「正義は力なり」VS.「力は正義なり」― 第三節 「権理通義」と「自由」 第四節 「文明」と「国体」
教科書	教科書は使用しないが、『丸山眞男講義録 第七冊 日本政治思想史 1967』（東京大学出版会）、渡辺浩『政治思想Ⅱ 近世日本政治思想』（日本放送出版協会、絶版）、安西敏三『福澤諭吉と自由主義』（慶應義塾大学出版会）は常に参照する。
参考書・資料	その都度、紹介する。
講義関連事項	講義内容と大河ドラマなど歴史ものと比較して見るのも、歴史観を培うのに有益である。

授業コード	41011		
授業科目名	日本法史I(前)		
担当者名	山田 勉(ヤマダ ツトム)		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	火曜2限
講義の内容	日本の前近代法について概説する。 現代日本法は西洋的な体系を持っている。その源は明治期に移植したヨーロッパ法であり、戦後期にはアメリカ法が加味された。法を学ぶ上で、西洋法の伝統に学ぶことが重要なのはいうまでもない。 しかし、西洋式の洋服を着てみても、鏡に映るのは西洋人ではなく、あくまで＜洋服を着た日本人＞である。自分の姿を正しく知ろうとするならば、西洋法を学ぶだけでは充分とはいえない。日本法の＜身体＞をトータルに理解することが必要なのである。 西洋法の移植は日本法史の大きな画期であったが、紫陽花が土地によって花の色を変えるように、移植した植物がどう育つかは、その地の土壌の問題でもある。講義では、古代法／中世法／近世法の順で、その土壌について考えてみたい。		
到達目標	古代法から近世法に至る日本法の基礎的理解		
講義方法	具体的な法史料を、教材プリントとして適宜用いながら講述する。		
準備学習	日本の古代、中世、近世とはどのような時代であったかを、講義構成にそって確認しつつ、講義に出席することが必要である。		
成績評価	定期試験で評価する。		
講義構成	・倭人の法 ・中国法の移植 ・律令の日本化 ・古代法から中世法へ ・武家法、公家法、本所法		

	・中世法の特質 ・分国法 ・近世法の成立 ・幕府法と藩法 ・公事方御定書 ・身分法など
教科書	特に指定しない。
参考書・資料	牧英正・藤原明久編『日本法制史』青林書院

担当者から一言	特に歴史の詳しい知識を必要とはしませんが、日本史の基礎知識が大いに不足していることを自覚する人は、簡単な通史に目を通したりして、講義に並行して自分で補ってください。
---------	--

授業コード	41012		
授業科目名	日本法史Ⅱ(後)		
担当者名	山田 勉(ヤマダ ツトム)		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	火曜2限

講義の内容	日本の近代法について概説する。 日本近代法は明治前期に、異文化であるヨーロッパ法を急速に移植することによって形成された。権利や憲法という発想を持たず、市民などどこにもいない社会に、近代市民法がやってきたのである。当然、そのままうまく行くわけがない。当時の洒落者が着物に革靴をはいたりしたように、馴染みのない西洋法と何とか折り合いをつけようと悪戦苦闘することとなった。 この西洋型法制は時には日本社会と不協和音を奏でながら、明治憲法体制、明治末・大正期の再編成、第二次大戦中の戦時統制を経て、戦後改革・アメリカ法の移植に至り、現行法へと続いている。講義では、その流れに沿って日本社会と近代法について考えてみたい。
到達目標	日本近代法の成立と変質に関する基礎的理解
講義方法	具体的な法史料を、教材プリントとして適宜用いて講述する。
準備学習	維新期、明治前期、明治後期、大正期、昭和戦前期、昭和戦後期が、それぞれどのような時代であったかを確認しつつ、講義に出席することが必要である。
成績評価	定期試験で評価する。
講義構成	・明治国家の出發と課題 ・廃藩置県と岩倉ミッション ・地租改正と資本制 ・明治憲法の成立 ・刑法 ・法典論争と「家」制度 ・日清・日露講和条約と対朝鮮政策 ・社会法学の登場 ・法の社会化の諸相 ・家族法理の変化 ・戦時統制法 ・戦後改革
教科書	特に指定しない。
参考書・資料	牧英正・藤原明久編『日本法制史』青林書院

担当者から一言	近代法史は、現代の問題と直結しています。何がどこにつながっているか、新聞を読んで比較し、考えてみましょう。
---------	---

授業コード	41044
授業科目名	比較憲法(前)
担当者名	小泉洋一(コイズミ ヨウイチ)

配当年次	3・4年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	月曜3限
特記事項	4月26日の講義の初めに講義資料を渡すのでぜひ出席してください。出席できない者は、事前にできなかった者は26日16時20分から16時40分の間に私に連絡してください。		
オフィスアワー	火曜日昼休み		

講義の内容	日本国憲法の条項についての法解釈的検討ではなく、憲法現象を客観的、実証的に認識する。この講義はとくに人権保障に限定して、そのような比較憲法的考察をするのが目的である。このため、主として近代憲法の歴史的発展および英米独仏の差という、時間と空間の二つの軸で人権保障の内容と方法を比較することになる。
到達目標	各時代、各国の人権宣言の背景、内容、特徴を理解すること、それらを踏まえて今日のわが国における人権宣言の普遍性と固有性を考察すること。
講義方法	教科書と講義資料に基づいて講述する。受講数によっては、時間中に教科書を受講生に順番に音読してもらうかもしれない。
準備学習	法学部専門教育科目である憲法Ⅰと憲法Ⅱを履修すること。それらを受講後復習しながら、この日各憲法を勉強すること。
成績評価	レポートと筆記試験を総合して成績評価することを予定している。 レポートは試験のときに提出していただく。レポートの課題および筆記試験の出題方法は4月12日の講義中に指示する予定である。
講義構成	1. 序論－比較憲法の意義と方法・人権の歴史性 2. 17世紀イギリスの人権宣言 3. 18世紀アメリカの人権宣言 4. 19世紀アメリカの人権宣言 5. 18世紀フランスの人権宣言 6. 19世紀フランスの人権宣言 7. 19世紀ドイツの人権宣言 8. 20世紀アメリカの人権保障 9. 20世紀フランスの人権保障 10. 20世紀ドイツの人権保障 11. 20世紀社会主義国の人権宣言 12. 国際的人権宣言 補足 比較の中での東アジアとわが国の人権保障 14. 予備 試験
教科書	高木 八尺、末延 三次、宮沢 俊義『人権宣言集』岩波書店、1957。第1回の講義中に教科書の特徴について説明する。
参考書・資料	阿部照哉・畑博行『世界の憲法集[第4版]』（有信堂、2009年） 初宿正典・辻村みよ子『新解説世界憲法集』（三省堂、2006年） 高橋和之『世界憲法集 新版』（岩波書店、2007年） 阿部照哉『比較憲法入門』（有斐閣、1994年） 樋口陽一『比較憲法全訂第3版』（青林書院、1992年） 樋口陽一『国法学』（有斐閣、2004年） 辻村みよ子『比較憲法』（岩波書店、2003年） 塩津徹『比較憲法学』（成文堂、2005年） 田中英夫『英米法総論上』『下』（東京大学出版会、1980年） その他、各国法（英米法、ドイツ法、フランス法、社会主義など）に関する文献も参考になる。 資 料：講義資料を配布する。
担当者から一言	実定憲法についての憲法1を履習しておくことが受講の前提条件である。受講生の努力を期待する。第1回の講義には筆記試験の方法とレポート課題を述べるので必ず出席すること。 講義中に質問したくなったときは、質問を書きとめ、それに基づき講義終了後に私に質問していただきたい。
その他	最初の講義(4月12日)に講義資料を配付するとともに、レポート課題を発表するので是非とも出席すること。無断で欠席した場合には受講の上で不利になるかもしれない。4月26日の講義の初めに講義資料を渡すのでぜひ出席してください。出席できない者は、事前にできなかった者は26日16時20分から16時40分の間に私に連絡してください。

授業コード	41016
-------	-------

授業科目名	比較法文化論（前）		
担当者名	黒田忠史（クロダ タダブミ）		
配当年次	3・4年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	水曜4限
オフィスアワー	火曜日12:10～12:45 その他E-Mailによる約束時間		

講義の内容	日本とヨーロッパ諸国（特にイギリス、ドイツ、フランス、アメリカ）の司法制度の特徴および法曹養成制度の特徴を比較法的に検討する。後半で東アジアのいくつかの国の司法制度と法曹養成制度の特徴を、ヨーロッパ諸国の諸類型と比較し検討する。
到達目標	諸外国の法制度・裁判制度についての知識を習得し、日本の法と裁判の特徴と問題点を絶えず考えるようになること。
講義方法	配付資料やパワーポイント、視聴覚教材を用いて講述する。
準備学習	My Konanにアップロードしている「講義資料」を事前に読んでおくこと。
成績評価	基本的には期末の試験（100点満点）の成績で、評価する。
講義構成	第1講 序論：類型的比較の方法。過去問を使った勉強方法の説明 第2講 日本の司法制度・法曹養成制度の特徴（1） 第3講 同 （2） 第4講 ドイツの司法制度・法曹養成制度の特徴（1） 第5講 同 （2） 第6講 フランスの司法制度・法曹養成制度の特徴（1） 第7講 同 （2） 第8講 イギリスの司法制度・法曹養成制度の特徴（1） 第9講 同 （2） 第10講 アメリカの司法制度・法曹養成制度の特徴（1） 第11講 同 （2） 第12講 韓国の司法制度・法曹養成制度の特徴 第13講 中国・台湾の司法制度・法曹養成制度の特徴 第14講 まとめ、質問
教科書	特になし。
参考書・資料	広渡清吾編『法曹の比較法社会学』（東大出版、2003年） 小林昌之・小泉慎也編『アジア諸国の司法改革』（アジア経済研究所、2002年）
講義関連事項	毎回の講義の冒頭で、前回までの復習、質問への回答、講義の課題設定などを行うので、遅刻しないように。質問や意見は、できるだけ講義中のクエスチョン・タイムにしてください。

授業コード	41089		
授業科目名	福祉法政策（前）		
担当者名	藤澤宏樹（フジサワ ヒロキ）		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	水曜5限

講義の内容	人権擁護にもっとも敏感でなければならない福祉の現場で、人権侵害事件が後を絶ちません。それはどうしてなのでしょう。そして、どのような解決策が考えられるのでしょうか。「福祉法政策」の講義では、毎回、福祉の現場における人権侵害事件をとりあげて、法・政策の立場から検討していきます。
到達目標	福祉の現場の諸問題について知ること。そしてその解決方法について、法・政策の立場から検討することができるようになること。
講義方法	講義形式で行います。
準備学習	新聞やテレビ等で、社会福祉の最新トピックを読んだり見たりしてください。
成績評価	期末試験の成績で評価します。ただし、受講状況、受講態度により変更する場合があります。授業中の告知に注意してください。
講義構成	次のテーマにつき、各々1～2回を割り当てる予定です。

	1 公的扶助～「健康で文化的な最低限度の生活」とは 2 子どもの貧困～低所得世帯への教育費支援制度の展望 3 児童福祉～児童養護施設をめぐる諸問題 4 障がいのある人々と福祉 5 高齢者福祉～介護施設殺人事件 6 医療福祉 7 福祉と差別～ハンセン病問題 8 なぜ福祉(受給)権が保障されなければならないのか ※順序を入れ替える場合があります。
教科書	『社会福祉小六法2010年版』(ミネルヴァ書房)
参考書・資料	子どもの貧困白書編集委員会編『子どもの貧困白書』(明石書店) 藤本典裕・制度研編『学校から見える子どもの貧困』(大月書店)
講義関連事項	授業中の私語、携帯電話の使用は認めません。退席してもらう場合があります。

授業コード	41065		
授業科目名	物権法I(物権法)(前)		
担当者名	桑岡和久(クワオカ カズヒサ)		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	水曜2限
オフィスアワー	講義終了後		

講義の内容	民法の物権領域のうち物権総論、所有権、用益物権、占有権(物権法から担保物権法を除いた領域)
到達目標	上記物権法分野の基礎的な知識と考え方の習得
講義方法	講義形式
準備学習	民法入門、民法総則 I を履修していることが望ましい
成績評価	期末試験の成績によって評価する
講義構成	1. 序 2. 物権の一般的効力 3. 物権変動 4. 不動産物権変動における公示 5. 動産物権変動における公示 6. 明認方法による公示 7. 物権の消滅 8. 所有権 9. 用益物権 10. 占有権
教科書	安永正昭「講義 物権・担保物権法」
参考書・資料	六法

授業コード	41066		
授業科目名	物権法II(担保法)(後)		
担当者名	住田英穂(スミタ ヒデホ)		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	火曜3限
オフィスアワー	木曜日の昼休み 事前に連絡するようにして下さい。		

講義の内容	物権法のうちで、担保物権法に関する部分の講義を行います。具体的には、「講義構成」の項目を参照して下さい
-------	---

	い。学生にとっては、担保法は、難しいと思います。金融取引の実務については、ほとんど知らない上に、問題となる事例においても、利害関係人が多く登場するからです。本講義では、判例を素材にしながら、事例を客観的に把握し、各当事者の利益状況を分析する方法を具体的に示しながら、講義を進めるようにします。
到達目標	① 担保物権法に関する全体像を把握し、主要なルールおよび概念について、その意味を理解し、具体例を挙げながら説明できる。 ② 法的問題を解決するために、事例問題の事実の概要を客観的に把握し、解決の根拠となるルールを発見し、それを適用して妥当な解決を見だし、その理由を説明できる。
講義方法	毎回、レジュメを配布します。レジュメと教科書に沿って講義を進めることにします。
準備学習	「民法法入門」「物権法Ⅰ」が履修済みであることが望ましい。特に、物権法Ⅰの基本知識は、物権法Ⅱを理解する上でも前提となるので、未修者は、本講義指定の教科書の物権法の部分を自習することが望ましい。
成績評価	期末試験の成績による。六法を持参しているかどうかのチェックをかねて、出席をとることがあるかもしれません。
講義構成	序 担保物権法序論 1章 抵当権 2章 共同抵当と根抵当 3章 不動産譲渡担保 4章 動産担保 5章 法定担保物権
教科書	安永正昭「講義 物権・担保物権法」(有斐閣)

授業コード	41C71		
授業科目名	不法行為法（1クラス）(後)		
担当者名	桑岡和久(クワオカ カズヒサ)		
配当年次	1年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	木曜1限
特記事項	法学部全学年 出席番号1～210、法学部以外		
オフィスアワー	講義終了後		

講義の内容	民法債権法のうち不法行為法、不当利得法、事務管理
到達目標	不法行為、不当利得、事務管理についての基本的な知識と考え方の習得
講義方法	講義形式。
準備学習	民法法入門を履修していることが望ましい
成績評価	基本的には期末試験の成績による。
講義構成	Ⅰ. 不法行為 1、不法行為制度 2、権利侵害 3、故意・過失 4、因果関係 5、損害 6、責任能力、正当防衛・緊急避難 7、過失相殺、損益相殺 8、使用者責任 9、物による権利侵害 10、差止請求と損害賠償 Ⅱ. 不当利得 1、不当利得制度 2、侵害利得 3、給付利得 Ⅲ. 事務管理
教科書	潮見佳男「債権各論Ⅱ 不法行為法 第二版」
参考書・資料	六法

授業コード	41C72		
授業科目名	不法行為法（2クラス）(後)		
担当者名	福元隆久（フクモト タカヒサ）		
配当年次	1年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	木曜1限
特記事項	法学部全学年 出席番号211～最後		

講義の内容	交通事故や傷害事件など他人の違法な行為により損害を受けた者の損害賠償に関する問題が不法行為の問題です。本講義では、不法行為理論の概要を理解すると共に訴訟や示談交渉の現場における問題点を理解することを目的としています。また、不法行為と同じく契約によらずに債権関係が発生する事務管理・不当利得についても簡単に触れたいと思います。
到達目標	本講義は不法行為法を直接の対象としていますが、法律学全体の学習において、比較的早期の講義であるということも踏まえ、下記事項の習得を目的としたいと思います。 ①「条文」を「解釈する」ことの意味を理解すること ②「事実」を「条文」に当てはめることの意味を理解すること ③法律の文献を読みこなせるようになること
講義方法	講義で配布するレジュメに基づいて講義します。
準備学習	次回講義予定の参考文献の該当箇所を読んでおくのが望ましい。
成績評価	期末の筆記試験で評価します。
講義構成	1 不法行為制度概説 2 一般不法行為の成立要件① 権利侵害・違法性 3 一般不法行為の成立要件② 故意・過失 4 一般不法行為の成立要件③ 因果関係 5 一般不法行為の成立要件④ 損害 損害賠償の範囲 6 損害賠償請求権の主体 7 責任能力 違法性阻却事由 8 過失相殺 損益相殺 時効 9 特殊不法行為① 責任無能力者の監督者の損害賠償責任 使用者責任 10 特殊不法行為② 土地工作物責任 共同不法行為 11 損害賠償問題の諸事例 公害事件と差止請求 名誉・プライバシーの侵害 12 事務管理 不当利得
教科書	藤岡康宏・磯村保・浦川道太郎・松本恒雄著『有斐閣Sシリーズ 民法Ⅳ－債権各論[第3版補訂]』（有斐閣） 瀬川信久・内田貴『民法判例集債権各論[第3版]』（有斐閣） ※ いずれも参考書であり、購入は必須ではありません。

担当者から一言	不法行為は、最も身近に生じる法律問題です。従って、皆さんが社会に出て、日常的に法律を扱う仕事に就かなくても、目にする機会は多いと思われます。講義では、弁護士としての立場から、法理論だけでなく、実務での取扱も触れ、皆さんが社会に出た際に役立てるよう講義ができればと考えています。それから、期末テストは、マークシート方式で実施する予定ですが、だからと言って簡単ではありません。文章を
---------	---

	読みこなす力、講義全体の幅広い知識が求められますので、この点、理解のうえ講義を選択して下さい。
--	---

授業コード	55J11		
授業科目名	プラクティカル・キャリアデザイン (A)(前)		
担当者名	本田勝裕(ホンダ カツヒロ)、I		
配当年次	3年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	火曜1限

講義の内容	★楽しくて、役に立ち、キャリアの希望を叶えにいく講義である。 そのために「受ける授業から作る授業・作るキャリアへ」と題して進めていく。 詳細は以下のとおり。 ①就職活動(教員・公務員・起業・進学・留学などを含む)を中心に将来の進路(キャリア)の描き方(デザイン)を実践的に学ぶ。自己分析など演習を中心にやる実践型授業である。特に今年度は3年次対象のため、前期と後期では時期にあわせて多少内容を変える。 ②『受ける授業から作る授業へ』やがて自分の就職活動などキャリアデザインに『活かせる授業へ』。 ③キャリアコンサルタントである講師(私)が最新の就職活動に関する情報を元に講義をおこない、よりスムーズな就職活動がおこなえるものを目指す。 ④2009年の授業では大阪府特別顧問の藤原和博氏や学生起業家、経営者、人事採用担当者などをゲストに招き、セミナーでは通常聞けないリアルな話も聞ける。 ⑤講師、ゲスト、学生同士との対話が中心になるので、相当賑やかな授業になる。 ⑥昨年度の授業テキストをウェブ上に掲載しておくので、テーマやルールや目次を参照するといいたいだろう。授業写真もリンクしておく。 <昨年度後期授業テキスト>{http://www.ponta.co.jp/KONAN_09_Autumn_text.doc} (ワード形式) <授業写真>{http://www.ponta.co.jp/091214.html}(昨年12月の後期授業風景) <学生による授業評価>{http://www.ponta.co.jp/KONAN09Spring_assessment.pdf}(昨年前期授業;pdf形式)
到達目標	授業開講冒頭に【動機】「なぜこの授業を履修するのか」と【目標】「どんな最終授業を迎えたいか」という質問をする。これに講師は意見を持たない。 君自身が自分の動機と目標を決めて授業を作っていくことになるので、到達目標の正解はない。 正解のない「キャリアデザイン」という科目では、自分でゴールを決めていく必要があるのだから。
講義方法	レクチャー(講義)と、ワークショップ(ペアから4,5人のグループ)による。
準備学習	特に定めない。 ただ日常生活で「なぜ?」と「どうやって?」を問いかけておくと学習効果は最適化する。
成績評価	①成績評価は毎週のレポート提出、出席(2/3以下の出席は不可)、受講生自身による自己採点などによって決定する。 ②レポートはすべての授業でおこない講師がコメントを書き、基本的に翌週返却する。 ③自己採点は自己責任において評価することが前提。その上で自分の成長度合いを鑑み評価する。(テキスト&レポートを読み返したり、実感を重視するとよいだろう) ④試験はおこなわない。
講義構成	主なプログラムは以下のとおり。 ・面接演習(模擬面接) ・グループワーク演習 ・プレゼンテーション演習 ・エントリーシート演習 ・自己分析演習 ・キャリアプラン作成 ・コーチング理論を活用したコミュニケーション能力開発 ・組織心理学FFS理論を活用した個性と適性の診断テスト ・業界研究と職種研究(マスコミ業界を参考に) ・進路に関する価値観演習 ・インターンシップの可能性と実用性についての考察(体験者をよんで) ・就職と起業の異なりとその可能性考察(起業家をよんで) ・甲南大学生の卒業後の進路と傾向 ・社会人ゲストをよんでのキャリアデザイン対談 以上の内容で、自分の就職活動やキャリア形成(「やりたい仕事かわからない」「とにかく不安」「今なにをすべきか」「教員や公務員か企業か民間就職か迷う」など)に不安を感じている学生と期待感を持つ学生が対象と

	なる。 ※前期5月初旬の授業は、ルーマニアでのソリューションフォーカス国際会議への出張のため、7月に補講授業をおこなう可能性がある。						
教科書	・第3回目の授業までにテキストを甲南大学生協で販売する。販売時期に関しては授業で問い合わせること。 ・毎回テキストを持参すること。 ・ゲストなどが決定し次第随時更新するため、私のウェブサイト「ポンタのキャリアゼミ」 { http://www.ponta.co.jp/ }						
参考書・資料	・参考書籍として自著をあげておく。「採用される履歴書エントリーシート実例集」 本田勝裕・櫻井照土共著 主婦の友社刊{ <a 362="" 424"="" 61="" 952="" data-label="Table" href="http://www.amazon.co.jp/2011%E8%9F%B7%E8%B4%E8%A0%E8%EF%BD%A6%E8%9F%87%E8%BE%E8%A0%A2%E6%87%88%E9%9A%BC%E9%9A%AA%E3%82%89%E6%B2%BF%E8%AC%97%E8%BD%A1%E9%80%95%E8%A8%E7%B8%BA%E8%BC%94%E8%BD%8C%E7%B9%A7%E5%8F%A5%E8%BD%B1%E8%BD%A5%E8%B1%81%E8%AD%96%E8%B8%E7%B9%9D%E8%BD%BB%E7%B9%A7%E8%BD%A8%E7%B9%9D%E8%BD%B3%E7%B9%9D%E5%8C%BB%CE%9C%E7%B9%9D%E8%BD%BC%E7%B9%A7%E8%BD%B7%E7%B9%9D%E8%BD%BC%E7%B9%9D%E5%8C%BB%E3%83%BB%E9%96%BE%E8%AA%E8%9F%BE%E8%BD%B1%E7%B9%9D%E8%BD%BB%E8%A0%A2%E7%8E%B2%E6%82%8D%E8%9C%8D%E5%A2%93%E8%A9%E6%BA%B7%E8%BD%AE%E6%BB%89%E8%BD%BE%E7%9F%A9%E5%AF%94%E8%9F%86%E8%BD%B1%E9%96%A8%E8%BD%B7%E8%9C%B7%E5%9F%9F%E8%A3%B0%E8%BD%BC%E9%99%8C%E5%BC%B1%E3%83%BB%E8%9F%BE%E8%BD%BB%E8%AD%9B%E8%BD%AC%E9%80%95%E8%B0%dp/4072681512/ref=sr_1_2?ie=UTF8&s=books&qid=1252256997&sr=1-2}}</td></tr> </table> </div> <div data-bbox="> <table> <tr> <td>担当者から一言</td><td>「まじめ」でかつ「楽しい」授業を、君と一緒に作りに行く。</td></tr> <tr> <td>ホームページタイトル</td><td>ポンタのキャリアゼミ</td></tr> <tr> <td>URL</td><td>http://www.ponta.co.jp</td></tr> </table> 	担当者から一言	「まじめ」でかつ「楽しい」授業を、君と一緒に作りに行く。	ホームページタイトル	ポンタのキャリアゼミ	URL	http://www.ponta.co.jp
担当者から一言	「まじめ」でかつ「楽しい」授業を、君と一緒に作りに行く。						
ホームページタイトル	ポンタのキャリアゼミ						
URL	http://www.ponta.co.jp						

授業コード	55A41		
授業科目名	ベーシック・キャリアデザイン（法）(後)		
担当者名	野口由輝子(ノグチ ユキコ)、I		
配当年次	1年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	木曜4限

講義の内容	大学生活を充実させ、将来の進路選択や就職選択を自律的に行っていくに当たり必要となる基本的なチカラを育んでいきます。具体的には、14回の講義の中で“4つの知恵”と称する「人と人との関係を築く知恵」(人間関係力)・「情報を収集して活用する知恵」(情報力)・「自ら考えて判断や決定をする知恵」(思考力)・「自分の将来をイメージして描ける知恵」(遂行力)を醸成していきます。その際、多様な方法を導入しながら、インターラクティブな参加型スタイルで行っていきます。
到達目標	「自己発見(なりたい自分を探す)」をコンセプトに、学習到達目標としては、卒業後の進路選択から就職活動や、学生時代にしかできない活動などへ向けて、この大学生活を充溢させるための具体的な目標を設定すると共に、アクションプランを自発的にイキイキと策定することです。このことは、プロ社会人を目指すに当たって、自律的に考えて選択し意思決定しながら行動していくことができる態度や姿勢を少しでも早くから身につけるためにも重要です。
講義方法	レクチャー・ペアワーク・セルフワーク・グループディスカッション・ゲーム・ロールプレイング・プレゼンテーション
準備学習	自分に対して3つの視点(これまでの自分・今の自分・これからの自分)で考えるトレーニングをしておいてください。
成績評価	キャリアデザインシートの提出(講義の中での気づきや感想などの記入・提出)、キャリアデザインマップの発表と提出(将来の進路選択や就職活動を視野に入れての目標設定とアクションプランの策定・発表・提出)、講義への出席と講義中の参加態度(毎回の出席を重視。いかなる理由があっても、講義の場にいなかった、講義を受けていなかった学生は原則として欠席)。以上を総合的に評価します。
講義構成	1. オリエンテーションーベーシック・キャリアデザインとは？ 2. 自分を探索してみようⅠ 3. 自分を探索してみようⅡ 4. 豊かな人間関係を築こうⅠ 5. 豊かな人間関係を築こうⅡ 6. 専門・専攻を進路に活かそうⅠ 7. 専門・専攻を進路に活かそうⅡ

	8. 幅広い情報を活用しようⅠ 9. 幅広い情報を活用しようⅡ 10. 考える力を身につけようⅠ 11. 考える力を身につけようⅡ 12. 「キャリアデザインマップ」を作成しようⅠ 13. 「キャリアデザインマップ」を作成しようⅡ 14. “なりたい私”を実現させよう
教科書	講義で必要となる資料は、その都度講義中に配付します。

担当者から一言	私たちは未曾有の逃れられない変容の時代と向き合っています。この時代の潮流を味方に引き寄せるには、あなたがどのように大学生活を過ごすかに係っています。大切なことは、大学や様々な活動などを通じ知性と感性に磨きをかけながら、世の中の動向を理解すると共に、今の自分をしっかりと受けとめ、それがこれまでの自分とどう繋がっているのか、更にはこれから先どこに向かって自分を動かしていきたいのかについて、自力で惜しみなく取り組んでいくことです。 つまり、生活し学ぶことを通して得られる様々な役割に満ち溢れた空間軸と、過去・現在・未来の自分を貫く時間軸を重ね合わせながら、自らが本質的な自分としっかり対話し、かけがえのない自分スタイルの生き方・学び方・働き方を探求することにつきます。この講義の中で、その創意工夫について一緒に考えていきましょう。
---------	--

授業コード	41J11		
授業科目名	法学部情報処理Ⅰ（1クラス）(前)		
担当者名	津吉 彰(ツヨシ アキラ)		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	月曜1限
特記事項	My KONANで抽選74名		

講義の内容	パソコン（OS:WindowsVISTA(R)）上で、Microsoft Office2007(R)等を用い、文書作成、電子メール送受信、表計算等を自由に操れるようになることを目指します。またそれらのデータを用いたプレゼンテーションが出来るようにします。またホームページビルダー(R)によるホームページ作成方法について学びます。
到達目標	メールでのコミュニケーションができる。 EXCEL、WORDなどを用いて基本的なドキュメント作成ができる。 Powerpointでのプレゼンテーションができる。 ホームページの基本を知る。
講義方法	毎回最初に解説を行い、その後の演習を中心とした講義を行います。毎回の小さな演習課題と2回程度のレポート課題を提出してもらいます。作成したホームページのコンペも行います。 授業では出席、演習を重視します。
準備学習	初級者を対象とするため、事前準備は不要であるが、実施済み授業については欠席時もWebコンテンツを活用して自習すること。
成績評価	出席(30%)、毎回提出してもらうレポート(60%)とホームページのコンペ(10%)で評価を決定します。出席7回未満では合格できません。
講義構成	第1回 オリエンテーション、パソコンのしくみと基本操作 第2回 InternetによるWWW検索とダウンロード、ファイル管理、メーラー（電子メールソフト）の操作 第3回 Wordの基本操作と演習 第4回 Wordの操作 第5回 Wordの演習、提出、電子メールへの添付 第6回 Excelの基本操作 第7回 Excelの応用 第8回 Excelの演習、Word,Excelの演習課題の提示 第9回 ホームページ作成ソフトによるホームページ作成 第10回 ホームページ作成と公開 第11回 プレゼンテーションソフトの操作 第12回 プレゼンテーションデータの作成 第13回 プレゼンテーション、ホームページのコンペ、ホームページを各自採点します。 第14回 苦手題目克服と総合的な演習
教科書	プリントなどを用意しますので、不要です。
参考書・資料	各自の必要性に合わせて、市販のコンピュータ書籍を購入してください。授業では特に使用しません。

担当者から一言	初心者を対象としており、コンピュータ操作に関する知識がないものとして授業を行ないます。授業中あいた時間などを利用して、タッチタイピングの練習をしてください。10分以上の遅刻は欠席として取り扱います。
---------	---

授業コード	41J12		
授業科目名	法学部情報処理I (2クラス)(前)		
担当者名	津吉 彰(ツヨシ アキラ)		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	月曜2限
特記事項	My KONANで抽選74名		

講義の内容	パソコン(OS:WindowsVISTA(R))上で、Microsoft Office2007(R)等を用い、文書作成、電子メール送受信、表計算等を自由に操れるようになることを目指します。またそれらのデータを用いたプレゼンテーションが出来るようにします。またホームページビルダー(R)によるホームページ作成方法について学びます。
到達目標	メールでのコミュニケーションができる。 EXCEL、WORDなどを用いて基本的なドキュメント作成ができる。 Powerpointでのプレゼンテーションができる。 ホームページの基本を知る。
講義方法	毎回最初に解説を行い、その後の演習を中心とした講義を行います。毎回の小さな演習課題と2回程度のレポート課題を提出してもらいます。作成したホームページのコンペも行います。 授業では出席、演習を重視します。
準備学習	初級者を対象とするため、事前準備は不要であるが、実施済み授業については欠席時もWebコンテンツを活用して自習すること。
成績評価	出席(30%)、毎回提出してもらうレポート(60%)とホームページのコンペ(10%)で評価を決定します。出席7回未満では合格できません。
講義構成	第1回 オリエンテーション、パソコンのしくみと基本操作 第2回 InternetによるWWW検索とダウンロード、ファイル管理、メーラー(電子メールソフト)の操作 第3回 Wordの基本操作と演習 第4回 Wordの操作 第5回 Wordの演習、提出、電子メールへの添付 第6回 Excelの基本操作 第7回 Excelの応用 第8回 Excelの演習、Word,Excelの演習課題の提示 第9回 ホームページ作成ソフトによるホームページ作成 第10回 ホームページ作成と公開 第11回 プレゼンテーションソフトの操作 第12回 プレゼンテーションデータの作成 第13回 プレゼンテーション、ホームページのコンペ、ホームページを各自採点します。 第14回 苦手題目克服と総合的な演習
教科書	プリントなどを用意しますので、不要です。
参考書・資料	各自の必要性に合わせて、市販のコンピュータ書籍を購入してください。授業では特に使用しません。

担当者から一言	初心者を対象としており、コンピュータ操作に関する知識がないものとして授業を行ないます。授業中あいた時間などを利用して、タッチタイピングの練習をしてください。10分以上の遅刻は欠席として取り扱います。
---------	---

授業コード	41J13		
授業科目名	法学部情報処理I (3クラス)(前)		
担当者名	力宗幸男(リキソウ ユキオ)		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	月曜3限
特記事項	My KONANで抽選74名		

オフィスアワー	授業中、またはその直前・直後
講義の内容	パソコンを用いて、文書の作成、電子メールの送受信、表計算、プレゼンテーション等が自由にできるようになることを目指す。具体的には WindowsとMicrosoft Office (Word, Excel, PowerPoint)、AL-Mailを用いて「講義構成」の内容を学習する。
到達目標	文書の作成、電子メールの送受信、表計算、プレゼンテーション等が自由にできるようになることを目指す。
講義方法	最初、学習内容の説明を行い、その後、パソコンを用いた実習を行う。
準備学習	キーボードをタッチタイピングできるように練習をしておくこと。
成績評価	毎回レポートを提出させる。また、レポートにより出席をとる。評価は出席とレポートで行う。試験は行わない。
講義構成	1. パソコンの操作とWindowsXPの操作 2. ワードプロセッサの基本操作 3. 文書の修正と校正 4. 電子メールの送受信、添付ファイルの操作 5. 複雑な文書の作成 6. 文書への画像の挿入 7. スプレッドシートの基本操作 8. スプレッドシートのレイアウトの修正 9. グラフの作成1 10. グラフの作成2 11. 文書へのスプレッドシートの挿入 12. プレゼンテーションソフトの基本操作 13. プレゼンテーションソフトの応用操作 14. まとめ
教科書	考える 伝える 分かちあう 情報活用力 noa出版
参考書・資料	授業中に指示する。
担当者から一言	受講の前提条件 初心者を対象としているので、コンピュータ操作に関する知識がないものとして授業を行う。但し、キーボード操作については、授業中にはあまり時間を割かないので、前もって練習しておくことが望ましい。

授業コード	41J14		
授業科目名	法学部情報処理I (4クラス)(前)		
担当者名	力宗幸男(リキソウ ユキオ)		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	月曜4限
特記事項	My KONANで抽選74名		
オフィスアワー	授業中、またはその直前・直後		
講義の内容	パソコンを用いて、文書の作成、電子メールの送受信、表計算、プレゼンテーション等が自由にできるようになることを目指す。具体的には WindowsとMicrosoft Office (Word, Excel, PowerPoint)、AL-Mailを用いて「講義構成」の内容を学習する。		
到達目標	文書の作成、電子メールの送受信、表計算、プレゼンテーション等が自由にできるようになることを目指す。		
講義方法	最初、学習内容の説明を行い、その後、パソコンを用いた実習を行う。		
準備学習	キーボードをタッチタイピングできるように練習をしておくこと。		
成績評価	毎回レポートを提出させる。また、レポートにより出席をとる。評価は出席とレポートで行う。試験は行わない。		
講義構成	1. パソコンの操作とWindowsXPの操作 2. ワードプロセッサの基本操作 3. 文書の修正と校正 4. 電子メールの送受信、添付ファイルの操作 5. 複雑な文書の作成 6. 文書への画像の挿入 7. スプレッドシートの基本操作		

	8. スプレッドシートのレイアウトの修正 9. グラフの作成1 10. グラフの作成2 11. 文書へのスプレッドシートの挿入 12. プレゼンテーションソフトの基本操作 13. プレゼンテーションソフトの応用操作 14. まとめ
教科書	考える 伝える 分かちあう 情報活用力 noa出版
参考書・資料	授業中に指示する。
担当者から一言	受講の前提条件 初心者を対象としているので、コンピュータ操作に関する知識がないものとして授業を行う。但し、キーボード操作については、授業中にはあまり時間を割かないので、前もって練習しておくことが望ましい。

授業コード	41J21		
授業科目名	法学部情報処理II（1クラス）(後)		
担当者名	津吉 彰(ツヨシ アキラ)		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	月曜1限
特記事項	My KONANで抽選74名		

講義の内容	法学部情報処理Iで扱ったスキルをベースに、パソコン上で、図表を取り入れた文書作成、データベースの操作、WWWのホームページ作成等が自由に行えるようになることを目指します。また、判例データベースLEX/DBの検索を試用します。
到達目標	LEX/DBなど法律情報データベースを使用できる。 ACCESSなどのデータベースとEXCELとの違いがわかる。 EXCEL、WORDなどを用いて基本的なドキュメント作成ができる。
講義方法	毎回講義の最初に解説を行い、その後出来るだけ演習を行ってもらいます。
準備学習	授業終了分の内容についてはダウンロード教材で復習をしておいて下さい。
成績評価	出席(30%)、毎回提出してもらうレポート(50%)、課題レポート(20%)で評価を決定します。出席7回未満では合格できません。
講義構成	第1回 シラバス確認、図表を取り入れた文書の作成(その1) 第2回 図表を取り入れた文書の作成(その2) 第3回 LEX/DBの操作説明、課題の提示 第4回 データベースソフトの操作(その1) 第5回 データベースソフトの操作(その2) 第6回 セキュリティと情報倫理 第7回 これまでの内容の演習ホームページの作成(その1) 第8回 Office総合演習、ホームページの作成(その2) 第9回 Office総合演習、ホームページの作成(その3)サーバへのアップロード 第10回 Word,Excelの演習 第11回 HELP機能を使用した演習、総合的な課題 第12回 総合的な課題 第13回 全体的な復習、課題の提出 第14回 MOS受験対策と総合的な演習
教科書	プリントを用意しますので、不要です。
参考書・資料	参考書は授業中に推薦はしますが、授業では使用しません。
担当者から一言	演習を主体とした科目ですので遅刻厳禁です。10分以上の遅刻は欠席として取り扱いいます。

授業コード	41J22
-------	-------

授業科目名	法学部情報処理II (2クラス)(後)		
担当者名	津吉 彰(ツヨシ アキラ)		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	月曜2限
特記事項	My KONANで抽選74名		

講義の内容	法学部情報処理Iで扱ったスキルをベースに、パソコン上で、図表を取り入れた文書作成、データベースの操作、WWWのホームページ作成等が自由に行えるようになることを目指します。また、判例データベースLEX/DBの検索を試用します。
到達目標	LEX/DBなど法律情報データベースを使用できる。 ACCESSなどのデータベースとEXCELとの違いがわかる。 EXCEL、WORDなどを用いて基本的なドキュメント作成ができる。
講義方法	毎回講義の最初に解説を行い、その後出来るだけ演習を行ってもらいます。
準備学習	授業終了分の内容についてはダウンロード教材で復習をしておいて下さい。
成績評価	出席(30%)、毎回提出してもらふレポート(60%)、課題レポート(10%)で評価を決定します。出席7回未満では合格できません。
講義構成	第1回 シラバス確認、図表を取り入れた文書の作成(その1) 第2回 図表を取り入れた文書の作成(その2) 第3回 LEX/DBの操作説明、課題の提示 第4回 データベースソフトの操作(その1) 第5回 データベースソフトの操作(その2) 第6回 セキュリティと情報倫理 第7回 これまでの内容の演習ホームページの作成(その1) 第8回 Office総合演習、ホームページの作成(その2) 第9回 Office総合演習、ホームページの作成(その3)サーバへのアップロード 第10回 Word,Excelの演習 第11回 HELP機能を使用した演習、総合的な課題 第12回 総合的な課題 第13回 全体的な復習、課題の提出 第14回 MOS受験対策と総合的な演習
教科書	プリントを用意しますので、不要です。
参考書・資料	参考書は授業中に推薦はしますが、授業では使用しません。

担当者から一言	演習を主体とした科目ですので遅刻厳禁です。10分以上の遅刻は欠席として取り扱います。
---------	--

授業コード	41J23		
授業科目名	法学部情報処理II (3クラス)(後)		
担当者名	力宗幸男(リキソウ ユキオ)		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	月曜3限
特記事項	My KONANで抽選74名		
オフィスアワー	授業中、またはその直前・直後		

講義の内容	パソコンを用いて、Home Pageの作成、データベースの操作、データベースの作成、年賀状(またはクリスマスカード)の作成等を「講義構成」に従って学習する。
到達目標	HTMLの概念、データベースの概念を理解し、HomePageの設計やデータベースの設計ができるようになることを目指す。
講義方法	最初、学習内容の説明を行い、その後、パソコンを用いた実習を行う。
準備学習	法学部情報処理Iを履修すること。
成績評価	毎回レポートを提出させる。また、レポートにより出席をとる。評価は出席とレポートで行う。試験は行わない。

講義構成	1. 法学部情報処理Iの復習 2. ワードプロソフトによるHome Pageの作成1 3. ワードプロソフトによるHome Pageの作成2 4. HTMLによるHome Pageの作成1 5. HTMLによるHome Pageの作成2 6. HTMLによるHome Pageの作成3 7. HTMLによるHome Pageの作成4 8. データベースの操作1 9. データベースの操作2 10. データベースの操作3 11. データベースの作成 12. 住所録の作成 13. 年賀状(またはクリスマスカード)の作成 14. まとめ
教科書	最初の授業で指示する。
参考書・資料	授業中に指示する。
担当者から一言	受講の前提条件 法学部情報処理Iを受講済み、あるいはそれ相当の知識を有すること。特に、キーボード操作が自由にできることが必要である。

授業コード	41J24		
授業科目名	法学部情報処理II (4クラス)(後)		
担当者名	力宗幸男(リキソウ ユキオ)		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	月曜4限
特記事項	My KONANで抽選74名		
オフィスアワー	授業中、またはその直前・直後		

講義の内容	パソコンを用いて、Home Pageの作成、データベースの操作、データベースの作成、年賀状(またはクリスマスカード)の作成等を「講義構成」に従って学習する。
到達目標	HTMLの概念、データベースの概念を理解し、HomePageの設計やデータベースの設計ができるようになることを目指す。
講義方法	最初、学習内容の説明を行い、その後、パソコンを用いた実習を行う。
準備学習	法学部情報処理Iを履修すること。
成績評価	毎回レポートを提出させる。また、レポートにより出席をとる。評価は出席とレポートで行う。試験は行わない。
講義構成	1. 法学部情報処理Iの復習 2. ワードプロソフトによるHome Pageの作成1 3. ワードプロソフトによるHome Pageの作成2 4. HTMLによるHome Pageの作成1 5. HTMLによるHome Pageの作成2 6. HTMLによるHome Pageの作成3 7. HTMLによるHome Pageの作成4 8. データベースの操作1 9. データベースの操作2 10. データベースの操作3 11. データベースの作成 12. 住所録の作成 13. 年賀状(またはクリスマスカード)の作成 14. まとめ
教科書	最初の授業で指示する。
参考書・資料	授業中に指示する。
担当者から一言	受講の前提条件

	法学部情報処理Iを受講済み、あるいはそれ相当の知識を有すること。特に、キーボード操作が自由にできることが必要である。
--	--

授業コード	41A51		
授業科目名	法社会学I（1クラス)(前)		
担当者名	西田英一（ニシダ ヒデカズ）		
配当年次	1年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	月曜4限
特記事項	法学部1年次 出席番号1～250		
オフィスアワー	火曜 12:20－13:00		

講義の内容	法も社会も決して「どこかにある」ものではない。私たちが日常経験したり見聞きたりする生活場面のそここに、法の問題や社会のありようが見え隠れしている。法と社会はまた「すでにできあがっているもの」でもない。人びとの様々な関わりの中で、法の意味や作用もたえず更新されている。 法社会学 I では、具体的な場面を取り上げながら、こうした法と社会の動態的な関係にアプローチするときの視点を提供していきたい。
到達目標	具体例をあげて、法と社会の関わりについて説明できる。
講義方法	パワーポイントファイルをスクリーン上で展開しながら進める。レジメの印刷・配布は行わない。
準備学習	日頃から新聞に目を通し、事故の被害者や遺族の方々がどんな苦痛を強いられ、それをどう乗り越えようとしているのかについて考えておくこと。
成績評価	期末試験の評価による。
講義構成	1. ガイダンス 2. VTR『NHK特集 誰もが誰かを訴える』 3. 日本人は裁判嫌い？ 4. 隣人訴訟(その1) 5. 隣人訴訟(その2) 6. 悲しき勝訴:ある医療過誤訴訟(その1) 7. 悲しき勝訴:ある医療過誤訴訟(その2) 8. 中間まとめ 9. たばこ訴訟(その1):たばこ訴訟の言説分析 10. たばこ訴訟(その2):職場の喫煙規制 11. コミュニケーションとしての紛争 12. 働く女性と法(その1) 13. 働く女性と法(その2) 14. 支援環境としての紛争処理システム
教科書	特に使用しない。
参考書・資料	和田仁孝『民事紛争処理論』(信山社、1994) 棚瀬孝雄編『たばこ訴訟の法社会学』(世界思想社、2000) 星野英一編『隣人訴訟と法の役割』(有斐閣、1984) 川島武宜『日本人の法意識』(岩波書店、1967) その他、講義の中で適宜紹介する。
担当者から一言	教室での私語等、他の受講者の妨げになるような行為があれば、学生証提示の上、即時退室してもらう。
その他	質問その他の連絡は、学籍番号・氏名を記入の上、下記アドレスまで送信してください。 nishida@center.konan-u.ac.jp

授業コード	41A52		
授業科目名	法社会学I（2クラス）(前)		
担当者名	西田英一（ニシダ ヒデカズ）		
配当年次	1年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	水曜3限

特記事項	法学部1年次 出席番号251～最後、法学部1年次以外
オフィスアワー	火曜 12:20～13:00
講義の内容	法も社会も決して「どこかにある」ものではない。私たちが日常経験したり見聞きたりする生活場面のそこそこ、法の問題や社会のありようが見え隠れしている。法と社会はまた「すでにできあがっているもの」でもない。人びとの様々な関わりの中で、法の意味や作用もたえず更新されている。 法社会学Ⅰでは、具体的な場面を取り上げながら、こうした法と社会の動態的な関係にアプローチするときの視点を提供していきたい。
到達目標	具体例をあげて、法と社会の関わりについて説明できる。
講義方法	パワーポイントファイルをスクリーン上で展開しながら進める。レジメの印刷・配布は行わない。
準備学習	日頃から新聞に目を通し、事故の被害者や遺族の方々がどんな苦痛を強いられ、それをどう乗り越えようとしているのかについて考えておくこと。
成績評価	期末試験の評価による。
講義構成	1. ガイダンス 2. VTR『NHK特集 誰もが誰かを訴える』 3. 日本人は裁判嫌い？ 4. 隣人訴訟(その1) 5. 隣人訴訟(その2) 6. 悲しき勝訴:ある医療過誤訴訟(その1) 7. 悲しき勝訴:ある医療過誤訴訟(その2) 8. 中間まとめ 9. たばこ訴訟(その1):たばこ訴訟の言説分析 10. たばこ訴訟(その2):職場の喫煙規制 11. コミュニケーションとしての紛争 12. 働く女性と法(その1) 13. 働く女性と法(その2) 14. 支援環境としての紛争処理システム
教科書	特に使用しない。
参考書・資料	和田仁孝『民事紛争処理論』(信山社、1994) 棚瀬孝雄編『たばこ訴訟の法社会学』(世界思想社、2000) 星野英一編『隣人訴訟と法の役割』(有斐閣、1984) 川島武宜『日本人の法意識』(岩波書店、1967) その他、講義の中で適宜紹介する。
担当者から一言	教室での私語等、他の受講者の妨げになるような行為があれば、学生証提示の上、即時退室してもらう。
その他	質問その他の連絡は、学籍番号・氏名を記入の上、下記アドレスまで送信してください。 nishida@center.konan-u.ac.jp

授業コード	41A61		
授業科目名	法社会学Ⅱ（1クラス）(後)		
担当者名	西田英一（ニシダ ヒデカズ）		
配当年次	1年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	月曜4限
特記事項	法学部1年次 出席番号1～250		
オフィスアワー	火曜 12:20－13:00		

講義の内容	法・裁判の主要な役割の一つは“紛争解決”にある。もちろん、紛争解決の側から見たとき、法・裁判はありうる方法の一つであり、裁判以外にもさまざまな紛争処理の制度や方法がある。さらに、社会の多様化や変化に伴って、紛争解決ニーズも変化し、それぞれの紛争処理制度の意義や役割も常に変化している。 法社会学Ⅱでは、法・裁判を紛争処理制度の一つと位置づけ、社会変化や紛争解決ニーズの変化と関連づけながら、法・裁判が実際に果たしている機能、さらに今後期待される役割について考察してみたい。
到達目標	法・裁判が現在果たしている機能と今後期待される役割について説明することができる。
講義方法	各回の講義では、下記教科書をベースに、関連資料やポイントをスクリーン上で展開しながら解説していく。レジメの印刷・配布は行わない。

準備学習	日頃から新聞に目を通し、紛争解決のためにどんな制度や仕組みが使われているのか、について考えること。
成績評価	期末試験の評価による。
講義構成	おおむね以下の内容で講義する予定。 1. ガイダンス 2. 交渉と合意 3. 紛争の展開 4. 紛争処理の全体システム 5. ADR(1) 6. ADR(2) 7. 中間まとめ 8. 裁判の位置づけ 9. 裁判制度の構造的問題 10. 裁判過程の現実 11. 裁判官の役割 12. 弁護士像の変化 13. 弁護士と依頼人関係 14. まとめ
教科書	和田仁孝ほか編『交渉と紛争処理』(日本評論社、2002年)
参考書・資料	和田仁孝『民事紛争処理論』(信山社、1994) その他講義の中で適宜紹介する。
担当者から一言	教室での私語等、他の学生の受講の妨げになる行為があれば、学生証提示の上、即時退室してもらう。
その他	質問その他の連絡は、学籍番号・氏名を記入の上、下記アドレスまで送信してください。 nishida@center.konan-u.ac.jp

授業コード	41A62		
授業科目名	法社会学Ⅱ（2クラス）(後)		
担当者名	西田英一（ニシダ ヒデカズ）		
配当年次	1年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	水曜3限
特記事項	法学部1年次 出席番号251～最後、法学部1年次以外		
オフィスアワー	火曜 12:20－13:00		

講義の内容	法・裁判の主要な役割の一つは“紛争解決”にある。もちろん、紛争解決の側から見たとき、法・裁判はありうる方法の一つであり、裁判以外にもさまざまな紛争処理の制度や方法がある。さらに、社会の多様化や変化に伴って、紛争解決ニーズも変化し、それぞれの紛争処理制度の意義や役割も常に変化している。 法社会学Ⅱでは、法・裁判を紛争処理制度の一つと位置づけ、社会変化や紛争解決ニーズの変化と関連づけながら、法・裁判が実際に果たしている機能、さらに今後期待される役割について考察してみたい。
到達目標	法・裁判が現在果たしている機能と今後期待される役割について説明することができる。
講義方法	各回の講義では、下記教科書をベースに、関連資料やポイントをスクリーン上で展開しながら解説していく。レジメの印刷・配布は行わない。
準備学習	日頃から新聞に目を通し、紛争解決のためにどんな制度や仕組みが使われているのか、について考えること。
成績評価	期末試験の評価による。
講義構成	おおむね以下の内容で講義する予定。 1. ガイダンス 2. 交渉と合意 3. 紛争の展開 4. 紛争処理の全体システム 5. ADR(1) 6. ADR(2) 7. 中間まとめ 8. 裁判の位置づけ 9. 裁判制度の構造的問題 10. 裁判過程の現実 11. 裁判官の役割

	12. 弁護士像の変化 13. 弁護士と依頼人関係 14. まとめ
教科書	和田仁孝ほか編『交渉と紛争処理』（日本評論社、2002年）
参考書・資料	和田仁孝『民事紛争処理論』（信山社、1994） その他講義の中で適宜紹介する。
担当者から一言	教室での私語等、他の学生の受講の妨げになる行為があれば、学生証提示の上、即時退室してもらう。
その他	質問その他の連絡は、学籍番号・氏名を記入の上、下記アドレスまで送信してください。 nishida@center.konan-u.ac.jp

授業コード	41090		
授業科目名	法女性学（前）		
担当者名	三成美保（ミツナリ ミホ）		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	月曜4限

講義の内容	現代日本社会が直面している諸問題をジェンダーの観点から考察する。講義では大きく3つの領域をとりあげる。(1)「性と法」、(2)「家族と法」、(3)「労働と法」である。欧米を含む国際社会と比べたときの日本の現状について検討し、わたしたちの今後の課題を展望したい。(1)「性と法」では、セクシュアル・ハラスメントやドメスティック・バイオレンスなどの日常的な性暴力から、レイプなどの悪質な性犯罪、買春についての考え方について考える。(2)「家族と法」では、最新のテーマである生殖補助医療のほか、夫婦・親子を中心に、戦前の家制度や昨今欧米で注目をあびている同性婚についても学ぶ。(3)「労働と法」では、家事育児などのアンペイドワークの位置づけについて考え、均等法およびその改正について学ぶ。また、男性に多い「過労死」についても
到達目標	性にもとづく差別や偏見はあなたの身近のいたるところにあります。家族のなか、学校のなか、アルバイト先、就職活動のさなか、職場のなか、地域のなか……。あなた自身やあなたの大切なひとが被害にあって声をあげることができずにいるとき、あなたはどうすればいいのか。被害・被害者への適切な対応とはどのようなものなのか。あなたが被害者にならないように、また、加害者にならないように、正しい知識を身につけてください。
講義方法	授業ではパワーポイントを利用する。DVDや図版をはじめとして視覚資料を多用し、わかりやすい講義をこころがける。パワーポイント画面の主要部分はレジュメとして配布する。
準備学習	新聞やニュースにしばしば関連法令や裁判ニュース、国内外の事件などがのります。日頃から気をつけてください。
成績評価	学期末試験の成績を基本とし、平常点を加味する。平常点は、授業内容に関する簡単な確認ペーパーによって評価する。
講義構成	1 序：ジェンダー法学の課題と目的 2 総論：国際社会のなかの日本：男女共同参画社会基本法と国際的動向 3 性と法(1) セクシュアル・ハラスメント 4 性と法(2) レイプ裁判の落とし穴 5 性と法(3) 買春と売春 6 性と法(4) ドメスティック・バイオレンス 7 家族と法(1) 生殖補助医療と法：代理母をめぐる 8 家族と法(2) 人工妊娠中絶：女性の自己決定権と胎児の生命 9 家族と法(3) 「家」制度と婚外子の法的地位 10 家族と法(4) 離婚と面接交渉権 11 家族と法(5) 新しい家族のあり方：同姓婚や生活共同体 12 労働と法(1) 男女雇用機会均等法と同改正法 13 労働と法(2) アンペイドワーク 14 労働と法(3) 過労死とパート労働 15 労働と法(4) ポジティブ・アクション(積極的差別是正措置)
教科書	とくに指定しない。
参考書・資料	①戒能・浅倉・若尾編『フェミニズム法学』（明石書店、2004年） ②金城清子『ジェンダーの法律学』（有斐閣、2002年） ③浅倉むつ子監修『導入対話によるジェンダー法学』（不磨書房、2003年） その他は各項目ごとに授業中に指示する。
担当者から一言	本講義では、社会における男性と女性の関係性（ジェンダー関係）をとりあげて、法律や法文化のなかにいかに

	それが反映されているかを説明します。男性にとっても重要な事項をお話しますので、男性もこぞって参加してください。とくに公務員になりたい方はぜひ受講してください。
--	---

授業コード	41006		
授業科目名	法心理学（後）		
担当者名	我藤 諭（ガトウ サトシ）		
配当年次	1年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	火曜2限

講義の内容	◆法は人間の現象であり、そして心理学は人間の現象にかかわる科学である。両者とも人間の現象を扱いながらも、法学は規範学、心理学は事実学というそれぞれの学としての性格の違いから、両者の交流を妨げていたかもしれない。けれども、法学と心理学が深くかかわっている現実世界の諸問題は少なくない。 ◆本講義では、法学と心理学が深くかかわる刑事裁判を中心に、「取調べ」「供述分析」「信用性判断」をキーワードに展開する。
到達目標	◆受講を通して法学あるいは心理学の知識を獲得することが目標ではなく、法学が扱う人間現象への心理学の問題の立て方、方法、概念などについて学びながら、法学と心理学のかかわる諸問題について考える力を身につける
講義方法	前半は主に認知心理学や供述心理学の基礎を紹介し、後半は具体的な事件における供述分析について紹介する。
準備学習	特に予習は求めない。 毎回の授業のレジュメをあらかじめMyKonanにアップしておくので、各自レジュメをダウンロード・印刷し持参すること。
成績評価	定期テストにより評価する。
講義構成	1 オリエンテーション 2 法と心理学の歴史 3・4・5 供述をめぐる心理学的知見 6・7 欧米における供述分析 8・9 日本における供述分析 10・11 性犯罪事件における被害者供述（事例） 12・13 知的障害者と虚偽自白 14 刑事裁判における供述分析の課題と可能性 15 定期テスト
教科書	特に指定しない。 毎回の講義ではレジュメを使用する。
参考書・資料	「取調べ室の心理学」（浜田著、平凡社新書、2004年） 「自白の心理学」（浜田著、岩波新書721、2001年） 「〈うそ〉を見抜く心理学」（浜田著、NHKブックス937、2002年） 「目撃証言の研究」（渡部監修、北大路書房、2001年） 「目撃証言の心理学」（厳島・仲・原共著、北大路書房、2003年） 「生み出された物語」（山本編著、北大路書房、2003年） 「子どもの面接法」（仲編訳、北大路書房、2004年） 「取調べの心理学」（原編訳、北大路書房、2003年） 「嘘とだましの心理学」（仁平・箱田編、有斐閣） 「裁判官はなぜ誤るのか」（秋山賢三、岩波新書809） 「目撃証言」（ロフタス・ケッチャム共著、厳島訳、岩波書店）
講義関連事項	法と心理学会 http://www.u-gakugei.ac.jp/~ktakagi/JSLP/index.htm 日本弁護士連合会 http://www.nichibenren.or.jp/ 甲山事件 http://www.jca.ax.apc.org/kabutoq/ 野田事件 http://homepage2.nifty.com/nodajiken/
担当者から一言	受講にあたって事前に必要な知識やスキルは特にない。 しかし、講義中の途中入退室や私語などの迷惑行為は厳禁である。 場合によっては、退室を命じることがある。 知識や結論を早急に求めようとせず、事象を根気強く追究する姿勢が必要である。 心理学から見た法の世界について率直に語る心算であるので、法曹界を目指す学生には視野を広げる機会ととらえてほしい。

授業コード	41017		
授業科目名	法哲学I (前)		
担当者名	油納芳生(ユノウ ヨシオ)		
配当年次	3・4年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	金曜3限

講義の内容	法哲学上の諸問題の体系的検討 法哲学上の諸問題を、田中成明氏の著作にそって体系的に検討します。この法哲学 I では、特に法システムの基本的仕組みと主な機能、法と強制とに重点を置いて、皆さんと共に考えていきます。
到達目標	法の仕組みと役割を全体的に理解する。
講義方法	基本的にはテキストにそって講義をしますが、補足したりするためにプリント、ビデオ等を取り入れるつもりです。
準備学習	授業の予習をテキストでもってなし、質問を作ってくること。
成績評価	学期末の記述式テストでのみ評価しますが、質問点をも加味します。
講義構成	第1～2回： 1、法への2つのアプローチ(田中テキスト第1章) 第3～6回： 2、法規範について(田中テキスト第2章) 第7～9回： 3、法の機能(田中テキスト第3章) 第10～14回：4、法と強制(田中テキスト第5章) 第15回： 試験
教科書	田中成明『法学入門』有斐閣、2005年
参考書・資料	加藤新平『法哲学概論』(法律学全集1)有斐閣、1976年 田中成明『法理学講義』有斐閣、1994年 中山竜一『20世紀の法思想』岩波書店、2000年 笹倉秀夫『法哲学講義』東大出版会、2002年 平野・亀本・服部『法哲学』有斐閣アルマ、2002年 井上達夫『法という企て』東大出版会、2003年 A.カウフマン、上田健二訳『法哲学[第2版]』ミレルヴァ書房、2006年 青井秀夫『法理学概説』有斐閣、2007年 小林 公『法哲学』木鐸社、2009年 資料は適宜配布の予定です。
講義関連事項	1、出席はとりません。出席は強制ではないので、真剣に聞きたい人のみ来てください。それ故、私語は絶対に認めません。 2、質問は講義中でも、終了後でもどしどしして下さい。大いに歓迎します。良い質問には質問点を与えます。 3、成績とは無関係に、数回の意見・理解度等の調査をする予定です。

授業コード	41018		
授業科目名	法哲学II (後)		
担当者名	油納芳生(ユノウ ヨシオ)		
配当年次	3・4年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	金曜3限

講義の内容	法哲学上の諸問題の体系的検討(続) 法哲学上の諸問題を、田中成明氏の著作にそって体系的に検討します。この法哲学 II では、特に法的思考、法の解釈・運用等に重点を置き、皆さんと一緒に考えていきます。
到達目標	法の解釈と法的思考についての基本的理解をする。
講義方法	基本的にはテキストにそって講義をしますが、皆さんの理解を助けたり、補足したりするためにプリントやビデオ等も取り入れる予定です。

準備学習	授業の予習をテキストでもってなし、予め質問を作ってくること。
成績評価	学期末の記述式テストのみで評価しますが、質問点をも加味します。
講義構成	第1回：はじめに 第2～7回：1、法的思考（田中テキスト第11章） 第8～13回：2、法の解釈と運用（田中テキスト第12章） 第14回：おわりに 第15回：試験
教科書	田中成明『法学入門』（有斐閣、2005年）
参考書・資料	田中成明『法理学講義』有斐閣、1994年 笹倉秀夫『法哲学講義』東大出版会、2002年 平野・亀本・服部『法哲学』有斐閣アルマ、2002年 青井秀夫『法理学概説』有斐閣、2007年 小林 公『法哲学』木鐸社、2009年 笹倉秀夫『法解釈講義』東大出版会、2009年 資料は適宜配布の予定です。
講義関連事項	法哲学Ⅰをふまえて、講義をしますので、法哲学Ⅰの履修をしておいて下さい。
担当者から一言	1、出席はとりません。出席は強制ではないので、真剣に勉強をしたい人のみ来てください。それ故、私語は絶対に認めません。 2、質問は講義中でも、終了後でもかまいませんので、どしどしして下さい。大いに歓迎します。良い質問には質問点を与えます。 3、成績とは無関係に、数回の意見・理解度等の調査をする予定です。

授業コード	41101		
授業科目名	法律学概論（後）		
担当者名	黒田忠史（クロダ タダブミ）		
配当年次	学部・学科により異なる	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	火曜2限
オフィスアワー	火曜日12時10分～12時50分。その他、E-Mailによる約束時間。		

講義の内容	「法」をめぐる諸問題
到達目標	教師および社会人として不可欠な「法と法律学」についての基礎的知識と良識の習得。
講義方法	パワーポイントや配付資料、視聴覚教材を用いて講義する。
準備学習	My Konan に掲載した「資料」のダウンロードと予習。
成績評価	基本的に、期末試験（100点満点）の結果90点以上を「秀」、80-89点を「優」、70-79点を「良」、60-69点を「可」、60点未満を「不可」とする。
講義構成	第1講 「法」とは何か。社会規範と法規範。 第2講 法の目的、種類。 第3講 法の解釈と適用 第4講 裁判所の組織と機能 第5講 裁判員制度 第6講 権利と義務 第7講 基本的人権 第8講 不法行為と損害賠償 第9講 契約と法 第10講 家族と法 第11講 相続と法 第12講 住居と法 第13講 犯罪と法 第14講 まとめ、質問
教科書	特になし。
参考書・資料	佐藤幸治他『法律学入門』第3版（有斐閣、2006年） 池田真朗他『法の世界へ』第4版（有斐閣アルマ、2006年）

	『現代法学入門』(一橋出版、2003年) 『新版・現代法学入門』第4版(有斐閣双書2005年) 唐澤宏明『はじめて学ぶ法学』(三省堂、2004年) 倉沢康一郎『プレップ法と法学』(弘文堂プレップ法学、1986年) その他、法学の入門的教科書。
--	---

授業コード	41079		
授業科目名	民事訴訟法I(前)		
担当者名	田中誠人(タナカ マコト)		
配当年次	3・4年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	水曜3限

講義の内容	私人の社会生活における権利・義務関係は、民法・商法などのいわゆる実体法によって規律されている。そして、そのような権利・義務関係が全うされない場合には、民事紛争が生ずることとなる。 民事紛争は、私人間の紛争であることから、当事者同士の話し合いによって解決できるものではあるが、解決が見出せない場合には、自力救済(紛争解決のための実力行使)を禁じられた当事者の救済のため、あるいは未解決紛争の堆積がもたらすであろう社会的混乱の回避のためと、その目的には諸説あるが、とにかく、国家がその解決を引き受けることが必要となる。民事訴訟法は、そのような、国家による紛争解決の手続を定めた法律(手続法)であり、実体法上の権利を実現するにあたって、我々の社会生活と間接的に深く関わるものである。本講義は、この民事訴訟法を概説するものであり、全体的な構成の前半部分として、訴えの提起から口頭弁論までにつき、手続の流れに沿って講義を行う。
到達目標	民事訴訟法とはどのような法律なのかを中心として、民事紛争がどのような手続により解決へと導かれるのかを理解する。
講義方法	レジュメを配布のうえ、レジュメに従って講義を進める形式で行う。
準備学習	実体法において規定されている権利が侵害され紛争が生じた時に問題となるのが訴訟(法)なので、民法・商法などの民事法を中心に、法律科目を予めしくは並行して履修していることが望ましい。
成績評価	定期試験(100%)
講義構成	第1回 ガイダンス・授業内容・単位条件・授業方針 第2回 民事訴訟法とその周辺 第3回 民事訴訟制度の目的と理念 第4回 民事訴訟手続のアウトライン 第5回 受訴裁判所 第6回 訴え 第7・8回 当事者 第9・10回 訴訟物 第11・12・13回 訴訟の審理 第14回 司法制度改革
教科書	レジュメを配布する。
参考書・資料	講義において紹介する。
講義関連事項	本講義は、後期に開講する民事訴訟法Ⅱと連続し一体のものである。必須ではないが、民事訴訟法Ⅱと併せて履修することが望ましい。
その他	六法を携行すること。(『ポケット六法』(有斐閣)や『セレクト六法』(岩波書店)などの小冊子でよい)私語・携帯の着信音はご遠慮いただきたい。教員の判断により、退室を求める場合がある。

授業コード	41080		
授業科目名	民事訴訟法Ⅱ(後)		
担当者名	田中誠人(タナカ マコト)		
配当年次	3・4年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	水曜3限

講義の内容	私人の社会生活における権利・義務関係は、民法・商法などのいわゆる実体法によって規律されている。そして、そのような権利・義務関係が全うされない場合には、民事紛争が生ずることとなる。 民事紛争は、私人間の紛争であることから、当事者同士の話し合いによって解決できるものではあるが、解決が見出せない場合には、自力救済(紛争解決のための実力行使)を禁じられた当事者の救済のため、あるいは未解決紛争の堆積がもたらすであろう社会的混乱の回避のためと、その目的には諸説あるが、とにかく、国家がその解決を引き受けることが必要となる。民事訴訟法は、そのような、国家による紛争解決の手続を定めた法律(手続法)であり、実体法上の権利を実現するにあたって、我々の社会生活と間接的に深く関わるものである。本講義は、この民事訴訟法を概説するものであり、全体的な構成の後半部分として、口頭弁論から判決および複雑訴訟形態、上訴再審につき、手続の流れに沿って講義を行う。
到達目標	民事訴訟法とはどのような法律なのかを中心として、民事紛争がどのような手続により解決へと導かれるのかを理解する。
講義方法	レジュメを配布のうえ、レジュメに従って講義を進める形式で行う。
準備学習	実体法において規定されている権利が侵害され紛争が生じた時に問題となるのが訴訟(法)なので、民法・商法などの民事法を中心に、法律科目を予めもしくは並行して履修していることが望ましい。
成績評価	定期試験(100%)
講義構成	第1回 ガイダンス・授業内容・単位条件・授業方針 第2回 弁論主義 第3回 訴訟行為 第4・5回 証拠 第6・7回 判決効 第8回 当事者による訴訟の終了 第9回 複数請求訴訟 第10・11・12回 多数当事者訴訟 第13回 上訴・再審 第14回 略式訴訟手続
教科書	レジュメを配布する。
参考書・資料	講義において紹介する。
講義関連事項	本講義は、前期に開講する民事訴訟法Ⅰと連続して一体のものである。必須ではないが、民事訴訟法Ⅰと併せて履修することが望ましい。
その他	六法を携行すること。(『ポケット六法』(有斐閣)や『セレクト六法』(岩波書店)などの小冊子でよい) 私語・携帯の着信音はご遠慮いただきたい。教員の判断により、退室を求める場合がある。

授業コード	41081		
授業科目名	民事訴訟法Ⅲ(民事執行法Ⅰ)(後)		
担当者名	田中誠人(タナカ マコト)		
配当年次	3・4年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	月曜5限

講義の内容	判決によって訴訟手続が終了しても、判決において義務者とされた当事者がその判決に従った行動を実行しなければ、紛争は終結しないこととなる。そのような場合に権利者は、自己の権利の強制的な実現を求め、民事執行手続を利用することとなる。本講義は、この民事執行手続を規律する民事執行法を中心として、効率的な債権回収システムの確立に不可欠な、担保権実行手続、および、民事保全手続について概説するものである。
到達目標	権利の実現過程を学ぶことで、民事実体法および民事手続法のより深い理解につなげる。
講義方法	レジュメを配布のうえ、レジュメに従って講義を進める形式で行う。
準備学習	社会において生じた民事紛争や、その他、民事的な問題ををどのように解決へと導くのか、というのが民事手続法における共通の視点なので、民法や商法といった実体法(民事)を中心に、法律科目を予めもしくは並行して履修していることが望ましい。 また、民事訴訟手続についても基礎的な理解が必要であるため、民事訴訟法の講義も並行して履修、あるいは履修済であることが望ましい。
成績評価	定期試験(100%)
講義構成	第1回 ガイダンス・授業内容・単位条件・授業方針 第2回 民事執行手続の構造・執行手続の主体 第3回 強制執行の要件・強制執行手続の構造－金銭執行を中心として

	第4回 担保権実行の要件と構造および財産開示制度 第5回 執行関係訴訟 第6回 金銭執行(不動産) 第7回 金銭執行(動産船舶その他) 第8回 金銭執行(債権・少額訴訟債権) 第9回 非金銭執行 第10回 担保権実行 第11回 形式競売その他 第12回 民事保全の意義・構造 第13回 保全命令手続と不服申立て手続 第14回 保全執行
教科書	レジュメを配布する。
参考書・資料	講義において紹介する。
その他	六法を携行すること。(『ポケット六法』(有斐閣)や『セレクト六法』(岩波書店)などの小冊子でよい)私語・携帯の着信音はご遠慮いただきたい。教員の判断により、退室を求める場合がある。

授業コード	41A21		
授業科目名	民事法入門（1クラス）(前)		
担当者名	山本真知子(ヤマモト マチコ)		
配当年次	1年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	火曜3限
特記事項	法学部全学年 出席番号1～210		
オフィスアワー	月曜4限。その他についてはアポイントを取る。		

講義の内容	民法の基本原則、権利と義務、契約(成立、履行、債務不履行)、債権の回収・確保、物権、能力(権利能力・行為能力)、法人、不当利得、不法行為、親族・相続、裁判手続
到達目標	民法、民事訴訟法、商法、労働法などの民法法科目を学ぶための基礎となる事柄の修得。
講義方法	通常の講義形式により行う。抽象的な概念や原理原則を具体的に理解できるように可能な限り具体例に即して説明する予定である。
準備学習	・予習(講義の最後に指示された教科書の該当頁を読む。教科書中に出てきた条文については六法を引く。) ・復習(講義の内容を次回までに復習し、疑問点については参考文献等で調べる。)
成績評価	期末試験の成績によって評価する。
講義構成	1、民法の意義 2、権利と義務／権利の実現 3、契約の成立 4、契約の成立した後～契約の履行 5、債務不履行 6、債権の確保、回収 7、物権 8、能力(権利能力・行為能力) 9、法人 10、不当利得 11、不法行為 12、親族・相続 13、裁判手続
教科書	野村豊弘『民法入門(第5版)』(有斐閣、2007年) 但し、2010年4月時点での最新版を購入すること。
参考書・資料	必要に応じて紹介する。
担当者から一言	六法を必ず持参すること。

授業コード	41A22
-------	-------

授業科目名	民事法入門（2クラス）(前)		
担当者名	桑岡和久（クワオカ カズヒサ）		
配当年次	1年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	火曜3限
特記事項	法学部全学年 出席番号211～最後		
オフィスアワー	講義終了後		
講義の内容	民法、民事訴訟法、商法、労働法など民事法の基本的な事柄を修得することを目的とします。		
到達目標	民法を中心に民事法の基礎的な知識と基本的な考え方を習得する		
講義方法	抽象的な概念や原理原則を具体的に理解できるように可能な限り具体例に即して説明します		
準備学習	第二回目以降は法律用語などこれまでに学習した事柄を復習しておいてください		
成績評価	期末試験の成績によって評価します		
講義構成	1、民事法の意義 2、権利と義務／権利の実現 3、契約の成立 4、契約の履行 5、債務不履行 6、債権の確保、回収 7、物権 8、能力（権利能力・行為能力） 9、法人 10、不当利得 11、不法行為 12、親族・相続 13、裁判手続		
教科書	野村豊弘「民事法入門」 最新版を用意してください		
参考書・資料	小型の六法を持参してください		
担当者から一言	教科書だけでなく六法も必ず携行してください		

授業コード	41C41		
授業科目名	民法総則I(民法I) (A)(後)		
担当者名	住田英穂（スミタ ヒデホ）		
配当年次	学部・学科により異なる	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	水曜2限
特記事項	法学部全学年 出席番号1～210、法学部以外 他学部は授業時間割表にて登録方法を確認すること		
オフィスアワー	木曜日の昼休み 事前に連絡するようにして下さい。		

講義の内容	民法総則の前半部分に該当する部分を講義します。具体的には、下記「講義構成」を参照して下さい。日常生活になじみが深い、契約の締結に関わる問題が、検討の中心になります。1年生は、法を解釈することにまだ慣れていないと思うので、法の適用を通じて紛争を解決するとは、どういうことであるかを示しながら、講義を進めることにします。
到達目標	① 民法総則の前半部分に関する全体像を把握し、主要な実体法のルールおよび概念について、その意味を理解し、具体例を挙げながら説明できる。 ② 法的問題を解決するために、事例問題の事実の概要を客観的に把握し、解決の根拠となるルールを発見し、それを適用して妥当な解決を見だし、その理由を説明できる。
講義方法	毎回、レジュメを配布します。レジュメと教科書に沿って、講義を進めることにします。
準備学習	民事法入門が履修済みであることが望ましい。
成績評価	期末試験の成績で評価します。六法を持参しているかのチェックをかねて、出席をとることがあるかもしれませ

	ん。
講義構成	1 ガイダンス・民法の基本原則 2 法律行為と意思表示 合意の瑕疵 心裡留保 虚偽表示 錯誤 詐欺・強迫 法律行為の解釈 3 人 権能力 意思能力 行為能力 4 物
教科書	永田＝松本＝松岡「民法入門・総則（第4版）」 エッセンシャル民法1（有斐閣ブックス）
参考書・資料	講義の際に、適宜、挙げることにします。
講義関連事項	講義には、六法を必ず持参するようにして下さい。
担当者から一言	大学生として、マナーを欠く学生には、厳しく接するようにします。

授業コード	41C42		
授業科目名	民法総則Ⅰ(民法Ⅰ) (B)(後)		
担当者名	馬場圭太(ババ ケイタ)		
配当年次	1年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	金曜1限
特記事項	法学部全学年 出席番号211～最後		
オフィスアワー	授業終了後		

講義の内容	民法総則の前半部分（後掲、「講義構成」を参照）を講義します。 民法総則は、民法という法分野の一般的規定をまとめた部分です。したがって、民法科目のなかでも最も抽象度が高く、初学者にとっては難解だといわれます。本講義では、具体例を挙げるなど可能な限り受講生の理解を助けるよう努めますが、受講生の側も相応の努力を払うことが必要であることを肝に銘じて受講していただきたいと思います。
到達目標	民法総則に関する基本的知識および法的な思考方法の習得を目標とします。
講義方法	通常の講義方式で行います。出席はとりません。
準備学習	学習の仕方については、初回の講義で指示します。
成績評価	基本的に期末テストのみを評価対象としますが、課題（ミニレポートなど）を課すこともあります。
講義構成	民法典の規定に従って、以下の順に講義する予定です。1つのテーマにつき複数回の授業を割り当てます。 1 民法の基本構造 2 法源、民法の基本原則 3 権利の主体1：権能力（失踪宣告） 4 権利の主体2行為能力（制限能力者制度） 5 権利の客体：物 6 法律行為総論 7 意思表示（心裡留保、錯誤、詐欺、強迫） 法人は、民法総則Ⅱ（民法Ⅱ）で講義します。
教科書	永田眞三郎＝松本恒雄＝松岡久和『民法入門・総則 ― エッセンシャル民法1 第4版』（有斐閣）を使用します。
参考書・資料	初回の授業にて指示します。
講義関連事項	「民事法入門」をすでに履修し終えていることが望ましいです。

授業コード	41C51		
授業科目名	民法総則Ⅱ(民法Ⅱ) (A)(前)		
担当者名	益澤 彩(マスザワ アヤ)		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	月曜3限
特記事項	法学部全学年 出席番号1～210		
オフィスアワー	講義後		

講義の内容	民法総則の後半部分(強行規定違反・公序良俗違反、消費者契約法、無効と取消、代理、法人、時効、権利濫用と信義則)を内容とする。これらはまた、民事法のみならず法律学の基礎となっている。 なお、民法総則の残りの部分(前半部分)は民法総則Ⅰ(民法Ⅰ)の内容である(講学上の「民法総則」を分割している)。
到達目標	民法総則における基本原理・基本的知識や法律学の基礎を習得すること
講義方法	・通常の講義形式 ・各回で1枚の講義用レジュメを配布予定 ・小型六法(条文)は各自で持参
準備学習	具体的には講義の際に指示する。 なお、民法総則Ⅰ(民法Ⅰ)の内容については、履修の有無にかかわらず、各自で自習を進めておくこと。
成績評価	定期試験(期末の筆記試験) 100% 「欠席(K)」は、期末試験を受験しなかった場合のみである。
講義構成	以下の順序である。 講義ガイダンス(講義概要の解説、テキストの紹介など) 法律行為(民法) 強行規定違反、公序良俗違反 法律行為(消費者契約法) 無効と取消 代理 法人 時効 一般条項—信義誠実の原則、権利の濫用
教科書	特定の図書を教科書として指定しないが、数冊を初回の講義で紹介する。 その際の紹介や民法総則Ⅰ(民法Ⅰ)での指定・紹介を参考にして、必ず一冊は購入しておくこと。
講義関連事項	受講の際には、小型六法(最新版)を必ず持参すること。

授業コード	41C52		
授業科目名	民法総則Ⅱ(民法Ⅱ) (B)(前)		
担当者名	益澤 彩(マスザワ アヤ)		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	木曜1限
特記事項	法学部全学年 出席番号211～最後、法学部以外 他学部は授業時間割表にて登録方法を確認すること		
オフィスアワー	講義後		

講義の内容	民法総則の後半部分(強行規定違反・公序良俗違反、消費者契約法、無効と取消、代理、法人、時効、権利濫用と信義則)を内容とする。これらはまた、民事法のみならず法律学の基礎となっている。 なお、民法総則の残りの部分(前半部分)は民法総則Ⅰ(民法Ⅰ)の内容である(講学上の「民法総則」を分割している)。
到達目標	民法総則における基本原理・基本的知識や法律学の基礎を習得すること
講義方法	・通常の講義形式 ・各回で1枚の講義用レジュメを配布予定 ・小型六法(条文)は各自で持参

準備学習	具体的には講義の際に指示する。 なお、民法総則I(民法I)の内容については、履修の有無にかかわらず、各自で自習を進めておくこと。
成績評価	定期試験(期末の筆記試験) 100% 「欠席(K)」は、期末試験を受験しなかった場合のみである。
講義構成	以下の順序である。 講義ガイダンス(講義概要の解説、テキストの紹介など) 法律行為(民法) 強行規定違反、公序良俗違反 法律行為(消費者契約法) 無効と取消 代理 法人 時効 一般条項—信義誠実の原則、権利の濫用
教科書	特定の図書を教科書として指定しないが、数冊を初回の講義で紹介する。 その際の紹介や民法総則I(民法I)での指定・紹介を参考にして、必ず一冊は購入しておくこと。
講義関連事項	受講の際には、小型六法(最新版)を必ず持参すること。

授業コード	41082		
授業科目名	労働法I(労使関係法I) (後)		
担当者名	武井 寛(タケイ ヒロシ)		
配当年次	学部・学科により異なる	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	木曜1限
オフィスアワー	水曜4限		

講義の内容	労働者集団、とくに労働組合が関与する法領域たる集団的労働関係の諸問題を扱う。実定法としては憲法28条の規定する労働三権(団結権、団体交渉権、団体行動権[争議権])と労働組合法を中心とした法領域となる。団結権の歴史的展開を踏まえた上で、基本的人権としての労働基本権の意義、そして個別テーマにそった問題へとすすむ。
到達目標	労働三権の存在意義について理解する。
講義方法	あらかじめ配布する予定のレジュメにしたがって、必要な内容について順次講義する。パワーポイント等を必要に応じて用いる。
準備学習	労働問題に関するルポルタージュを読んでおくと、授業の理解が深まるでしょう。
成績評価	講義の途中に行う小テストと期末テストの成績によって評価する。
講義構成	1 講義内容の紹介+労働法の体系 2 労働法の歴史的展開(団結権を中心として) 3 日本国憲法と労働基本権の特徴 4 労働組合の結成と運営 5 労働組合の運営と統制 6 団体交渉その1 7 団体交渉その2 8 労働協約その1 9 労働協約その2 10 不当労働行為その1 11 不当労働行為その2 12 争議行為と組合活動その1 13 争議行為と組合活動その2 14 集団的労働紛争の解決手続 15 労組法上の労働者と使用者
教科書	初回の講義時に摘示する
参考書・資料	『労働判例百選』有斐閣。その他必要に応じて摘示する。

担当者から一言	集団的労働関係に関する法はイメージのわきにくい領域だと思いますが、重要な「基本的人権」に関する法領域
---------	--

	です。「人間集団」が人権の享有主体とされる珍しい法領域であると考え、興味をわいてくる…かも。
--	--

授業コード	41083		
授業科目名	労働法Ⅱ(労働保護法Ⅰ) (前)		
担当者名	武井 寛(タケイ ヒロシ)		
配当年次	3・4年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	木曜2限
オフィスアワー	水曜4限		

講義の内容	個別労働者の保護に関する法領域を扱う。実定法としては、労働基準法および労働契約法が中心となるが、均等法、派遣法、労災保険法等、さまざまな個別法にも触れることになる。また、契約論的視点からは、民法も参照することになる。個別の労使紛争解決手段として、裁判所、行政機関、労働審判等の多様なツールが用意されているので、それぞれの特徴についても留意したい。
到達目標	労働者保護の法と仕組みについて理解する。
講義方法	あらかじめ配布する予定のレジュメにしたがって、必要な内容について順次講義する。パワーポイント等を必要に応じて用いる。
準備学習	日々の新聞記事における労働関連のニュースに敏感になること。
成績評価	講義の途中に行う小テストと期末テストの成績によって評価する。
講義構成	1 講義内容の紹介＋労働者保護法の歴史 2 労働条件の決定システムと労働法上の基本概念 3 労働契約の成立過程(募集・採用・試用) 4 労働契約の基本原則 5 労働契約と就業規則 6 賃金 7 労働時間その1(時間概念と弾力的労働時間制度) 8 労働時間その2(休憩・休日・時間外労働) 9 休暇・休業・退職、セクシュアル・ハラスメント、女性・年少者保護 10 人事その1(配転・出向・転籍) 11 人事その2(懲戒処分、人事考課) 12 労働災害 13 労働契約の終了と解雇 14 労働条件の変更 15 労働者派遣
教科書	初回講義時に提示する
参考書・資料	『労働判例百選』有斐閣。その他必要に応じて提示する。
担当者から一言	働く際の重要な問題を扱います。その多くは高校生まで(つまり、働き出す前)に、実は知っておいてほしいことでもあります。